

クラシ谷の早春 (鈴鹿)

榊原 計画

日本300名山登頂プラン

ODSS

●参加費に含まれるもの/ガイド料、運送費、キャンプ泊の場合は2食付き宿泊代および団体旅費費用(宿泊施設利用の場合は現地実費掛)となります。●ツアー共集合から解散まで専用車で移動します。●キャンプ泊を行うツアーには、昼休時間を含み上げるヘルパーが同行するプランがあります。

野伏ヶ岳と大日岳 (旅館泊) ●3月9日(火)~10日(水) ●3月13日(土)~14日(日) 集合・解散/JR岐阜駅 25,000円	毛馬山(無人小屋泊) ●5月11日(火)~13日(木) ●5月14日(金)~16日(日) 集合・解散/JR魚津駅 39,000円
金剛山と大和葛城山 ●3月20日(土) 集合/JR名古屋駅 解散/近鉄桜井駅 5,000円	毛馬三山縦走(キャンプ泊) ●6月14日(金)~16日(日) 集合・解散/JR魚津駅 50,000円
南門岳と伯母子岳・羅摩山(民宿泊) ●3月21日(日)~22日(祝) 集合・解散/近鉄 桜井駅 24,000円	位山~川上岳縦走と舟山(民宿泊) ●5月22日(土)~23日(日) 集合・解散/JR岐阜駅 26,000円
男前岳と大佐淵山(キャンプ2泊) ●4月16日(金)~18日(日) 集合・解散/野岩鉄道上三依塩原駅 46,000円	安曇路山~越前山縦走(山小屋泊) ●5月28日(金)~30日(日) 集合・解散/JR名古屋駅 45,000円
男前岳(キャンプ1泊) ●4月17日(土)~18日(日) 集合・解散/野岩鉄道上三依塩原駅 27,000円	飯沼山 登山付近と天狗山・会山(キャンプ2泊) ●6月4日(金)~6日(日) 集合・解散/JR南小谷駅 45,000円
猿ヶ島嶺山と賢ヶ岳(旅館泊) ●4月9日(金)~11日(日) ●4月13日(火)~15日(木) 集合・解散/JR岐阜駅 32,000円	御海新道 白馬岳~親不知縦走(山小屋2泊) ●7月17日(土)~20日(祝) 集合・解散/JR白馬駅 45,000円
猿ヶ岳と大笠山(キャンプ2泊) ●4月23日(金)~26日(日) ●4月27日(火)~29日(祝) 集合・解散/JR金沢駅 48,000円	甲斐駒ヶ岳~霧岳縦走(キャンプ2泊) ●7月30日(金)~8月1日(日) 集合・解散/北沢峠 50,000円
景観山(山小屋泊) ●4月29日(祝)~5月1日(土) ●5月2日(日)~4日(祝) 集合・解散/JR沼田駅 27,000円	飯岳ピストン登頂(キャンプ泊) ●7月31日(土)~8月1日(日) 集合・解散/JR小淵沢駅 29,000円
佐武流山と白砂山(キャンプ2泊) ●5月2日(日)~4日(祝) ●5月7日(金)~9日(日) 集合・解散/JR長野原草津駅 48,000円	刺岳~池の平山縦走(山小屋泊) ●8月6日(金)~8日(日) 集合・解散/立山 宝登山ターミナル 40,000円

北海道の山登頂ツアー

●ベテカリ岳/6月11日(金)~13日(日) 25,000円 ●神威岳/6月13日(日)~14日(月) 15,000円 ●芦別岳/6月15日(火)~16日(水) 13,000円 ●夕張岳/6月16日(水)~17日(木) 15,000円 ●ニベツ山/6月18日(金)~20日(日) 36,000円
●オプクテシケ山~十勝岳縦走/6月22日(火)~24日(木) 40,000円 ●ニセイクウシュベ山/6月25日(金)~26日(土) 16,000円 ●カムイエクウチカクシ山/8月5日(木)~8日(日) 50,000円

詳しくは1999年マウンテンツアーパンフレットをご覧ください。

ツアーのお申し込み・お問い合わせは

クラブオーディー 午前9時~午後6時 **TEL 058-248-4711**

クラブオーディー事務局/〒500-8141 岐阜市月丘町3-13 (ODSS内) FAX 058-248-4722



お水取り (東大寺・二月堂)



桜 (大覚寺)

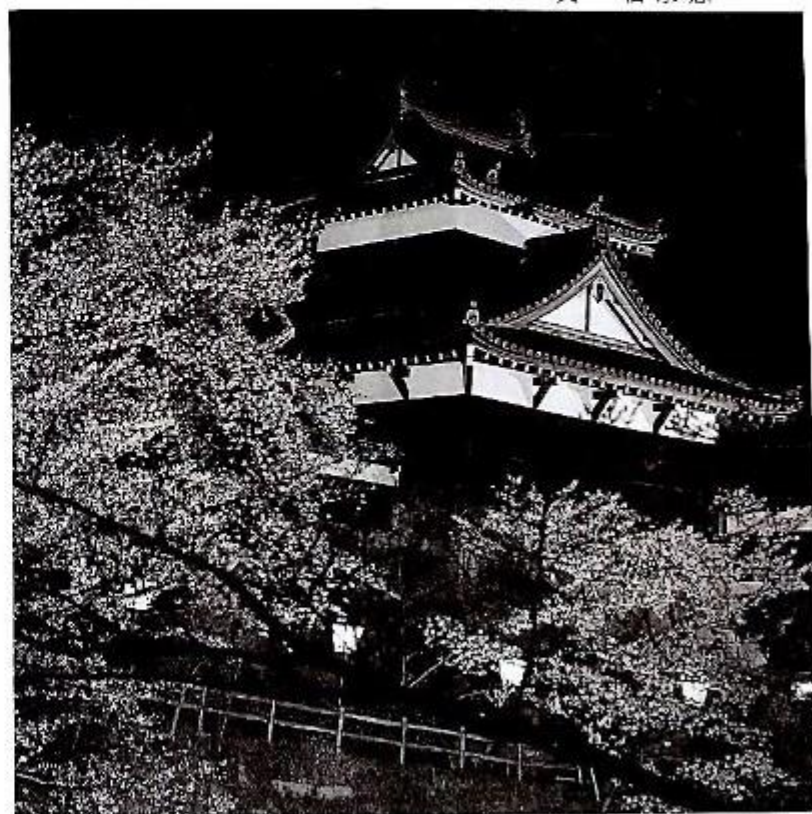
籠松明とよばれる巨大な日本の
松明が回廊を巡り ぐるぐると振り
回されると春がやってくる
ほおっとほの白く見える花明かり
竹の藪を覆って爛漫と咲き誇る櫻
野を渡る小さな風にそよぐ花びら
夕空にひろがる紅の雲を仰ぎ見る
弥生の空に花の唇がほどけ
霞の紅が美しく濃い紅枝垂
『あー』織麗な花に嘆息をあげる
緑なす芝生の上に緋毛氈を敷き
菜の胡麻よごし 木の芽田楽
筑前炊き 卵の出し巻き 香の物
花の下に酒飲む男歌う女が集まり
春のふっくらと温かい空気を乱す

Photo essay

春の宴



題字 中田 蘭石
撮影 由井 収一
文 松永 恵一



夜啼 (郡山城跡)

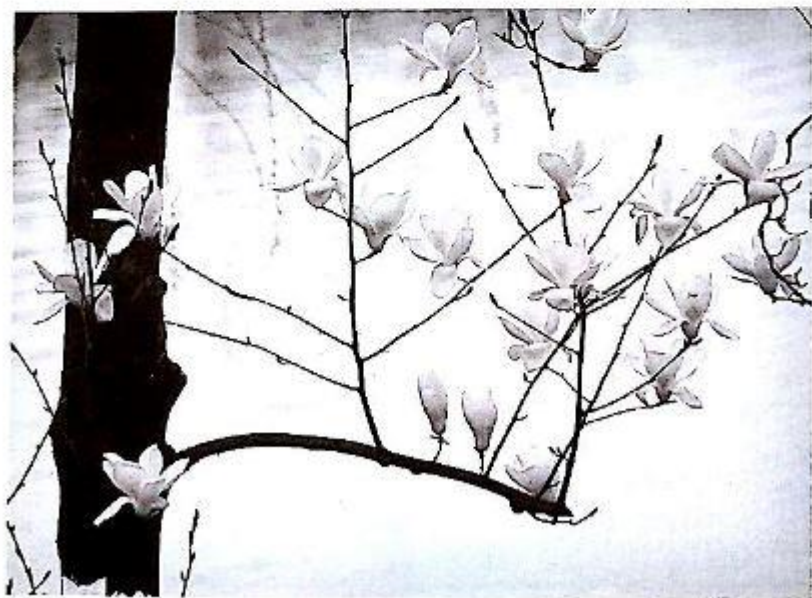
季節の



アカヤシオ



モクレン



コブシ

実景

陽春

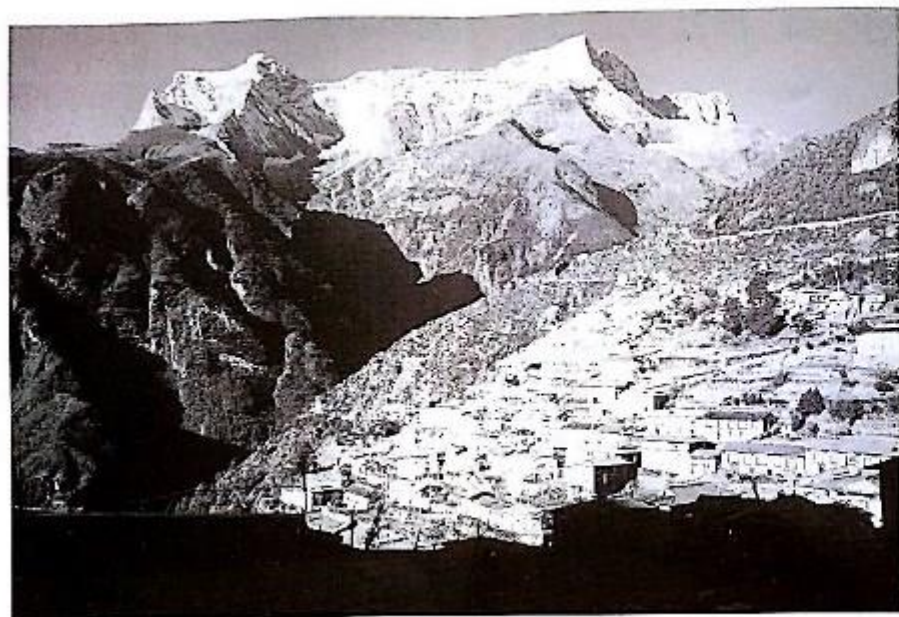
撮影 武市通治



ハルリンドウ



春の信楽路



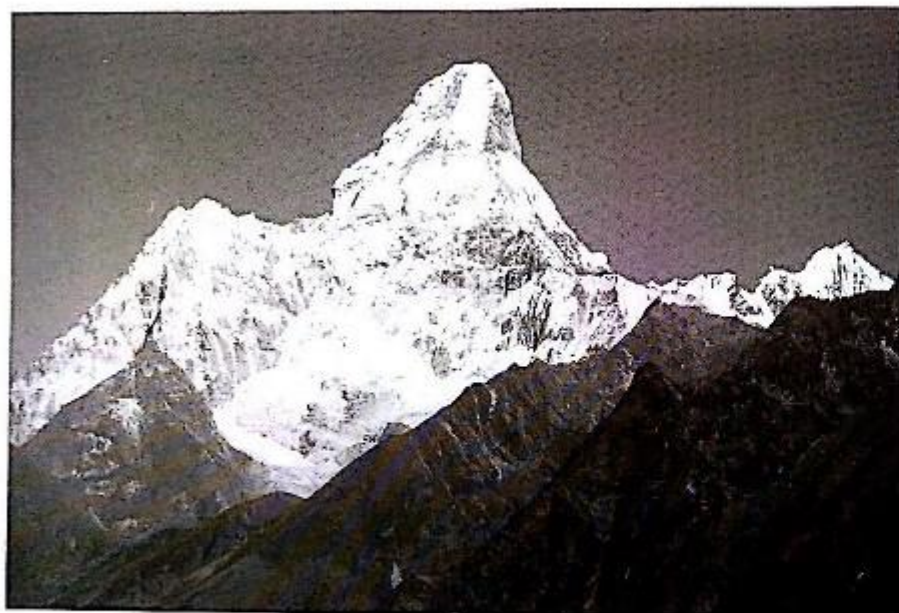
ナムチェバザールの朝 (ヒマラヤ)

言沢 栄一



早春の舟窪 (鈴鹿)

中村 健次



アマダブラム (ヒマウヤ)

言沢 栄一



八風峠より釈迦岳 (鈴鹿)

榎原 計園

花・緑・撩乱の道三景 一 栃ヶ山・櫃ヶ岳 (下市町) にて一

奥田 英一郎



●グライダー

春の宴……………撮影 山井 収 文 松永 恵一
季節の風景(附巻)「ハルシンドウ」他……………武市 透治
(口絵) 藤野計国 中村健次 吉沢栄一 奥田英一郎

●紀行

「ボンボン山」山名考……………柴田 昭彦
続・イタドリ雑考……………橋本 逸雄
酒島太郎のハイキング……………平良 一郎
上から眺んでも山本山、下から眺んでも山本山……………生駒 登雄
金萋岳・白倉岳から花房集落へ(前巻)……………岩野 明
青沢ヶ峯より宮道へ(前巻)……………木村 太郎
磯倉(後巻)……………松田 敏男
津島 日本書紀紀行(番外編)「和歌山津島土記」……………浅野 孝一
聖仙山と藤原岳(後巻)……………藤見 守康
命峰山から甲武信原集落へ(後巻)……………日野 節雄
御津岳(後巻)……………藤原 計国
津島 比良を歩く(前巻)……………藤原 康夫

●一等三角点峰(500以上) 648座(児童の記録)(第12回)

● 奈良部島と東北の山旅……………坂井 久光	47
● 琵琶湖を歩く「柴巻集落を歩く(大津探検)」……………中村 健文	50
● 文学歴史探訪ハイク(河内の国土師の里を訪ねて)……………松永 恵一	54
● 運載 台湾の山々(五箇三葉(第8回・最終回) 中央登山……………山形 巖之	66
● コース 山ウリュウド(後巻)……………藤佐次登一	58
● コース 金島山から夜林管理道(六巻)……………吉村 進	80
● コース 全勝アルプス(大津コース) 全往江油(前巻)……………柴田 昭彦	62
● ガイド 沿線ハイキングガイド……………70	
● サービスチェン……………71	
● せせらぎ……………77	
● 新ハイ關西山行計画と報告……………78	
● バス時刻表(2014年)……………94	
● 編集後記・一言(後巻)……………96	

●巻頭言

昔から、山村に近い山のことを「荒山」と呼び、村人の生活と密着していました。田舎育ちの私には、子どもころは近くの荒山が楽しい遊び場でした。ツクシやワラビ摘みに始まり、溪流での魚釣り・木登り・セミ摘り・カブトムシ捕り・口絵(口絵)……。秋にはドングリなどの木の实採りやキノコ狩り、年末には正月のお飾りのモロムキ(ワラジロ)採り、冬はわなをしかけてヒヨドリやウサギを獲り、ソリやスキーで遊んだ思い出も忘れられません。また、炭焼き・材木や薪の生産・山菜採り・狩場として、山村の暮らしに山は欠かせないものでした。

ところが、生活様式が一変し、林業が衰退するまで、山の恩恵が忘れられつつありました。一方、宅地やゴルフ場が開発され、産業廃棄物やゴミの捨て場にもなってきました。山が荒れ、雑木林も少なくなってきました。これら山麓に近い低山を私には現代「里山」と呼んでいます。荒廃が徐々に見直されつつあります。山サクラが点々と咲き、ツツジやヤマブキの香るなかを歩いてみましょう。「里山」の良さが認識できるでしょう。

新ハイキング関係(代表) 村田 賢俊

新川代ダ 別冊 西の山 98年3・4月 第45号

●目次

表紙：松田敏男「夜叉ヶ池のカタクリ」(奥美濃)
● 作中のプロフィール(1949年、京都生まれ、京都市立芸術大学卒、1987年より山岳雑誌、山岳西の巻編集長、南アルプス(小巻)、東京ギャラリー(白巻、巻) 京阪山と特に関心、日本山岳会員、一宮三内山岳会会員)



克



克

随想 (山のエッセイ)

「ボンボン山」 山名考

柴田 昭彦

ボンボン山というユニークな山名については、本誌20号で網本氏によって緻密な考証がなされている。すなわち、神峰山寺は古代の七高山の一つで根本山宝塔院と号し、ボンボン山の山名は「根本山」に由来するといふものである。神峰山については、「かおせん」「かおざん」とも呼ばれるようだ。ここでは、網本氏の考証に見当たらないものを幾つか拾って紹介してみよう。

『五畿内志』(享保二十年、1785)の二つの「摂津志」の島上郡の項目に、「神峰山、在原村東北、為「山丹」「州界」拾芥抄称「七高山之一」山中有一寺

寺北有「加茂勢々岳」今入三山州」とある。ここに「加茂勢々岳」とあるが、高頭式「日本山録志」(明治三十九年)では「加茂背嶽」となっていて、微妙に異なる。ボンボン山の2等三角点の点標名は現在「加茂勢山」というが、「摂津志」が古典といえるようだ。

寛延元年(1748)の「撰津国名所大絵図全」には、山名として「神峯山」とあり、寺名として「根本山本山寺」「根本山神峯寺」とある。ボンボン山が正式名として登場したのは、明治四十二年測図、四十四年版・発行の陸地測量部による「二分一地形図(山崎)図幅」からである。これ以降、登山者の注目を集めたことは想像するに難くない。

があり、後のガイドブックの先駆として注目される。「ボンボン」といふ奇妙な名前には、比較や生駒などの名山を登りつくした登山者の眼を裏先きに引きつける。そうして本山寺よりボンボン山越しに、普賢寺西山廻りといふ行程は、もう月並になつて、奇妙な名前のボンボン山も、何時の間にか名山に数へられるやうになつた。

此山は山頂の平が望海になつてゐるためか、足ふみするとボンボン音がする、それでボンボン山といふらしい。併し此ボンボンは、音すると云へば音するらしいといふ程度の頼りないもので、私はそれよりもボンボン山の眺望を挙げたい。

こうして、今日のコースガイドが必ず採用している「山頂で四股を踏むとボンボンと音がする」という俗説が成立していったようだ。

なお、文中で、その発生する音を「ボンボン」でなく、わざわざ「ボンボン」にしているのは、聞きとりにくい鈍い音であることを強調したためなのである。

高田収編「中高年向きの山100コース」(東西編)山と溪谷社、1982年)は、ボンボン山の名前が根本山寺のコンボンに由来するという説を紹介しているが、「名前が変わった時代は、ワラジから地下足袋を経て登山靴が普及し始めた明治の後期である」と記している。

「中高年の山歩き・山登り」(主婦の友社、平成8年)では、「三角点から南南東に大きく3歩、片足で強く踏む。「ボン」と地面がたわんだように靴の裏に伝わる。度敗した樹木が埋まるのか、石室が隠れているのか、コマンが匂う。今の山名は頑丈な登山靴を履くようになってからついた(赤松道)と、具体的

な地点まで示している。考えてみれば他の山でも、底の硬い登山靴であれば、踏んでみた時に同様の感触を得られることはわりとよくあることで、山名に魔法をかけられたようなものであろう。

だがコンボンからボンボンを思いついたのか定かでないが、誠に絶妙な発想である。

続・イタドリ雑考

網本 逸雄

「イタドリ雑考」が本誌40号(89年5・6月号)に掲載された後、講談社より「暮らしのことば」(語源辞典)(山口佳紀編)が発行された。「ことば学」が従来言語学を日本語学から洗い直したという趣込みだ。「イタドリ」については新説が出ています。語源はタデ科イタ

ドリ(多年草)の古語、多選(タデヒ、タデ)系だということの。「イ」(接頭語) + タドリ(接尾語)で、タデ・タデ・タドリだとする。同じタデ科仲間だからタデ、タデが同語で語尾のタ行変化だという。

拙文では取り上げなかったが、タデヒの初見は「日本書紀」反正(仁徳の子)条に、反正誕生の時、産湯を使うが「時に多選の花、落ちて井の中にあり、よりて太子の名とす。多選の花は今の虎杖の花なり、故に多選比喩曲別天皇」とある。「古事記」は「雙之水樹別命」注、天孫等は天武朝以降説が多い。反正の宮部は河内国多治比之(大阪府羽曳野市の山丹比古あたり)だ。

タデヒは、麩の古語でもあり、イタドリの赤紫の斑点が似ているからというのが通説である。毒蛇を古語でハミミといひ、タデヒはタデバミの約ともいひ



克

「六〇〇」。タテの古例は、「蛇」以外にも「立」(起)「水」(古代は直刀、斬つぬもある)など、直線状の意味を含む語に多い。一方、タテ(蛇)は、一年草のタテ科タテ成の総称だが、とくにヤナギタテを称した(牧野富太郎博士)。タテの初見は「日本書紀」と同時代の「出雲風土記」(巻三)に、塩振島(松江市手開町の北、川中の天神島、永(水)忍(婆)あり」と、漢名・婆をすでに用いている。「新撰字鏡」も「太言」「婆、また太良」と「伊本止利」と別項で扱い區別している。

魚や鳥など臭みのあるものにタテの葉や花穂をそのまま添え、酒席用の趣味にした。「万葉集」にこの野草にこと寄せた感れ歌があるくらいだ。

「軍とも草はな列そ八穂葉を」勳績の朝臣が被差を列れ(平群朝臣、巻一六、3842)、予どもたらよ、草は列るなよ、それ

より、穂積朝臣のあの臭い被差を列れよという意。八穂葉と穂を掛けて被差のほははしい穂積朝臣をからかった歌だ。それに對し「いづくにぞま矢担る」同義。群の朝臣が鼻の上を覆れ(穂積朝臣、巻一六、3843)、庄米(かま)を覆る岡はどこか、赤鼻の豆群朝臣の鼻を覆ればよいのだ、とやりかえしている。タテ(多態)ではこの戯れ歌は成り立たない。

タテの仲間には日本に50種ほどあるといわれるが、辛味のあるのは本種だけである。タテの語源は、「口舌辛いところからタダレ(蛇)の意味で、辛味からきている」ともいう(和訓栞)。

こうみてくると、同じタテ科だから、古訓の語彙が転化したというのには牽強附会の感がある。タテ「科」というのは、後生の科学的な植物分類である。また、穂葉の少ない古代に意味のない被差語・被差語をむやみに

に行けるのだろうかという疑問が表れる。

近藤淳文氏はタテについて、植物の生活型には、藪藪型や養生型、ロゼット型などがあるが、人の踏み込まないところでは直立型のものが多い。「立」の字を当てる(「木の名、草の名」保育社カラーブックス)と指摘している。

なお、イタドリ(古語は、サイタツマ、イチシ)ともいわれるが略す。

浦島太郎のハイキング

平良 一郎

「十年ひと昔」という言葉がある。とすると、私がハイキングを始めたのは、もう四世も前にならうか。とにかく高校生の頃から、近くの野山を徘徊していた。



克

随想 (山のエッセイ)

その後、長いブランクがあり、つい最近再開したところである。

四十年前と現在とでは、野山の様子がすっかり変わってしまった。四十年前には見慣れなかった世代の人々が、とうてい考えられなかったような派手な格好で山を歩いている。かつて私の歩いていた野山はどこへ行ってしまったのだろうか。

見るごと、聞くごとが知らないことばかりで、まるで浦島太郎になった私は、戸惑いながらハイキングしている。

「トレッキング」とか「マウンテン」をかういふ言葉が、いづのまにか流行っている。

「ワンダーフォーゲル」という言葉は、大文字のワンダーフォーゲル部という以外には使われることはないし、「飯意炊さん」も使われなくなりました。

「ピクニック」という用語もあまり聞かなくなりました(六甲山麓

蟹の仁川ピクニックマウンター、金州山のピクニック広場は、昔からの地名として残っている)。

現在、野山は中高年者の健康増進と気分転換の場になっているが、かつては、若い人の青春謳歌の場であった。その頃に山を歩いていた若人はいったいどこへ消えてしまったのだろうか。

よく考えてみると、それは現在の自分の姿にほかならない。高校生だった私が、四十年間の時間の経過で、四十歳分だけ年老いてしまったように、時の流れは万人平等に与えられて、当時の若いハイカーが、みんな揃って中高年層といわれる年代に達したということらしい。

極言すると、この四十年間、私よりも若い年代の人はほとんどがハイキングに新規参入しなかったのではないか。

その間に登山用具も様変わりした。以前は存在しなかった用

具もある。マウンテンストックの流行は、山を歩く人の老齢化現象との相関関係を感じる。私の必携装備に新しく加わって便利になったのは、携帯電話とザックカバーであり、残念なのは老眼鏡である。

ハイカーが高齢化したわりには、カラフルな服装になった。またぞいたくハイキング専用の用品を製備するようになっていく。私がハイキングを始めた頃は、経済的な理由からか、ハイキング専用の服装・装備を持っている人はきわめて少なかった。ほとんどが着古した服装、手作りの被褥であった。

浦島太郎の私は現在でも、昔のハイキングスタイルから脱皮できないままに、地味で質素な格好をして、平然と歩いている。

リュックサックにしても、現在では縦長型でサイドポケットのないものが流行している。ハイ



随想 (山のエッセイ)

キング装飾のガイドブックにも「古くからの登山用ザックのスタンダードになってきたタイプである」と説明されていて、昔からこのタイプが主流であるように紹介されている。

そんなことはない。私が若い頃には、ワイドキスリングザックと呼ばれる、楕長型で大きなサイドポケットの付いたタイプが主流であった。このワイドキスリングザックの上にビッケルを水平に積んでいたが、リュックザックからビッケルがほとんどはみ出さなくらい機長の代物であった。

今頃流行の縦長タイプも存在したが、これは、岩登りの場合に使うサブザックであり、アタックザックと呼ばれていた。

現代主流のサイドポケットの付いていない縦長型のリュックザックがハイキングに適しているとは、私にはとても思えない。

登ってみることにした。もっとも私の本来の目的は、周辺の二等三角点の山に登ることであるのだが。

名神ハイウェイから北陸自動車道に入り、長浜インターで降りて北上する。平野の中にこんもりと頭を持ち上げている山がある。低いが、田圃の中の孤立峰で形がよい。

地形図では、山麓の山木の村から山頂まで極広の道が記入されていて、車で登れる山と書いていた。しかし、村の人に訊いてみると「車では登れませんよ」との返事であった。

登山口の朝日神社の前に車を駐める。神社の入り口に「山本山登山口」の標板が立ち、お寺の参道の石段がのびている。石段を登って行くと、ここまでの遊歩員等が設置され、やがて常楽寺が現れる。参道の周囲には上半身だけの羅漢像がたかきん並び、それぞれ人生訓のよう

当時、登山靴一足の値段は、おおよそ大卒卒初任給の二ヶ月分であった。つい先口、思い切つてオールレザータイプの高級級の登山靴を購入したが、現在の一日分の給料にも満たない価格であった。

できるだけ手作りで、できるだけ安いものを、できるだけ代用品で済ませた古い時代の山歩きの概念を、私はいつまで引きずってゆくつもりなのか。長期間の時間差を克服して、いつになったら、現在のハイキングになじめるのだろうか。

浦島太郎は、心中で苦笑いをしながら、黙々と山を歩いていく昨今である。



な短歌が添えられていた。帽子を被った巨人の姿もあり、甲なる仏像というわけではないらしい。少し上に日露戦争時代の大きな忠魂碑があるので、それに因んで作られた明治時代のものらしい。地蔵になった遊歩道は幅が3メートルあり、ゆうに車が通れる広さがある。地図の実線記入はこの広さのためらしく、林道と間違えたのである。

山頂近くになると、二の丸・三の丸の跡が現れ、やがて本丸跡となる。城跡とは知らなかった。ちなみに三ヶ所は本丸跡の片隅の高台にある。

二の丸跡は琵琶湖のよい展望台で、ベンチに座つて眺めると、鏡のような湖面に竹生島が小さく浮かんでいた。

傍らの案内板には「近江湖辺の道」とあり、北へ尾根伝いに膝々岳までハイキング道が描かれていた。ここまでの登りは40分程だったが、膝々岳まで足を

上から読んでも山本山
下から読んでも山本山

生駒 善峰

「上から読んでも山本山、下から読んでも山本山」。たしか海苔の会社のテレビコマーシャルだったと思うが、語呂がよいので記憶に残っている。ところがその「山本山」が実在するものである。

三角点の山を調べていると、滋賀県の湖北、長浜市と木之本町の間あたりの湖畔寄りに、標高3241mの二等三角点が発見されているこの山が見つかった。標高が低いから登山としては少し物足りないかも知れないが、琵琶湖の展望は良さそうである。

湖北には、長浜・木之本等の観光名所や、小谷山・膝々岳などの古戦場もあり、訪ねる所に事欠かないので、観光を兼ねて

のばせば一日楽しめることだろう。

長浜の郊外に、やはり二等三角点のある小さい田村山があり簡単に登れる。その他に虎御前山、戦国時代の歴史の山・小谷山も近くにある。

また長浜市内の観光や、彦根城など、周辺の観光にも事欠かない所である。そうして最後に須賀谷温泉で汗を流せば、よい行楽の一日が過ごせるだろう。

「上から読んでも山本山、下から読んでも山本山」と、コマージュナルンクを口ずさみながら、海苔屋の屋号と同じ山に登ってみるのもおもしろいではないか。

*余呉町下余呉から標高432mの膝々岳を分岐点として、木之本町飯浦と湖北町津里までの二コースに分かれる約12kmの自然探勝道(余呉町・膝々岳・山本山歩道)が整備されている。(注編集部)

残雪の尾根を歩く

金糞岳・白倉岳から花房尾根

湖北

岩野 明

冬の山は鈴鹿を中心に登っている。御池岳や雲仙山に向かう道路から、湖北の雪山が遠望できる。そのなかでひととき目立つ伊吹山。その奥に金糞岳と白倉岳の稜線が、いつまでも真っ白い高峰を見せてくれる。

以前、霧登になった時季に金糞岳に登ったが、頂上直下で雪が降りだして吹雪のなかをくだったことがある。里はのどかな日和で、百代の作業が始まっていた。湖北の山は里の気候とは全く違うと感じた。

もう一度登ってみたいと思っていたところ、3月6日、気温が高くなるで4月の陽気だった。バイクで近江高山から鳥

越林道に登ったが、雪が深くなくて進めない。その時、京都のパーティ5、6人といっしょになり、林道を歩いて中津尾根の登り口に着いたのは12時。

尾根を登り始めたが、気温が高くてくされ雪が膝上までもぐもぐ。カンジキを着けたが重いだけであまりもぐり、なかなか進めない。池状の頭で遅い昼食。正面に金糞岳と白倉岳から花房尾根の稜線が手に取るように望め、大きな雪庇が張り出している。その花房尾根をいつの日か歩いてみたいと思った。その日は小朝の頭で14時30分になり引き返した。

白倉岳と花房尾根が気になり、浅井町役場に電話で問い合わせた。4月になっ

金糞岳山頂より白倉岳と花房尾根

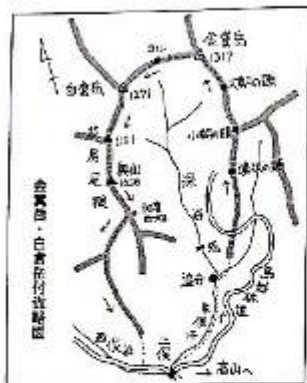


て雪が落ち着いた時期(10日頃)に朝早く登り、金糞岳を10時半までには通過するように。また、スパッツだけでも歩けるといふことだった。

本によると、あの単独行で有名な加藤文太郎が下山に通っているという。地図

を見ると奥山から尾根が三方向に分かれている。まず奥山に登って、下山のルートを確認することにした。3月21日、近江高山の二俣までバイクで入り、山仕事の人いろいろな教えてもらって登った。鉄塔の下から道があり、尾根に古い道がある。南側は植林したばかりの斜面が続く。古い道が奥山の下まで続いている。

奥山まで2時間40分で登った。やはりすごい。奥山から先の稜線は雪も多く、雪庇がかなり張り出している。白倉岳から金糞岳、そして中津尾根が手に取るように望める。くだりは1時間40分でおりました。4月3日快晴、7時30分に二俣に着く。きょうはかなり気温が高い。カンジキも持って7時30分出発。退分まで45分。広



場一人用のテントがあるが、持ち主は登っているようで人の気配はない。中津尾根を登ると、連状の頭の下で急に雪が多くなる。しかも、くされ雪で膝までもぐもぐ、カンジキを滑らせて歩いたが、地肌の中にもあり歩きづらい。連状の頭からは雪の丘が連なってきた。人は登っていない。小朝の頭を登る時、下から一人登ってきたので手を振って示える。小朝の頭で小休止。雪もかなり止まってきた。大朝の頭を登りだして疲れたのでカンジキを外し、コーヒーを飲んでいる間に追い越された。この人は退分のテントの持ち主で、虫の調査をしに深谷に入ったが、天気が良いので登ってきたとのこと。その人の後を登る。登るにつれて視界も開け、奥美濃の山々が望める。やはり雪の丘が鈴鹿とは全然違う。白一色でアルプスを登っているようだ。峰にはマンサクの花がかなり咲いていた。

金糞岳に11時30分に着いた。白山や御嶽山も望めると思っていたが、春霞で見えない。白倉岳に向かってトレースがある。前週に単独行で登っているようだ。写真を取り合って早々に白倉岳に向かう。深谷のコルからの登りはかなり急だ。

トレースをたどって登ったが、雪がゆるんでいるのでかなりもぐもぐ、約半分登った時、左太股がひきつりだした。左足が上がない。左手で太股をたたくながら、休み休み登る。

何とか頂上の尾根に登り着いて、地肌の出ている低い灌木のなかで昼食にした。足がつるのは久しぶりだ、以前2、3回あったことがあるが、きょうは少し早すぎる。先が思いやられるが、ここから引き返しても距離は変わらない。

日の前に奥山までの稜線がよく見える。花房尾根のほうに登りは少ない。足も治ってきたらしく、少し歩いてみたが何ともない。金糞岳と違い、白倉岳は山頂の尾根が狭く、深谷側は垂直に落ち込んでいる。眺望はすばらしく360度の大パノラマで、近江平野と琵琶湖が望め、その先は春霞のなか。後ろは横山岳の黒い巨体、そして奥美濃の山々が続く。

カンジキを着けようとしたら途中で落としたのか、止め紐がない。予備紐を使う。雪庇の上を注意しながら進む、白倉岳の頂上に着いたが、三角点は雪の中で分らない。

あとはいくらだ。雪山のくだりは早い。

アミューズトラベルの山歩き

鈴鹿・藤原岳 4/14(水) ¥9,500 4/17(土) ¥9,900

丹波・三尾山 多紀アルプスの主峰へ 4/18(日) ¥9,900

播州・笠形山 播州富士とも言われる秀麗な山 4/22(木) ¥8,900

鈴鹿・御在所岳～湯ノ山温泉 4/18(日) ¥9,900

宮之浦岳～縄文杉縦走 4/24(土)～27(火) ¥132,000

世界自然遺産にも登録された、山も森もすばらしい憧れの屋久島を縦走します。

大峰・大天井ヶ岳と観音峰 4/28(水)～29(木・祝) ¥28,000

大峰奥駒ルートを通るのベストシーズンに歩きます。

大峰・大普賢岳～八経ヶ岳縦走 5/1(土)～3(月・祝) ¥48,000

名峰大普賢岳から近畿最高峰・八経ヶ岳へ大峰の主軸線を縦走します。

宮之浦岳と縄文杉 5/1(土)～4(火・祝) ¥139,000

大人気！屋久島のゴールデンウィークのプランです。お申し込みはお早めに！

台湾最高峰・玉山(3952m)登頂 4日間

海外登頂の第一歩。標高3952mの登山コース。日本からのベテランガイドと現地登山協会のガイド同行で安心登山です。

期日 4月14日(水)～17日(土) 特別価格 ¥118,000!!

世界遺産登録地2カ所を巡る中国五大名山

泰山ハイキングと孔子の故郷 曲阜を訪ねる5日間

期日 4月26日(月)～30日(金) 料金 ¥118,000

中国 黄山(1873m)ゆったり縦走 6日間

雲上の玉屏廊に宿泊し、「蓮華峰」や「天都峰」に登ります。

期日 4月29日(木・祝)～5月5日(火・祝) 料金 ¥228,000

世界自然遺産 中国「武陵源」を訪ねる 5日間

幻幽の世界、現在の桃源郷「張家界・天子山」を満喫します。

期日 4月8日(木)～12日(月) 料金 ¥148,000

新パンフレット(84ページ)は3月上旬完成です。ご請求下さい。(無料)

国内は総合パンフレット、海外は詳しい資料あります。お問い合わせ下さい。

アミューズトラベル株式会社 電話 06-6265-3303

運輸大臣登録旅行業第1306号(社)日本旅行業協会正会員
〒541-0053 大阪市中央区本町4-5-3 本町三井ビル2号館8F FAX 06-6265-3306

一気におりる。気温が高く雪はかなりゆるんでいる。次のピークに登りだしたら2〜3分で、また左足がひきつりだした。休み休み登る。ピークを越えようと足は何ともない。トレンスは途中から右八重峰にくっついていて、さきに進み、次のピークを登る時、今度は両足がひきつりだした。ゆっくりゆっくり何とか登ってピークで休む。最後のコーヒーを飲む(11時)。奥山は目の前、15時には着けそうだった。足が治ったので歩き始めると、クマの足跡が右斜面から尾根に上がり、尾根上を奥山に向かっていく。通ったばかりらしく新しい。大人の手の平ぐらいいある。かなり大きなクマだ。見通しはよく、近くにはいないようだ。大声を出しながら進むと、足跡は深谷におりていた。谷を覗いたが分からぬ。尾根はかなり切り開かれてテープ印もある。クマザサと地肌が出てきたのでカンジキを外し、急いで奥山に登って谷を縦走したが、近くにクマはいない。が、古い足跡がかなりある。急いでおりたら右に曲がる所を見失ってしまった。どうも道が違う。かなりおりてしまったようだ。このままくだらうかと迷ったが引き返す。登りだしたが

なり雪にもぐる。南斜面の地肌の出ている所を登る。登れそうな木を探したが、どの木も大きく手頃な木がない。6分程登った所に、上の木が倒れ下の木と重なっている。その木に登って確認すると、やはり道を間違っていた。斜めにトラバースしてやっと下山道に出た。クマの足跡を見てから、足のことなどを忘れてしまいひきつることはなかった。古い道に出たら、体半分がすっぽりもぐってしまふ。道の横のブッシュをかき分けてくぐる。道のなかを雪解け水が流れている。休んで冷たい水を腹一杯飲む。こんな尾根道で水が飲めるとは思ってもいなかった。くだりの尾根筋にはタムシバの白い花がかなり咲いている。二俣の橋に17時15分に着いた。

白倉岳で足がひきつりだした時はどうなるかと心細かったが、クマの足跡に出遭い、緊張が一気にくだった。久しぶりにスリルのある最高の雪山を楽しむことができた。家に帰り、ゆっくり風呂に入って、足を洗った。テレビを見ながらビールを飲んでみると、両足が急にひきつりだした。急いで床に入りマッサージしたが治らな

い。両足がカナシバリのようにつくつて痛い。両手で這って行き、ネカロンを二個出して、両方の太股に当てて約30分静かにしていたら徐々に治ってきた。

このコースは、4月の雪が落ち着いた時期、3、4名のパーティーで登ると最高のルートになる。二俣にはキャンプ場もあり、一泊するのにもよい。奥山からのくだりは要注意。約90度曲がる所にはテープ印がある。雪が消えると、花房尾根は白倉岳の手前2000〜3000mははやで通れないとのことである。

金葉の尾根の残雪踏みしめて登りし峰にマンサクの花
花房の尾根の残雪かき分けてくぐる道筋タムシバの花

▲コースタイム▼
二俣(45分) 追分(2時間) 小朝の頭(2時間) 金葉岳(30分) 白倉岳(2時間) 奥山(2時間) 二俣

*雪の状態でかなり変わる。
▲地形図▼2万5千円 近江川合
▲問い合わせ先▼
浅井町役場企画広報課
0749(74)3020

『万葉集』歌枕紀行

青根ヶ峰より宮滝へ

吉野

木村 太郎

見れど飽かぬ吉野の川の常流の
絶ゆることなくまたかへり見む

(巻一、うさぎ)

宮廷歌人の柿本人麿が持統天皇の吉野行幸に従駕した時、吉野の川を詠んだというこの歌は、史跡宮流遺跡に歌碑として立てられている。

その宮流遺跡の発掘をみてから、いつしか吉野離宮旧跡は、水清く風光明媚なる山河に囲まれた吉野町宮滝と特定する説が定着してきた。だが一方には、吉野離宮は川上村大滝に所在したという、折口信天らによる研究も世に知られたものである。そこで今回の万葉めぐりは、二つの吉野宮と言いつたえられている、川上

村大滝と吉野町宮滝とを結んで歩くことにした。

大滝から青根ヶ峰へ

近鉄大和上市駅で湯盛温泉行きのバスに乗り込んだ朝は、明るい日差しに包まれていた。車を迂回して1時間近く走った後に、大滝の停留場で降りた時は曇り空に変わっていた。道中には芭蕉の句碑が出迎えてくれた。吉野川に背を向け、西雨への道を登り始める。少し歩くと雄略・持統天皇行宮址碑の立つ竜泉寺がある。昔まで出るとまっすぐに林道がびびっているが、峠道を右に折れ、道なりにくたっていく。音無川に架かる小橋あきつ

虹光と称される蜻蛉の滝



橋を渡ると名滝蜻蛉の滝である。

馬並べでみ吉野川を見まく欲り
うち越え来てそ流に遊びつる

(巻七、1104)

この蜻蛉の滝は飛沫に太陽が映え、虹を作ることで知られている。また音無川畔の園地は、春が来ればしだれ桜が吹き、花精の虹を見ることが出来る場所でもある。松尾芭蕉が『野ざらし紀行』の旅の

後に、ここ吉野を再度訪れた『笈の小文』の旅で、「ほろほろと山吹ちるか流の音」と泳んだ俳句は、この地西河で生まれたものだ。大滝の道辺で見えて来た句碑は、この蜻蛉の滝の様子を俳聖芭蕉が写生したものとされた。

名滝の見物を終えて来た道に戻ると、峠までの途中に、「流めぐり飯袋路・吉野山」という案内板が目についた。舗装された紐い道が付けられていて、木立のなかの道なので山へ入っていく雰囲気がある。しばらく進むと、峠からのびてきた林道の終点に行き当たり、登山道へ入る。天候のせい、昼なお薄暗い杉と檜



の樹林帯に挟まれた道をぬうように歩き、トビロ谷の出口に着いて一服する。

耳を澄ませば音無川の深流の瀬音が、古代の調べをさやかに奏でるかのようだ。川の水音のほかには鳥の声もなく、周囲は森閑としている。神秘感漂う来た道を

ふり返れば、語り継がれる古の宮都が目に見えかような気がした。

み吉野の流の白波知らねども

語りし継げば古思ほゆ

(巻三、1013)

胸躍る心地でザツクを背負い直し、右岸から左岸へ小橋を渡り、沢を離れて道を進むと二俣へ出る。青根ヶ峰への道標を確かめて、山腹の坂道をあえぎつつ登る。紀の川水系を駆け抜けていったら月の台風編で道は荒れており、行く手を迷ぐ河木もの倒木を乗り越えて歩かねばならない。

すると、前方に緑の清見寺を立てた大きな船首のような形で、青根ヶ峰の北東山稜が姿を見せた。はやる気持ちを押え、林道を横切って、船のタラップを昇るように取り付けられた鉄階段を上がる。奥へ奥へと九水を添えた道に誘われて登り着いた場所が吉野山の最高峰で、3等

三角点のある青根ヶ峰(858m)の山頂であった。

み吉野の青根ヶ峰の苦路
誰か織りけむ経緯なしに

(巻十、1104)

最近、年輪のせいかわれがひどい。山行には携行すべき腕時計を忘れてきたので、高度の確認ができない。携帯電話の時刻の表示を見ると12時を過ぎていた。展望の良い山頂だが、頂合いなので石組みのベンチの上で昼食にした。

青根ヶ峰から宮滝へ

近畿に木枯し1号が吹いたこの日、山頂には風が少し肌寒い。朱顔もそこに山頂を駆けおり、式内金峯神社への道をとる。すぐに旧女人控界の石柱をまたぐ。いま歩く道は山上ヶ岳へ向き、一般には河川より灌漑大橋を経て登られる大峰山、さらには奥新道に続く御徳信仰の聖地を回りゆく道である。

薄日が差して青空がのぞくなか、色づいたツツジが城跡(宮城山)の坂道を登る。高城山は嵐風の展望所になっている。北の正面には竜門ヶ岳に大和富士の顔月岳、西寄りには金剛・葛城に雄雄峰



青根ヶ峰山頂

の二上山、東寄りには三重県境の高見山が望めて、快哉を叫ばずにはいられない大観が広がっている。

み吉野の高城の山に白雲は
行きはばかりてたなびけり見ゆ

(巻二)345a)

舗装された歩きよい散策路を、奥二本から上干本へ移り行くと、吉野水分神社の朱塗りの鳥居を見る。水分とは水の配

分を司る分水嶺の神の名であろうか。吉野山の東に菅無川、西に秋野川、南に黒滝川の流れを水分している、金の御旗をまくくんだりゆくわけである。

部曲「史信」の舞台となった花火合の史跡をくぐったあたりで、宮福への道標を探して小道に入る。雅見城跡の四つ辻へ出て、まっすぐくぐると如意輪寺を経て吉野駅へ至る道だが、その辻を右へ「桜木いせ道」を遊ぶ。すぐの地点に「右いせささ谷 左みそのみち」と文字が刻まれているが、風化して読み難い。その石碑を見て喜佐谷に向かう。

石畳の道を過ぎ、川の水源あたりに来ると、山腰に抱かれた万葉の道の雰囲気がある。静寂の化整岩や源義経ゆかりの高滝など、伝承には事欠かない道であった。はるかな時に王将軍が歩き、そして吟んだ象の小川が側を流れていて、少し疲れた気持ちを慰めてくれる。

昔見し象の小川を今見れば
いよよきやけくなりけるかも

(巻三)316)

聖武天皇の御代に吉野を行幸されたまきりに、天皇の仰せをうけて大伴旅人が作った歌である。過去に見た象の小川

を現在見ても清いと吟んだ旅人。数年後に赴任した筑紫の地太宰府で、再び都へ帰り、清けき小川とのめぐりあいを願った歌がある。

我が命も常にあらめか昔見し
象の小川を行きて見むため

(巻三)333a)

遠い国で望郷の念にかられていた旅人にとって、喜佐の谷間を流れる小さな川は、宮廷歌人として華やかだった都を回想させる風景だったであろう。

喜佐谷川の流れると青根ヶ峰からの流れとが象の小川に合流するあたりは、吉野山頂との出入口になる。山道から舗装路に移り喜佐谷の集落を抜けて行くと、天武天皇をまつる桜木神社の境内に、山部赤人の歌碑が雅神を醸し出している。

み吉野の象山のまの木末には
ここどもさわく鳥の声かも

(巻六)934)

歌人赤人の目は、映画の移動撮影の手法のように、吉野の山並み、象山の隣、繁る木の枝、騒ぐ鳥の声へと、広域から一点に絞って詠み切る。この歌は「万葉集」の中の、自然を歌った秀歌として知られているものだ。



桜木神社本殿と旅人歌碑

象の小川は桜木宮へ設けられる珍しい屋形をのせた小橋、こねれ橋の下をくぐり抜け、夢のわたとなりて吉野川の大川へ落ちていく。吉野川の水の色も、夢のわたの深い淵では、古代色の緑色に近い神秘的な光をたたえている。そして吉野川に架かる柴橋のたもとには、吉野宮流万葉めぐりの起点となる、人麻呂の「見れどゆかめ」吉野への賛歌碑が立っている。

パスの到着までに時間があり、近くの吉野歴史資料館に寄り道した。小高い前庭の土場に立ち向う空を眺めると、象山と三船の山の間に、青根ヶ峰の山の端が顔を見せる。人麻呂・旅人・赤人ら、万葉の歌人のあこがれた美しき山と川を、追いかけて歩いた幸福に胸が熱くなっていた。あまたの歌人たちの思いを照らして来た大和の夕陽が、その輪郭を山に沈

ませようとすると、み吉野の自然も暮れ初めてゆくところであった。

(平成10年11月10日歩く)

▲コースタイム▼

- 近鉄大和上市駅(奈良交通バス・新子経由49分) 大滝(20分) 蛸鈴の滝(50分) トビロ谷(1時間) 青根ヶ峰(40分) 高城山展望所(20分) 水分神社(20分) 万葉の道分岐(1時間10分) 桜木神社(20分) 吉野歴史資料館(5分) 宮流(奈良交通バス15分) 大和上市駅
- △地形区▼2万6千1新子・吉野山 △問い合わせ先▼ 奈良交通吉野営業所 07475(2) 4101 吉野歴史資料館 07463(2) 1349

関西の山日帰り縦走

中庄谷 直著 四六判・二〇〇〇円
六甲、多紀、京都北山、比良、湖北、生駒、葛城、金剛、和泉、全48コース
一日で縦走できるコースを厳選して詳細地図付で紹介。交通機関や所要時間も。

わっさか沢歩き(近畿編)

わっさか沢歩き 四六判・二五〇〇円
大津、台高、南紀など沢を進行図付で解説
美濃の山 ③木曾川水系の山
大垣山岳協会編 四六判・二五〇〇円
東濃・南紀山岳図付最新情報。全三巻完結

ナカニシヤ出版
京都市左京区吉田二本松町2
075-751-1211 7606-8316

奥美濃の美しい三角錐

磯倉いそくら

41という数字を見ると、私はズキッとするのである。下2桁の数字が41の標高の山々は、私がこれまで登ったなかで、大好きな山の集りだからだ、まず最も高い3141峰は南アルプスの悪沢岳、次に2141峰は大雪山系のトムラウシ。そして1841峰は白山北方の笈ヶ岳。三山共奥深く地形的にも風験的にも渋い味わいが魅力。

2841峰は南アルプス奥三山最高峰の観音岳、北アルプスには同じ標高を持つ三保連立岳、南アルプスの前衛には展望抜群の大西山が1741峰。近畿では台高山脈北部の最高点の槍塚奥峰も1441峰、鈴鹿の御池岳も1241峰

松田敏男

奥美濃

◎最高峰は数が高い。それらはどれもが、その山腰のスターではないものの、最高点であったり、奥深い山として私のかつての憧れの峰だったり、また地形としての要だたりして、重厚な貌を持つ山ばかりである。

さて、能観白山に登ったのは10年前の夏。能郷から前山に上がる長い尾根を登った時、左手の谷を隔てて美しい三角錐の山が見えた。地形図で確認すれば、それは磯倉という山。標高が1541峰。その時は単に美しい山だあと眺めていたに過ぎなかったが、その後、高木泰天さんの本「奥美濃」(ナカニシヤ出版)の初版本の表紙カバーの写真が磯倉で、美

白谷登山道

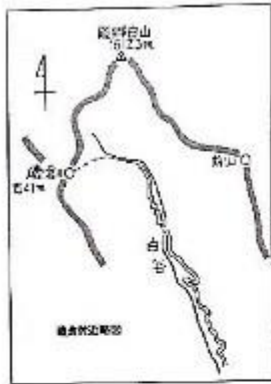


しい紅葉に彩られた三角錐の山が横たわっているのを見て、磯倉に強く惹かれることとなった。しかし、谷を越えないと行けない山なので、私にはとても行けないと思っていたが、岐阜県山岳連盟の本「続・ぎふ百山」の磯倉の記事を読んで、これなら行けるのではと思った。

林道が奥までのびているからである。林道というのは自然破壊の元凶だと思っ

ているけれども、沢登りか残雪期の尾根歩きでしか行けない奥深い山へ、林道開設により行けるようになってきたのは、一面ではたいへんありがたいことである。沢登りにはそれ相応の技術を要するし、私でも行けそうな残雪期の尾根を使っての往復は日数と体力の勝負。「続・ぎふ百山」の記述を読んで、磯倉は俄然行きたい山の筆頭の一つとして頭のなかに大きな位置を占めてきた。しかも標高の下2桁は41。行きたくなる要因に花を添えているという感じだ。

岩井さんが山の会の集いで磯倉の山行計画を立てた時には、その出発時の夜に催される職場の歌送迎会は、私の記憶からすっ飛んでいた。一年間で一万円以上天引きされたものは買物となった。



東斜面から北斜面方向に廻りこむ磯倉の頂上へ突き上げる白谷が残雪で埋まっていることと、標高1100m前後まで上がっている林道に車が通行できない程の積雪がないことと、難しい条件に当てはまるのが4月第二週ではないかと、岩井さんが推測する。一週でも遅れると残雪が減ってやぶが深く、また早ければ谷筋から林道にどさどさと雪崩た雪に行く手を阻まれる。

テント場は能郷の能郷台橋にした。以前とは違って能郷台の橋には大きな看板が設置されていて、明るく照らしていた。果して消灯はあるのだろうか。しかし、ビールを飲んで能郷の土の上に寝ていることの喜びのおかげで、いつ消灯があったのか分からずじまいで寝てしまった。

朝は暗いうちに食事を済ませ、米た道を少し戻って、西へひとつ時を越えて白谷の林道に入る。ゆったりとした流れに沿った林道をずいぶん長い間走ってから、谷を離れ、山腹をヘアピンカーブを切りながら上がり始めると、ぐんぐん高くなっていった。林業などしているように見えない道を、自然破壊には委細かまわず上がっていくといった感じだ。

谷が再び上がってきて、左岸から右岸へ渡る。何度もカーブを切って、どこまで続くのだろうと、岩井さんも私も身体を左右上下に揺らしながら行く手上方を首が痛くなる程見上げながら進んだ。もう終点だろうと思うこと数回、やっと広端のある終点に着いた。

ここまで雪は全くなかった。時期が経過したようだが、相当なやぶごきを経験しなければと、岩井さんと顔を見合わせて先を案じた。車止めの先には大きな堰堤が無愛想に水をうるさく落としているのみ。たれ込めた雪の下には春の芽吹き今のだけなわと、深い緑色が微妙な緑をつくっている。凍泥の積を上げて河原歩きを始める。できるだけ歩きやすい沢が続き、ますようにという心境だ。意外にも白の荷づくりテープが板にくくりつけてあり、ある程度人が入っている様子だ。ちょっとしたかき分けや踏み跡も所どころあって、この様子なら頂上まで行けるかも知れないという期待も出てきた。標高差はたった400m前後だから、やぶごきに正面から取り組んで突破するぞと心に決めた。

山の高い所には雲がかかっているの



白谷雪渓より能郷白山

イラインが能郷白山からの稜線かと思っ
たが、まだその上に斜面が空に向かって
上がっていた。稜がたれ込められているから
ちよっとした距離が遠く感じられていた
よう、一歩ごとに稜線上の水がはっき

どんな景色が広がっているのか不明で、
また春先の花もあまり咲いていないから
きょうは真正面からやぶと観し、地形
図をよく読んで頂上に立つこと、これが
最大の目的と思うようになった。
流れが右へ廻り込んでいて、正面
の小さな流れの左岸に遊んで一段高くなっ
ている所を登る。ここからが本格的な赤
布を付けて行く世界。右側は溜木の向こ
うに本流が流れているようだ。雲がたれ
込められている高さに近づいてきたので、そ
れより向こうの地形は不明だ。小さな流
れを溜木が塞いでいるなかをかき分けな

「後ろや、後ろ。後ろを見てみ」
霧を割って忽然と、そして熾熱と、能郷
白山が膨大な山容を現し始めている。大
きい。とてつもなく大きい。ササの根と
雪渓の白が日光しを浴びて輝く。爽快だ。
ブナ林の屋根筋が光って浮かび上がる。
繊細だ。

「もうだ、頂上だ」
と言い合って腰を下ろした。ビールで乾
杯し、ラーメンを食べ、さあコーヒーと
いう昼食のフルコースの終わり頃、岩井
さんの背後の霧が突然なくなっていく。
「ああ、岩井さん。ああー」
「どうした？ ええ？」
「真実より先にザックの中のカメラを引
張り出す。岩井さんは突然の私の動機が
理解できない。」

「大きいスポットライトがぐるぐる動く
て、能郷白山という立役者の魅力をおお
るかのよう、日矢が山体をなめた。大
見得を切っている能郷白山に思わず、
「羨美讃嘆」
と掛け声をかけたくなる光景が続いた。
荷物を散乱させたまま、私たは日差し
を追ってカメラを左へ右へせわしなく向
けてシャッターを切った。感嘆詞ばかり
が飛び交い、第三者が見ていたならば、
すっかり暗れ上がって、私たちは間違
いなく獲食の頂上にいることが確認でき
た。赤布を回収しながら下山する。晴れ
たので雪渓もさほど大きく見えなかった。
しかし、能郷白山を眺めながらの雪渓く
だりは開放感いっぱい感動的なひとと
きだった。

歴しい4月の、予想していたシナリオ
をほぼ遂行できた満足感で下山した。
(平成10年4月19日歩く)

△コースタイム▽
白谷林道終点(2時間30分) 磯倉(1時
間30分) 白谷林道終点
△地形図▽2万5千II能郷

山と高原地図シリーズ

定価750円(税込)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 利根 黒川 利根 利根川 | 25 白馬岳 北アルプス |
| 2 ニセコ 羊蹄山 | 26 黒岳 北アルプス |
| 3 大雪山 羊蹄山 | 27 船山 北アルプス |
| 4 十勝国境 羊蹄山 | 28 上高地 穂 穂 穂 穂 |
| 5 八幡平 羊蹄山 | 29 黒岳 北アルプス |
| 6 黒岳 北アルプス | 30 黒岳 北アルプス |
| 7 黒岳 北アルプス | 31 黒岳 北アルプス |
| 8 黒岳 北アルプス | 32 黒岳 北アルプス |
| 9 黒岳 北アルプス | 33 黒岳 北アルプス |
| 10 黒岳 北アルプス | 34 黒岳 北アルプス |
| 11 黒岳 北アルプス | 35 黒岳 北アルプス |
| 12 黒岳 北アルプス | 36 黒岳 北アルプス |
| 13 黒岳 北アルプス | 37 黒岳 北アルプス |
| 14 黒岳 北アルプス | 38 黒岳 北アルプス |
| 15 黒岳 北アルプス | 39 黒岳 北アルプス |
| 16 黒岳 北アルプス | 40 黒岳 北アルプス |
| 17 黒岳 北アルプス | 41 黒岳 北アルプス |
| 18 黒岳 北アルプス | 42 黒岳 北アルプス |
| 19 黒岳 北アルプス | 43 黒岳 北アルプス |
| 20 黒岳 北アルプス | 44 黒岳 北アルプス |
| 21 黒岳 北アルプス | 45 黒岳 北アルプス |
| 22 黒岳 北アルプス | 46 黒岳 北アルプス |
| 23 黒岳 北アルプス | 47 黒岳 北アルプス |
| 24 黒岳 北アルプス | 48 黒岳 北アルプス |
| 25 黒岳 北アルプス | 49 黒岳 北アルプス |
| 26 黒岳 北アルプス | 50 黒岳 北アルプス |
| 27 黒岳 北アルプス | 51 黒岳 北アルプス |
| 28 黒岳 北アルプス | 52 黒岳 北アルプス |
| 29 黒岳 北アルプス | 53 黒岳 北アルプス |
| 30 黒岳 北アルプス | 54 黒岳 北アルプス |
| 31 黒岳 北アルプス | 55 黒岳 北アルプス |
| 32 黒岳 北アルプス | 56 黒岳 北アルプス |
| 33 黒岳 北アルプス | 57 黒岳 北アルプス |
| 34 黒岳 北アルプス | 58 黒岳 北アルプス |
| 35 黒岳 北アルプス | 59 黒岳 北アルプス |
| 36 黒岳 北アルプス | 60 黒岳 北アルプス |
| 37 黒岳 北アルプス | 61 黒岳 北アルプス |
| 38 黒岳 北アルプス | 62 黒岳 北アルプス |
| 39 黒岳 北アルプス | 63 黒岳 北アルプス |
| 40 黒岳 北アルプス | 64 黒岳 北アルプス |
| 41 黒岳 北アルプス | 65 黒岳 北アルプス |
| 42 黒岳 北アルプス | 66 黒岳 北アルプス |
| 43 黒岳 北アルプス | 67 黒岳 北アルプス |
| 44 黒岳 北アルプス | 68 黒岳 北アルプス |
| 45 黒岳 北アルプス | 69 黒岳 北アルプス |
| 46 黒岳 北アルプス | 70 黒岳 北アルプス |
| 47 黒岳 北アルプス | 71 黒岳 北アルプス |
| 48 黒岳 北アルプス | 72 黒岳 北アルプス |
| 49 黒岳 北アルプス | 73 黒岳 北アルプス |
| 50 黒岳 北アルプス | 74 黒岳 北アルプス |
| 51 黒岳 北アルプス | 75 黒岳 北アルプス |
| 52 黒岳 北アルプス | 76 黒岳 北アルプス |
| 53 黒岳 北アルプス | 77 黒岳 北アルプス |
| 54 黒岳 北アルプス | 78 黒岳 北アルプス |
| 55 黒岳 北アルプス | 79 黒岳 北アルプス |
| 56 黒岳 北アルプス | 80 黒岳 北アルプス |
| 57 黒岳 北アルプス | 81 黒岳 北アルプス |
| 58 黒岳 北アルプス | 82 黒岳 北アルプス |
| 59 黒岳 北アルプス | 83 黒岳 北アルプス |
| 60 黒岳 北アルプス | 84 黒岳 北アルプス |
| 61 黒岳 北アルプス | 85 黒岳 北アルプス |
| 62 黒岳 北アルプス | 86 黒岳 北アルプス |
| 63 黒岳 北アルプス | 87 黒岳 北アルプス |
| 64 黒岳 北アルプス | 88 黒岳 北アルプス |
| 65 黒岳 北アルプス | 89 黒岳 北アルプス |
| 66 黒岳 北アルプス | 90 黒岳 北アルプス |
| 67 黒岳 北アルプス | 91 黒岳 北アルプス |
| 68 黒岳 北アルプス | 92 黒岳 北アルプス |
| 69 黒岳 北アルプス | 93 黒岳 北アルプス |
| 70 黒岳 北アルプス | 94 黒岳 北アルプス |
| 71 黒岳 北アルプス | 95 黒岳 北アルプス |
| 72 黒岳 北アルプス | 96 黒岳 北アルプス |
| 73 黒岳 北アルプス | 97 黒岳 北アルプス |
| 74 黒岳 北アルプス | 98 黒岳 北アルプス |
| 75 黒岳 北アルプス | 99 黒岳 北アルプス |
| 76 黒岳 北アルプス | 100 黒岳 北アルプス |

昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年春頃
発行されます。この山の数はなるべく最新版をご使
用ください。昭文社「山と高原地図」へのご依頼、ご意見がご
ざいましたら、編集部「山と高原地図」担当までお
電話にお気軽ください。また新編情報も教えていただ
ければ幸いです。

昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11
電話03(3262)2141(代) 102-8230
支社 大阪府東淀川区西中島6-11-23
電話06(6303)5721(代) 532-0011
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・海防・立川・新潟
金沢・静岡・名古屋・京都・広島・福岡

がら、徐々に傾斜が地していく斜面を登
る。見上げると、左手に何となく広がり
があるように見える。ひょっとしてと思
いながら、流れから離れてやぶをかき分
けると、雲があった。そして雪面が上方
に続いている。
「岩井さん、雪渓だあ」
と叫んで雪の上に立った。俄に二人は元
気づいた。一、二度途切れた雪面だった
が、ついに大きな雪渓の下端に立った。
「やったあ、ほんまの雪渓や」
と一段と弾んだ声で思わず叫んだ。霧の
なかの雪渓。霧と雪面との境目がおぼろ

げで、雪の上に立ち込める冷気が汗ばん
できた体に心地よい。アイゼン・ピッケ
ルの世界に出会えた。雪渓歩きは何と滑々
しい登高感であることか。自由気まま、
気宇壮大。今までのやぶからの開放と、
思い描いていたシナリオを実行できたこ
と、そして目の前に大きく広がる雪の斜
面。条件が揃って「一気に極上の気分とな
った。
雪渓のあるいちばん高い所に着いた。
あとは背丈ほどもない溜木の草付き斜面
歩きやすそうな所を選びながら赤布を付
けて登る。右から正面にのびているスカ

連載

日本霊山紀行 番外編 (補遺)

『新篇會津風土記』

松平容衆編

浅野孝一

『新篇會津風土記』は会津地方を中心として編纂された地誌である。

享和三年(1803)6月から業を起し、完成したのは文化六年(1809)4月で、享和の歳月を要した。『會津風土記』は初代藩主保科正之の主導によって編纂されたが、『新篇會津風土記』は幕府の全国地誌編纂の要請によるものであった。

編纂総裁は田中玄宰、一柳新三郎他九名の家臣が編纂に参加した。『會津風土記』は漢文体であるのに対し、新篇は仮名文の風土記となった。漢文体の風土記は古風土記と呼ばれている。『新篇會津風土記』は古風土記に欠けているもの、

略された事項を詳細に記している。

『凡例』には「……先祖正之宛文中に撰べる風土記を基とし闕たる者を補ひ畧せる者を許し特に條例を創め界域山川より藩家領管まで凡十六門を分て國字を以てこれを記す……」とあり、巻数は百二十に及ぶ。

巻之一から十までは「提要」、その他十一巻から九十七巻までが会津藩領であるが、巻之九十八からは会津外の地誌となっている。

関東山地北部と上越國境の山について掲げるには、この外編が必要となる。『外編越後國魚沼郡之一・鷹澤組』の項の「山川」には守門山、駒嶽、八海山、

中嶽、金城山、大現木山、苗場山のこと

が説明されている。苗場山については「同祖三保村の西にあり、三保村・二居村・淺目村に属す、三保村より九里計山奥にある高山にて盛夏も雪あり、人跡も稀なり、越越境の所に近しと云」と記している。

その他飯野山・磐梯山なども記載されているのがある。以前、私は「足利ものがたり」を書いた時に『新篇會津風土記』と『利根郡志』から字をべきものが多かった。

特に上州と会津の國境地帯にある尾瀬に關しては、共に信頼すべき地誌である。『巻之四十四薩摩國會津郡之十六・檢校坂村』此村深山の奥に住し高山四方に峙ち朝夕日光を隠し寒氣烈しく雪早く降り、土凍りけれど薄凍にして大麥たに熟せず、只蕎麥を種て餘糧の資とす、されど五月霜雪を降すことありて賣らざるの年亦少からず、故に小羽板を割て生座とす、と記している。

「山川」については「。駒嶽 村より戊亥の方二十町餘にあり、。鷹嶽 村より未申の方二里餘あり、頂まで一里餘絶頂には四時雪あり、半里より上は皆巖重疊

して草木生せず、。沼越 峠村より申の方二里餘にあり、上下各一里餘利根郡沼田に行く道なり」とある。沼越峠とは現在の沼山峠であり、沼田街道のことが書かれている。

「原野」の項には「。小瀬平 村西五里にあり、また「古阿祖」には「南は戸倉村の界小瀬沼」云々の記述がある。なお、尾瀬に關しては、『利根郡志』の項で詳しく記してゆきたいと考えている。

『日本百名山』を書いた深田久弥は山の文章を記して、行き詰まったら高朝式の『日本山誌』をひもとくと、ある本に書いていた。私も山のことを書くについては、江戸期より伝えられた地誌を読み始めることにしている。

江戸期から明治中期にかけての地方の地誌を読んでみると、山岳ばかりでなく、その土地の歴史・神社仏閣・伝説等々を知ることが出来る。問題は作成された地誌の執筆者、またその正しい校閲によることは論を待たない。

『新篇會津風土記』の校閲には花見野巳がその大役にあつた。その例の中で、花見は「本古は新篇會津藩主保

科正之が寛文年間山崎闇斎等に命じて撰ばしめた會津風土記を更に藩主容衆の時代に増訂したもので、江戸時代撰訂の地誌類中において白府を以て推されるものである。」と記しており、各種の現存する文献等と照合、校訂をしている。

校訂者、花見野巳は明治十四年(1881)福島県郡原郡に生まれ、第二高等学校より東京帝大文科大文学部史料を卒業、私立開成中学校教員、名古屋歴史編纂員、國の史料編纂官となった。史料蒐集のため、鹿児島・福岡県・茨城県・三重県・奈良県・鳥取県・徳島県・香川県・高松県・愛媛県・島根県・山口県へ出張調査をした。後、学生は東京外国語学校、その他の学校に出講した。その間多くの編纂を行い、多数の論文を『歴史地理』に発表した。昭和十七年(1942)6月27日死去した。享年六十六歳であった。

現在、私たちは雄山閣版、大日本地誌大系「新篇會津風土記」全五巻で読むことができる。

徳川幕府昌平黄地埋局は「新篇武蔵風土記概」編纂に先立って「新篇地誌備用與籍録」を編纂し、収集した地誌の解説を試みている。そのなかに『會津風土記』が含まれているが、『新篇會津風土

記』はない。それは後者が作成されたのは約半世紀も後のことであったからである。

また、藩主保科正之は家臣岡井吉重に命じて『會津新事雜考』を編纂させている。これは各天皇別に神武天皇より第百八代後醍醐天皇に至る編年体の歴史書であるが、地誌としての利用価値は少ないものと考ええる。

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (26人乗り)
 - ・中2階 (43人乗り)
 - ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市瑞池本町1-20 オカダビル4F
電話06(6745)3911・FAX06(6745)3983
(夜間・電話06(6945)0916・FAX06(6945)3044)

霊仙山と藤原岳

鷲見守康

鈴鹿

今から百万年から一万年ほど前にかけて、地球が氷河時代にあった頃、およそ十万年同期で寒冷な氷期と温暖な間氷期が繰り返されるなか、動植物たちは日本列島を北から南へ、南から北へと移動したそうだ。

この日本列島を地図で眺めると、伊吹山から鈴鹿山脈あたりは本州でもっとも幅が狭い。列島を南北に移動する動植物たちは、必然的にこのあたりを通過せざるを得ず、そのため、現代にあってもさまざまな植物が残っている。

また、伊吹山から鈴鹿山脈北部の山々は石灰岩から成っており、「石灰質植物」と呼ばれる特殊な植物が多数分布する。

石灰岩地では高木が生長しにくく、林床の植物たちには好ましい環境となる。さらに、冬季には吾狭湾から吹き付ける季節風がこのあたりに多雪をもたらし、日本海側の植物や亜高山性の植物も入り込んできている。

このように歴史的・地質的・気象的な要因が作用して、実に豊かな植物相がつけられている。

霊仙山

霊仙山は鈴鹿山脈の北端の山で、山頂は足元からさえるものない大パノラマが広がる。北麓仙を含めた高原状の頂稜部にはカレンフェルトが点在し、赤い



霊仙山のカレンフェルトと後ろに北霊仙

尾根の避難小屋と相まって牧歌的な詩情を醸し出している。花好きの登山者にはよく知られており、田中澄江の「花の百名山」にも選ばれている。

昨年の早春、愛知県の人Kさんに誘われ、花のいい谷山谷をたどる丹生道から登った。Kさん夫妻とその自然観察会の仲間たち、岐阜からTさんと私、総勢10人で

ある。

Kさんらのグループは、山の自然に対する関心が並はずれて高く、全方位にアンテナを張り巡らし、動植物の存在を探索しつつ歩くようなものだから、私などが自分の足元だけを見て歩いていても、さまざまな自然の営みとの出会いを教えようとする。

歩き始めて間もなく、隊列の後方からざわめきが起こった。頭上高く、晴れ上がった空をタカが残っているらしい。隊列の前半を歩き、谷間の位置関係のためにタカの姿を望めない者からは「トビじゃないの」と冷めた声がかかったが、K夫人らの「クマタカみたい!」という叫びに、先頭のKさんが動いて後へ戻り、隊列は



停止した。

ザックからプロミネナー(地上望遠鏡)を取り出して、手持ちのままタカを追っていたKさんが「クマタカです!」と声を上げるや、全員が後退した。

「鷹妻がはつきり見えますよ」と興奮気味にKさんがプロミネナーを手渡してくれたが、二十倍率の望遠鏡を三脚も立てずに使うのは難しく、視界が大きくぶれて私にはクマタカを捉えることができなかった。

開長1時60分余りにも達する稜を駆け、悠々と飛翔するクマタカ。私たちはその姿が山のかなたに消えるまで追い求め、再び出発した。

丹生道はガイドブックでは一本道だが、途中漆ヶ滝まで二本道となり、下山時には谷山谷から少し離れて漆ヶ滝から「美しの原」へ立ち寄るコースを歩いた。霊仙山へのポピュラーなコースとしては、この丹生道以外に柏原道や樽ヶ畑道もあるが、丹生道は植物も多く、コースも起伏に富んでおもしろい。

谷山谷の植相は大変豊かで見応えがある。フサザクラ・ダンコウバイ・ナツボウズなど早春の樹木の花が咲き、アオイ

スミレ・スズシロソウ・ユリワサビ・マルバコンロンソウ・ヤマネコノメソウ・ヨゴレコノネ・ヤマアイなどにも開花している株がある。

陽春から秋にかけて咲き誇る野草もすでに昔々とした葉を上げており、ニリンソウ・イチリンソウ・ソウキトリカブト・イラクサ・オドリコソウ・カテンソウ(竜胆)などの群落があり、めずらしいことに谷川にはワサビもあつた。スイセンのようなキツネノカミソリの葉が一面に広がる斜面もあり、下山ではヤマシヤクヤク・ナツエビネの群落を見出し、開花期の華やかさを想像する。

動物の気配も色濃く、あちこちに哺乳動物のフイールド・サイン(行動跡)が残されていた。カモシカ・イノシシ・テンの足跡、テンやサル糞、テンの足跡とサルの糞はそのあざやかさに感動し、思わずカメラに収めた。

野馬も多く、ミソサザイ・ルビヒタネ・カクス・ヤマガラ・ホオジロなどのさえずりが響いていた。

漆ヶ滝まで1時間50分を要し、やがて柏原道の九合目に合流すると見晴らしがきき、一面のササ原を抜けていく。斜

面下方に樹氷の林があり、冬枯れの樹々のコントラストがとてもすてきだ。遊覧小屋を経て北室仙(経塚山)に至り、ここで昼食とする。

昼食後、山頂部をめざす。山頂部の南向き斜面では、フクジュソウの花が咲き満開の様もあった。フクジュソウとの出会いが最大の目的であったので、全員感激し子供のようにはしゃいでしまう。葉があまり展開しないまま大きな花をつけ、しかも精一杯涼々と花弁を開いていた。

頂稜部では、イノシシ・カモシカ・シカの糞も次々に見る。東斜面では、イノシシが草木の根や根葉を掘り返して食べた大規模な土耕跡も見た。

壺仙山の自然の豊かさを改めて味わい、身体いっぱい充実感をみなぎらせ、快い疲れのなか、17時頃下山した。

(平成10年3月21日歩く)

▲参考タイム▼

上丹生登山口9・00―廊下右石10・25―漆ヶ滝10・50―経塚山12・25―55―山頂13・15―遊覧小屋14・15―上丹生登山口17・00

▲地図▼

昭文社「壺仙・伊吹・藤原」



フクジュソウ

藤原岳

昨年3月、新ハイ例会として美濃の羅ヶ岳(実際には当口羅山に変更)へのマイカー山行を実施したおり、関西から参加する人のうち5人は岐阜市で宿泊した。関西から美濃の山へは遠距離のため、日帰り山行として企画する際は、時間的な制約から大垣近郊の山域くらいしか計画できず、私自身も日帰り山行の限界を感じている。

それで、前泊の希望をいただいたときには、できるだけ安価な公共の宿を紹介するとともに、せっかく前日から乗鞍されるのなら、私の都合のつく限り、土曜日にも個人山行として美濃の山などをご案内している。

この日は壺仙山山行の次の週であり、私の脳裏にはフクジュソウの黄金色の残像が鮮烈であった。行く先は私の気ままでいいという皆さんの言葉に甘え、それならと藤原岳を選んだ。参加者は6人。花を要しながら歩くには理想的な人数である。

藤原岳は名にし負う花の山だ。このクラスの中岳では、花の種類にしても全国のトップレベルだと言われている。田中

澄江の「花の百名山」に選定されているのも至極当然と言える。

この藤原岳の花の最盛期は春、4月から5月の陽春の頃である。けれど、雪が消えて間もない早春、まだ冬枯れの樹木の下に花開くキンポウゲ科の草たちの魅力もまた、藤原岳の名を高めているのではないかと思ふ。

JR関ヶ原駅で落ち合い、二台の車に分乗して国道365号を南下、30分ほどで藤原町に入る。山麓の町内では、休日には農機などが駐車場を登山者に提供してくれている。

聖宝寺の境内を通り、真登山道(聖宝寺道)を登る。花暦の早いこの年、麓ではタチツボスミレがすでに花をつけ、シヤガさえ開花している株がある。

草木では、アズマイテゲ・ミヤマカタバミ・カチンソウ・スズシロソウ・マルバコンロンソウ・ヤマアイ・ナットウダイ・アオイスマレが開花し、樹木では、マンサク・フサザクラ・ヤマブキ・キブシが冬枯れの林に彩りを添えていた。六合目から目的の花たちが姿を見せてくれた。八合目のフクジュソウの群落は正巻で、気分が高揚してくる。三脚を立

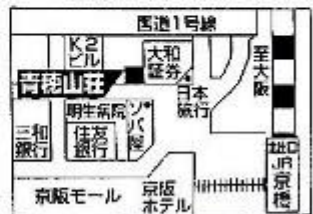
山歩きの一番重要なポイントは…「靴」です。

「靴」の選び方、合わせ方次第で、山行が楽しいものになるか、終始苦痛なものになるか、それはもうエライ違いです。初心者から上級者迄あなたの足に合う「靴」をアドバイスいたします。又、自分の山行に合うグループの紹介もしております。

- 山用品は全て安く揃えます
- 登山・山スキー・専門店



青徳山荘



京橋店 大阪市都島区東野田町2-9-24 TEL 06(6351)8691

てたカメラマンたちが盛んにシャッターを切っている。

八合目から遊覧小屋を経由して頂稜部を縦走。白濁峠(三重県側の呼称。遊覧小屋では「白龍峠」という)から坂本谷をくだったが、フクジュソウの群落、セツブソウ・セリバオウレン・スハマソウの群生が生き生きと見事であり、これらの早春の花を見るにはベストタイムだったようだ。

山がまだ灰色に眠っている頃、やわらかな日差しが届く林床に、他の幾つもの草たちに先駆けて花を一杯に開き、ひたすら生き抜こうとする早春の花たちが好きた。

まもなく、藤原岳は「花の山」として多彩な花たちに染め上げられ、まさに百花繚乱の季節を迎える。

(平成10年3月28日歩く)

▲参考タイム▼

西藤原小学校・30―真登山道八合目11・15―遊覧小屋12・20―56―白龍峠(白龍峠)14・15―坂本谷登山口16・40―西藤原小学校17・00

▲地図▼

昭文社「壺仙・伊吹・藤原」

原生林の自然を満喫

金峰山から甲武信岳縦走

奥秩父

日野節雄

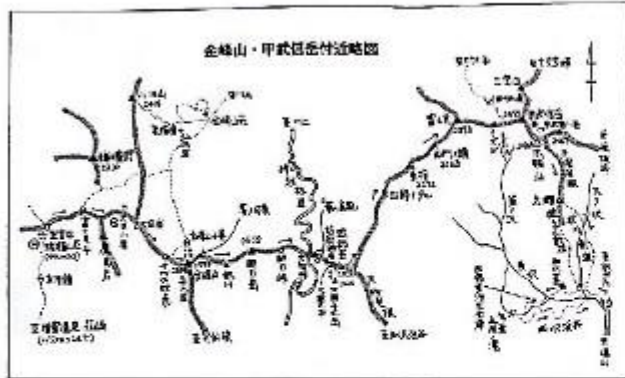
はじめに
昨年雲取山から甲武信岳へ縦走の折、甲武信岳から遠く金峰山の五丈岩を見て、この間の縦走をと思いついたのは、今年75歳のSさんだった。昨年の秋の予定が、彼の足の骨折でのびて初夏の山行となったが、Sさんの頑張りのおかげで達成できた。

最初、夜行1泊2日の山行と話したが、私も85歳、無理をしないで行くことになり、JR「スーパーあずさ1号」に乗った。

残念なのは、菲崎駅に降りると登山者の姿はなく、タクシー代が割高になってしまったことだ。

なか手強い。二ヶ所ほど腕力で登るが、背の低い人はどうするのかと思っ

た。五丈岩が近くなってホッとす。若者に「今日は泊まりですか。くだりは大石が多いから注意してください」と声をかけられ、「ありがとうございます」と答えた。彼は後



金峰山
里宮平で下車すると瑞穂山へ行くという若い夫婦だけで、天気予報が明日は雨ということもあってか、出だしから静かだ。富士見平には大きなリュックが10数個放り出されていて、テントも3つ3張あり、小屋は開いていたが人影はない。降りだした小雨のなかを、新築のトイレの裏から本格的な金峰山への登りとなる。原生林のなかの比較的楽な登りだ。カッコーが鳴きウグイスが囀る。シジュウカラ・ヤマガラ・キビタキ。コノハヅクなどの鳴き声が縦走中聞こえてきて楽しませてくれた。

下山する二名の女性に出会う。大日小

で小屋にいたが、千代の吹上げから捲き道をおりたのだろう。

金峰山は21歳の時、小学校の同級生と有井館に泊まり、昇仙峠まで歩いた私の最初の登山で、思い出は深い。何しろ12時間あまり休まずに歩いた記憶があり、二人共足を豆だらけにして、疲れていたからか塩毒をってしまった気まづさを今でも思い出す。

山頂はその時の写真と記憶からすると全然違って見えた。平らな山頂に五丈岩がそびえていたと思っていたが、今来て見ると、岩が累々としていて、西側に五丈岩、東側に三角点がある。年齢と共に山容も行程も感じ方が違ってくるのだろう。

北西に低く瑞穂山が見え、小川山が続いている。明日甲武信岳は見えない。標高差1500mの急下降で金峰山小屋だ。親切な親父さんは先年亡くなられた。今は若い娘さんの林穂子さんが管理している。先客に大阪から来たという若い女性二人がいた。ストーブと炬燵を入れてくれ、少し遅く京都の男性が来て、今夜は五人、静かだ。食事は旨い。水は天水で、缶ビールは500円と高価だ。

ケルンの積まれた賽ノ河原



屋に寄ると人影はない。水山があり、ゆっくりに昼食にする。幸い雨は止み、大日岩への登りとなる。この頃になると荷が肩に重く感じる。大日岩からは隠見岩の岩峰が西に見え、その左奥に金ヶ岳・茅ヶ岳が見える。急登となり、千代の吹上げは右が切れ落ちた稜線だ。風が冷たくウインドジャケットを着る。大きな石が行く手を阻む。ペンキ印に沿って行くがな

長い道程の甲武信岳へ

雨だと覚悟していたけれど、晴れ間も見える。金峰山上で御来光には見えなかったが、富士を始め、八ツ・南アも見え一時を過ごす。大きな石の二本の柱の上に、大きな石が乗っているのを下をくぐると、きょうの長丁場が始まる。くだるとケルンが幾つも積まれた賽ノ河原に着く。ハイマツが美しい。三宝山・甲武信岳・木賊山の三山は遙か遠い。下には裏瑞穂の弘法岩の岩峰が見える。クライミングゲレンデの懐かしい岩山である。

ここから奥秩父特有の原生林、コマツガ・シラビソの樹林帯に入る。鉄山の北側を捲き、ガレ場の急坂を登ると朝日岳に着く。展望はあまり良くない。標高差1500mばかりゆるくくだると朝日峠。峠の跡もない。ここで数組のハイカーに出会う。さらにくだると回道と見間違えるような、舗装された駐車の多い大強峠に出た。駆けつけ舗装はここだけと言うが、南・北方向共に通過可能になっている。便利な峠越え林道だ。私たちのような縦走は少ないようで、ここから金峰山や圓師岳へ登る人が多い。

大朝小屋で朝食にする。小屋には人が



甲武信岳山頂にて

いなかったが前のテーブルを借り、小屋の右手でおいしい水を水筒にいっぱい入れる。山行中の食料はSさんはパンが主体で、私はエデスバと生ラーメン、二人の好むは違っていた。

前国師岳へは急な土止めの階段だ。予定時間より遅れているからと「夢の魔園」を右に分けて登ってしまったが、時間的にはあまり違いはなさそうであらう。樹林を抜け出た岩のピークが前国師岳で、すぐ二重平に着く。ザックを置き、右に5分で奥秩父最高峰の北奥千丈岳に着く。展望は開け、五丈岩は遠くなり、甲武信岳はまだまだ遠い。ここから北アルプスが見えるというのが残念。南アも八ツも富士も見えなかった。くだって登ると一等三角点のある国師岳で、おもしろいことに、ここより9分高い北奥千丈岳が低く見える。

やはり2000分ぐらいから満開で、北面は少し開花が近いのかも知れない。地図にある深瀬湯跡は分からず、「広瀬」と書かれたらちょっとした広さの所で朝食にした。「右徳チャン小屋新道・左近丸新道」の道標がある。後から来た人に訊くと「右は五年前歩いたがガレ場があった」と言う。

私たちはこの道が初めてなので左の急坂に入る。社石が光る道になると若菜の道となって、あのしつこい針葉樹林と別れ、砂防堤のあるヌク沢に出てホッとする。ここまで標高差約1000分のくだけた道だ。沢で顔を洗い、水を飲む。改めて元々の岩の山を覗き見る。左岸に石伝いで飛び渡るが、大雨の後などは「徳チャン新道」のほうがよいと思われる。登山口にもそのように書いてあった。そこから陸軌道の道を40分も歩き、右へヌク沢に架かる橋を渡って登ると西沢山荘に出た。

西沢渓谷一周を最初から計画していたので、重い足にむち打って歩く。左に田部市治の『笛吹川を渡る』の文学碑があり、そこそくだると吊り橋があり、これからは西沢渓谷の本番だった。渓谷といっ

西沢渓谷への天狗景根を分けて左へ北上し、懸崖とした長い長いシラビソやコメツガの樹林帯はいつまでも同じ風景で見飽きるくらいだ。400分ぐらい、最低標高で学生グループに会う。これからの道を訊ねると「低い登降ですよ」というが、東峰・西門ノ頭・富士見・ミズシなど幾つも小ピークを越え、重い荷と足にはとても近いとは思われない。倒木は切り払われていて助かった。

東峰は30度の三角点があり、周囲のハクサンシャクナゲは木が大きいわりには、蕾は2〜3個と少ない。軽く昼食をとり、西門ノ頭に向かう。昔は雨割が切れ落ちていて危険だと聞いていたが、今は樹林のなかに道ができていて、飛び出た岩峰は幅1分ほどあり、展望台といった所だ。富士山が見え、金峰山は小さくなり、甲武信岳を中心とした三宝山・木賊山がやっと大きくなった。眼下は釜ノ沢の樹林が海のように美しい。

富士見への登りはきつくと、一服して登り着くと、正面と左側にトラロープがあり、右に直角にくる。ミスシに登り着くと右の方から「こんにちは」の音がする。「道はこっちですよ」と言われて教え

ても観光地なのでたいしたことはいないだろうと行ってみたが、約200分の標高差で大変だった。

三五の滝・前神の滝、名瀑100選の七ツ釜五段の滝など流・淵があって、冬の氷瀑(標高1000分)が有名だ。散ってしまっていたがシャクナゲも多く、紅葉の時期もよい所だと思う。が、三重県の大杉谷を春・秋と歩いた私には、天と地ほどの差があり、渓谷美に浸るほどではなかった。一周3時間45分というところを30分短縮してバス停に来ると、観光バスや乗用車がいっぱいで、次のバスまで2時間半もある。幸いタクシの運転手が相乗り客を探してくれ、五人乗りができた。

塩山駅近くの「宏池荘公衆浴場」で一浴し、駅前食堂で今後の健康を祈って、この山行を喜びあった。

(平成9年5月30日〜6月1日歩く)

▲参考タイム▼

非崎駅 8・45 (タクシ) 甲宮前 9・35
50〜富士見 10・30 40〜大石小屋 11・30
12・15 金峰山 15・30 45 金峰山
小豆 16・06 (泊) 4・50 金峰山 5・

たが、何と東沢からミスシを攀じ登って来たベテランの五人だった。千曲川水際と書かれた標識前にはセウキ平から登って来た人といっぱい。4時間ほどかかったという。二週間後に私も歩いてみたが、楽な登りで休憩も入れて3時間半だった。急登20分、ガラ場の上が甲武信岳の山頂だった。

五丈岩が見え、その行程の峰々が長かったことを教えてくれる。北方に先登った西神山の嶺のような山並みが見える。ほかでかい山頂標の前で写真を撮っても良かった後、ふり返ると、五丈岩はペールに包まれてしまっていた。

15分で甲武信小屋に着く。小屋主山中徳治さんはお茶を出しながら受付をしていて、てきぱきと登場所を指示してくれ。布団は新しく、夕食後、花のスライドを見て早々に桶になった。

シャクナゲの道と西沢渓谷

木賊山は登りがきつからと縦走路を歩き、戸渡尾根の急坂をくだる。標高2000分ほどに来ると、満開のアズマシャクナゲとミツバツツジに連れられる。二週間後に来た時は十文字峠へくだったが、

- 15〜25 朝日岳 6・40 50 大石小屋 7・55 8・40 前国師岳 9・20 北奥千丈岳 9・30 40 国師岳 9・50 10・00 東峰 12・30 55 富士見 14・30 甲武信岳 15・50 16・00 甲武信小屋 16・15 (泊) 4・40 戸渡尾根分岐 5・05 広瀬 6・40 7・20 ヌク沢 8・10 20 1 登山口 9・00 西沢渓谷一周 東沢山荘 12・15 40 (タクシ) 宏池荘 13・20 ▲費用▼
- JRはジバンダ俱樂部使用のため略
- 非崎駅 1 甲宮前
- 小型タクシ (一台) 6950円
- 金峰山・甲武信小屋 1泊夕食付き 5500円
- 東沢山荘 1塩山市
- 中型タクシ (一台) 5940円
- 宏池荘公衆浴場 1時間 300円
- ▲地形図▼
- 2万5千 1 瑞穂市・金峰山・雁坂峠・川浦・柳沢峠
- 昭文社 1 1 奥秩父 2 金峰山・甲武信
- ▲問い合わせ先▼
- 金峰山小屋 0267 (99) 2158
- 甲武信小屋 0494 (55) 0955
- 非崎駅タクシ 1 甲多敷駐車

広茫たる山頂の池めぐり

御池岳

榊原計国

鈴鹿

鈴鹿・御池岳に隠れた池を求めて徹底的に登っている人たちがいる。「鈴鹿源流」の著者、辻涼一氏に残雪の佐目峠でお会いし、話を聞いた。このことがきっかけで、私もその人たちに導かれ、御池岳に何度も足を運ぶようになった。池めぐりにも何度か誘ってもらってひと通り歩いたので、こゝろで御池岳山頂の主な池々を一人て訪ねてみることにした。

まだ、日が登り始めたばかりの6時ちゅうどにコグルミ谷登山口を出発。10分後にコグルミ谷との分岐を経てタテ谷へ向かう、ひと登りすると朝焼けに輝く「まどろみの尾根」にたどり着く。さらにふた登りして右方向へトラバース気味に行

き、右下から上がってくるタテ谷と合わせて谷心を行くようになると、二次林の落ち着いた森が広がっていた。

そのまま谷を進んで行くと左へ大きくカーブを切り、いよいよピークに向かつてのつめとなるが、きょうは奥村さんに聞いた「谷を最後の最後までつめて直接ピークに出た」という、昔のルートをたどってみることにする。奥境尾根への分岐を過ぎてしばらくはまだ、やぶがおおもの谷の形をしているが、最後はけもの道すらない、やぶのぎっしりつまった中をただひたすら高いほうに向かって進むほかない。どうやら昔の道跡はすっかり消えてしまっているようだ。必死に

元池より丸山方面

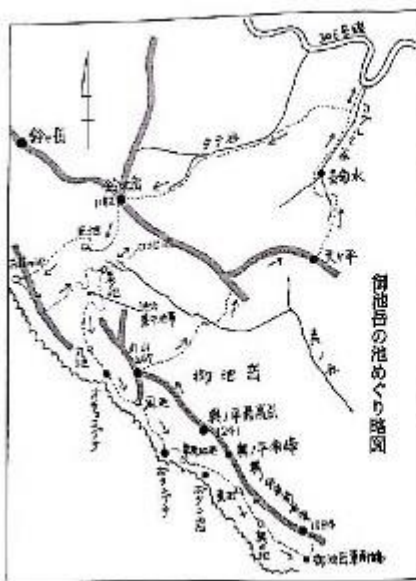


なってやぶをこくと突然、カーテンカーブを開けるように「鈴北岳」のピーク広場へ出た。

7時15分、台風が去ったばかりの「鈴北岳」からの展望は、今までに出会ったことのないものだった。いつもは、見えても微かに白く見えるだけの琵琶湖が強く光り、その向こうの比良山系、さらにその向こうの山々も垣間見える。北方面

は霊仙山・伊吹山、そして右はるか向こうには白山連峰さえ望むことができる。雪のない時期でこれだけの展望が望めるのは、年間でもそうないだろう、とひとりで悦に入る。

たっぷりと展望を楽しみ、やっと腰を上げた時には8時15分を過ぎていた。焼け跡から元池をめざして出発する。焼け跡に点在するカレンデュラが朝日のなかで白くまぶしいくらいに輝き、とてもきれいだ。火事で岩の表面がきれいに焼けて真っ白い素肌をさらしている。今後



御池岳の池めぐり地図

どのような植生の推移をたどるのか、ある意味ではとても楽しみな焼け跡。まだ目立った草木はなく、雑草やササが所どころに芽を出しているくらいである。この後、元通りのササ原に戻るのか、はたまたススキ原が広がるのか、そして、六十年周期で訪れるという「じねく」(全山いっせいにササが枯れるという)の現象にどう影響があるのか、興味は尽きない。

火事のために訪れやすくなった元池は、きょうも静かに水面を広げていた。御池岳の池の中で、この池ほどむき出しに太陽の光を浴びる池はない。これは御池岳の池の中では特異な存在であり、それでいて水が絶えることがない。雨乞いの中心的存在であった理由も十分に納得できる。元池の丘の方へ掘り込み、丸山を背景に眺めてみるが、これもまた良い。間違いない、御池岳を代表する風景の一つと言えるだろう。

元池の丘をくだって谷を越え、尾根の腹を少し右に振りながら登り「お花の池」をめざす。この池は、「お花踊り保存会」の人たちが十一年かけて見つけ出したそうだが、君ヶ畑に残る伝承からするとどうもおかしらしい。「幸助の池」が今の位置であるとしたら、「お花の池」はその奥の奥ノ平にこそあるべきだという。私はその詳細を知らないが、池の雰囲気からだけでも今の「お花の池」がみさわしいとはとても思えない。もし「お花の池」が奥ノ平にあったのだとしたら、今私たちが「奥の池」と呼んでいる池に相当するのではないかと思われる。実際にこの「奥の池」こそが「お花の池」にふさわしい雰囲気を持っている。今後とも新たな伝承の発掘を期待したいと思う。

「お花の池」を登り、西南部の端に出る。ここの展望も私にとっては、今までにないものだ。西方面はるか遠くに見えるのは、どうやら比叡山らしい。なだらかな稜線にチョコンと突き出て自己主張しているかのようだ。さて、ここからは草原の広場をめざしてはげ原線に行けば、「日本庭園の池」をかすめるはずだ。

9時08分、「日本庭園の池」到着。この池は、このあたりで最後までひっそりと身を隠していたが、そんな慎ましさがとても似合う池のように思う。除害好きの野郎どもに探し出されてしまったが、本当はひとり静かに身を隠していたかったのかも知れない。

池を後にして進むと、草原の広場ではスキが一面に広がっていた。さらにこれより池の密集地帯に入り、幾つかの池を廻ってから真ノ池に出るつもりだったが、どの池にも出会えない。一匹の獣にでもなつたつもりであたりを探し廻るが、ヌタ場の影さえ行き当たらない。とにかく、いつまでさまよっていても仕方ないので、一度真ノ池に出てから人類の利器、地図とコンパスで、もう一度やり直すことにしたが、どうも簡単には真ノ池へさえも出られない。ちょっとした尾根状のところを真ノ池方面と思われる方へ向かって突っ切ってみると、ようやく登山道に出たが、あまり見慣れた風景ではなく、キョロキョロしていると「鈴北岳 難路近道」の道標がある。どうも真ノ池よりも元池寄りに来た所へ出てしまったらしい。とりあえず真ノ池へと向かう。真ノ

池広場9時35分着。

北池に会いさつをして戻り、真ノ池広場にて地図とコンパスで再確認する。気持ちを引き解め池めぐりに再挑戦する。「南池」には「南小池」を過ぎてすぐに出る。そこから少し斜め左に振り、その直線上に「平池」と「おむすび池」(中池)があるはずと進んでみた。すると、水のあまりないほどヌタ場状態の「平池」にはすくなく出られたが、「おむすび池」がなかなか見つからない。「南池」から直線的に突いたが、途中から少し右に振ってみると、出くわしたのはなんと「サワグルミの池」。水は少なめで三日目状に張っている。きょうの池の姿は「三日月のヌタ場」と言ったところだろう。

「おむすび池」はもっと奥なのか、再度つめてみるとようやくハート型の池に出る。締め締りの「ウリハダカエデの池」には、いったん「サワグルミの池」に戻ってから行く。きょうも「ウリハダカエデの池」は水がたっぷりあり、雰囲気十分だ。この池も水が少なくなることがあるらしいが、幸い私が会いさつに訪れたときは、いつも水をたっぷり溜えていて

くれる。何とか密集地帯の池たちに漏れなく会いさつができて、ひと安心と言ったところだ。

最後に、丸池へ向かう。「ウリハダカエデの池」の上の土手から左へカーブを曲ぐようにはしていけば、丸池を見下ろす土手に出られる。いつもは上から眺め、通り過ぎるだけだったもので、きょうは下までおりて丸池と近くで対面することに。この池は大きなドリィネの底に少しだけ水を湛えているといった感じの池で、すぐ隣にも同規模のドリィネがあるのだが、そこには水は無く、どうして水の溜まるドリィネとそうでないものがあるのかよく分からないが、時間の流れのなかで変化をしていくことだろう。

丸池からは、テールランド沿いに「オチココブチ」「風池」そしてポタンブチへと抜けるつもり。今まで連れて行ってもらったことはあるが、ひたすら後をついて行っただけのことだったので、ちゃんと思った通りに歩けるかどうか、不安がいっぱい。きょうの重要な課題の一つだ。

丸池からは谷状の所を避けるため左より廻り込んで、「オチココブチ」に出る。

トレッドマークの石が、きょうもササ原のなかに鎮座している。ひと息いれてから、「風池」へと向かう。春に行ったときには、今まで見たことのないようなたくさんの水を湛えていたが、きょうはどんな姿を見せてくれるのか。

「オチココブチ」からは、テールランドの端を水平に進み、最後のちょっとした尾根状の所を左に廻り込んで、丸山側より「風池」訪問。残念ながら水は少なく、ヌタ場に少し水が溜まっているような状態だが、ほかの池から流れ、ひとりここに存在するだけで、この池の価値は十分にあるのではないかと思う。

さて、ここまで来れば、あとポタンブチまでひと尾根越えて息通しのさくササ原をどんどん端に向かってやぶをこいで行けばよい。ポタンブチ11時18分着。南に広がる展望を楽しみながらナンを食う。何んとかここまで来られたことに満足する。

いよいよここから、広茫たるササ原の広がった奥ノ平への突撃であるが、部分的には何度も歩いているので、御池岳の東両端まではたどり着くことはできるだろう。奥ノ平の池たちにあいさつをして、

奥ノ平東南尾根のスタート地点、御池岳東両端をめざす。

奥ノ平最初の「幸助の池」へは、このポタンブチのガレを左から廻り込み、ひと丘越えて行く。「幸助の池」11時37分着。

初めてこの池に来たのは、去年の4月、まだ限りさめやうめ時で、一面残雪がなおい、「ここに池が現れるのだろうか」と想像するしかなかったが、とにかく木々の葉はすべて落ち、とても明るい所だった。だから、雪が解け、木々が青々とした浅みになり、池をおおいうようになってから訪れたときの変わりようには本心に驚いた。「この幸助の池の風情が御池岳の池の中で一番だ」と山田明男さんは言っていたが、確かに王者の風格十分である。新緑から真夏の天気の良い日にこの池の傍らで日陰を求めながらたずみ、水面に映る緑を眺めるのは、本当にすてきな心地よい。

「幸助の池」を発ち、ポタン岳の北側を通り過ぎ、左の方へちょっとした谷状の所を越えてからテールランドの内側に向かって行くと、「東池」の周囲にある丘に出る。この「東池」もけっこう水

低山登山〜本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

新ハイクの会員証で更に割引します。



とスキーのヨシミ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL06(6772)7231

JR天王寺駅
北出口右へ
歩道橋渡ってスグ



「奥の池」

量の変化がある池で、獸たちもメタ場になっ
ている。
再び奥
ノ平のサ
サやぶに
突撃する
が、この
あたりが
奥ノ平で
もいちば

ん分かりづらい所。特にこれといった目印もなく、しばらくは「こっちが奥の池」と信じる方へやぶをこいで進むしかない、とても不安な所だ。

12時12分、「奥の池」へ出た。この秋の訪れはまだまだのようだが、去年の10月の探査会で近藤郁夫さんや山本久雄さんが、池の紅葉にうっとりとした顔をしていたのが目に浮かぶ。「幸坊の池」が緑ならば、この池はやはり紅葉が似合う。赤や黄色の葉がこの池をおおい、それがまた水面に映るさまは何ともいえない美

しさだ。まさに絶品の秋だった。これを思うと、「やはり幸助の池の伴僧、お花の池はこの池でなくてはならぬ」との思いが強くなってしまうのだ。

「奥の池」のある林を抜けてササをひとぎすると、奥ノ平唯一の草原に出る。ほとんどがササやぶと足場のあまりよくない雑木林でおおわれた世界で、手を振って歩くの広々としたこの草原に出ると何となくホッとひと心地ついたような気分になる。コグルミ谷から登りついた峠をかつて「天ヶ平」と呼んでいたが、今のこと近藤さんが振り返りしたが、今の私には、こここそがまさに「天ヶ平」と呼びたくなるような気分だ。この奥ノ平にあつて、どうしてここだけがササにおおわれずにすんでいるのか、考えてみればとても不思議だ。いつか、満天の星と共にここで一夜を過ごしてみたいものだ。

ここから、御池岳東南端へはあとひと息。前方に見える森に向かって、ただひたすらササやぶをこいで行けばたどり着ける。御池岳東南端着、12時33分。

ここに立ち藤原岳の山並みを眺めていると、「御池岳の端に突いたなあ」との実

感がわく。このカレンデュラの岩場は、藤原岳や南ヶ岳方面から眺めても確認できる絶好の展望席だ。

さて、ここが奥ノ平東南端のスタート地点、覚悟を決めて出発するとしよう。北側の谷状になった所を越え、左に90度向きを変えて尾根を突き進む。ここらのやぶもなかなかだが、所どころけもの道もあり、両手でかき分けながら進む。標高1194mのピークを越え、さらにもう一つのピークを越えて奥ノ平南峰をめざす。

奥ノ平南峰着、13時33分。まさにここは奥ノ平の展望台としては唯一最高の所だ。所どころに色づき始めた秋が感じられる。きょうは伊勢崎や知多半島までは見えないが、藤原岳の展望丘は、はっきりと自己の存在を主張している。いつも思うことだが、展望丘にはほぼ1140mで、藤原岳の最高点天狗岩の頭1171mよりは30mばかり低いのだが、そのピークの顕著さのためか、どうも展望丘のほうが高く感じられてしまう。藤原岳山頂としての軍配は、どうも展望丘のほうがありそうである。

さて、いよいよここから奥ノ平東南尾

根の垣やぶこぎが始まることになる。ここから奥ノ平の最高点1241mのピークまでは、直線距離にしてたかだか1500

mばかりであるが、このやぶは私の身長をゆうに超えたり以上のササが、ぎっしりと詰まった御池岳の最盛期、いや峠麓最盛期といってもいいやぶだ。ここまでのやぶも相当なものだったが、ここから先はまさにケタが違う。ここまでのササはけっこう丈があるといっても、先の見通しがきかないほどではなかったし、

所どころにはけもの道もあるくらいだったが、この先はちゃんと立っていても完全にはすりばりとおおわれ、足下は野ネズミさえ通行不可能ではないかと思われるほど隙間なく詰まっている。とにかく、槍杖ならぬササ杖をかき分け、体を前に押し込んで行く以外手はない。去年は、このやぶに翻弄され何度も何度も打たれ倒されて、たかが150mに30分もかかってしまった。

とにかく、コンパスを用い方向を誤らぬこと。そして、焦って進むとうるのではなく、なるべくササやぶに逆らわずに行くことだ。

さあ、突撃……。しかし、……。手強い。

「おまえ何をこんな所に入って来るんだ」と言わんばかりに私を打ちつけ、跳ね返す。やはり、ここはやぶの濃さが違う。あわてて焦っても跳ね返され、打ち倒されるばかりだから、一歩、一歩、着実に進むようにする。まず、片方の手でバサリとササをかき分け、次にその根元を同じ方向の足で踏ん張り押さえつけ、体を半身前に押し出す。そして、今度は反対側の手と足でかき分け、踏ん張り、また半身前に進む。その繰り返しを言葉にやっけてゆくしかない。

その格闘、15分。標高点よりは少し先の登山道に出たが、去年のように大きく外すことなく出ることができた。なんと長い15分間だったことか。しかし、この満足感は何だ。これはもう、完全に近藤さんの言う「やぶこぎ達成感」で、しかも重症だ。

奥ノ平の標高点ピークを過ぎ、ボタンブチ分岐をすぐに通過。ここらのササやぶもなかなかのものだが、道があるとなんては大変だ。最後の仕上げに御池岳最高点丸山(1234m)へ向かう。

丸山14時00分着。そこに立てたことを心より感謝した。また、いままで御池岳

をめぐる時の流れのなかで、これだけ貴重なものを得ることができたか、改めて思い知った気がした。

(平成9年9月20日歩く)

○池探しの過程については、近藤郁夫氏の私家版「幻の池を求めて」に詳しく出ている。山田明男氏や近藤氏の池探しの活躍がよく分かる。

○文中「一付の名称については、ほとんどが山田氏や近藤氏により名付けられたものであるが、あくまでも仮称であり、過去においては異なる名前が付いていた可能性も十分にある。今後の検証・認知に委ねられるものである。

○御池岳山頂一帯には、ほとんど登山道がない。もし「池めぐり」に訪れるのであれば、経験者に同行してもらおうか、または、新ハイキング関西の岩野明氏の山行例会が、今春から始まる山田氏の例会に参加されることをおすすめする。

△コースタイム▽略(文中を参照)

△地形図▽2万5千II集

連載

比良を歩く ⑨

西南稜から武奈ヶ岳・コヤマノ岳

秦 康 夫

足よりもまず心臓と肺が対応できない。スローピッチに切り替えて、薄暗い杉と檜の植林帯を黙々と登る。

一度の小休止をはさんで50分ほどはひたすらに登るだけだったが、道がややなだらかになって、少し余裕が出てきたようだ。マナムシソウを見つけた女性たちの歓声が後ろに聞こえる。

きょうは男性12名、女性13名の計25名。これだけの大人数になると、どうしても前後の間隔が開いてしまう。標高9000mのあたりで、松の木から飲んで咲いているツルアジサイを眺めながら、後続待ちの休憩。

地図に「一本松」とあるが、知らぬ間に

に通過したようだ。しばらくは快適な後線歩きが続く。途中、クマザサがいっせいに花を付けているめずらしい光景に出会った。六十年度の黒期で花を咲かせ、その年のうちに茎まで枯れてしまおうだ。さすがイネ科の植物で、不作の年の稲の穂のような花だった。が、どんな状態で枯れるのだろうか。

11時15分、御殿山(10977m)に到着したが、あいにくのガスで展望はゼロ。

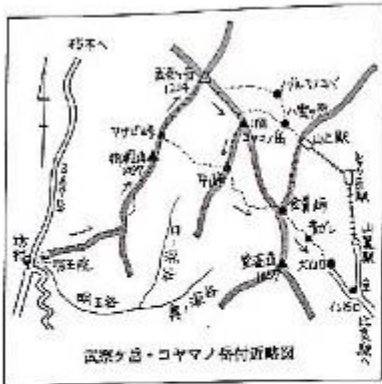
水色の群やかなアジサイを遠目に見て、クを通り過ぎ、急なくだり5分ほどでワサビ峠に出た。ここから高度差700mほどの登りはけっこうきつい。が、がんばって11200mの崩山に立てば、武奈ヶ岳は指距の間である。赤トンボの群れ飛ぶなかで休憩していると、ヘルメットを被った学生らしいグループ4人が登ってきた。うち女性の二人は気の毒なくらい疲れている様子。派手でサンマイ谷をつめて来たとのこと。

ここからは、ササ道の快適な西南稜の後線歩きである。ケルンのあるピークを右に折れて、東に向かう。

簡単な岩場を越えると、左前方の武奈ヶ岳山頂には蟻のように登山者が群がっ

ているのが見える。北比良峠からの登山道と合流し、広い道を歩いて武奈ヶ岳には12時ジャストに到着した。

昼食どきとあって、頂上周辺は大混雑。ざっと数えて90人くらいが弁当を広げている。梅雨の真っ最中というのに、京都では連日35度を超える猛暑が続いていたが、ここはまったくの別世界。あわててヤッケを羽織る人もいたくらい肌寒さで、納涼気分を満喫した。ただ、一帯が薄いガスにおおわれて展望はほとんどなく、わずかにツルヶ岳・シヤカ岳・カラ岳・コヤマノ岳など、近くの山しか見え



ないのが残念だった。

昼食50分ほどで、次の目的地であるコヤマノ岳に向かう。先程登ってきた西阿波への分岐を左に折れ、急坂のピニールパイプの階段をくだると泥濘地帯が現れる。靴を気にしながら慎重に迂回し、コヤマノ岳・中峠への案内板に従って右の林に入る。自然林が続き、森林浴には絶好のコースだ。ブナの木も多い。

案内板から15分ほどコヤマノ岳に着いた。標高11811m、武奈ヶ岳に次いで一帯二番手に位置するが、何んの要哲もない稜線上の通過点のような山頂だ。展望も、わずかに東に開けるだけである。

中峠方面にくだり始めてすぐの所に、初めて見る簡単な案内板があった。一般登山道で中峠へ行くルートとは別に、南東方向にのびる屋根伝いにシヤクナゲ山というのを通って、直接金葉峠近くに出る新道が出来ているらしい。どんな道か興味があったが、未知のルートであるうえ、多人数の例会でもあり、グループの中のベテランの人に、単独で探訪してもらうこととして、予定通り中峠に向かった(後列、落ち合ってから聞いたところによると、足道通しのしつかりした道で、30分先

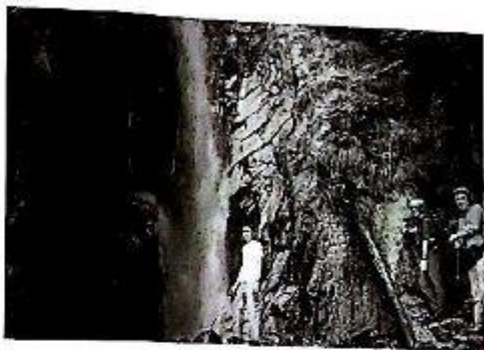
で金葉峠に着いたようだ。中峠経由で行くと1時間はかかるので、急ぐ時の迂道として利用度は高いと思われる。

急なくだり道で、これから武奈ヶ岳に向かう50人ほどのグループとすれ違った。かなり疲れてスローペースの人が多い。登り優先のルールで少し時間がかかったが、中峠には13時40分頃に着いた。

ここからヨネトウゲ谷沿いのくだりは荒れ道だが、道の西側に、どこまでも続く満開のアジサイは見事だった。われわれはアジサイ街道と命名したが、比良ではここが一番かも知れない。

水流が出てきた。右からも左からも小さな沢が入ってくる。ナメ滝もある。沢音を消す勢いでセミの大合唱も始まった。ずっと尾根コースだったので、きょう初めて沢との出会いである。休憩することにした。谷水で顔を拭いたり、喉を潤したり、パンダナヤや手拭いを清流に浸したりと、とにかく夏の水はありがたい。

八雲ヶ原からのコッパ谷と、ヨネトウゲ谷の合流点を過ぎ、三本丸太の木橋を渡ると道は良くなる。もう一度木橋を渡り、少しの登りで金葉峠に着いた。「青ガレ付近は落石の危険あり」の立て看板



隠れ滝

が、登山者に注意を促している。
金葉峠からしばらくは、石のゴロゴロした悪路のくたりが続く。水音が聞こえて左からの支谷を横切ると、ようやく土の道になり、ほどなく問題の青ガレに出た。大小の岩石が斜面一帯に積み重なり、今にも崩れ落ちそうな危険地帯である。全員にルートを外さないよう改めて確認し、山慣れない女性を男性の中に入れて

てリードしてもらいながら、慎重にくだる。下降ルートは斜面の右(逆側)端にあり、誘導ベンチ通りくたれば問題は無いが、ルートを離れて、斜面の中心方向に入れば不安定な石が多く、極めて危険だ。昨年、落石による死亡事故があった場所でもあり、さすがに緊張した。無事にくだり終えて河原でひと息入れ、あとはルンルンコースかと思っただらさながら、まだまだ難路が続いていた。以前は堂瀬岳寄りの山の斜面にあった歩きやすい登山道は別れてしまったようだ。新しく付けられた道は、何度もロープを頼りに正面谷に向かって急降下したり、堰堤を越えたり、まだ道がこなれていないせいもあり、極めて歩きにくく、かつ分りにくい。

途中、「隠れ滝へ3分」との案内板があり、全員で寄り道して見物してきた。滝壺は小さいが水量は多く、涼感あふれる立派な滝である。こんな所に滝があるのは知らなかった。
イン谷口のバス停には16時過ぎに到着。ビールが飲みたいバス待ち組と、まだ歩き足りない比良駅までの歩き組に分かれ、ここで解散した。

《第19巻新発売》
—山の随想集—
山との出会い
A5判 320頁/定価1680円(税込)
新ハイキング誌常連寄稿家
55名が書下した山の随想集
山との出会い、花鳥とのであいい、い
どとのであいい、人びととのであいい、さ
まざまなであいい、その他、55編
発行所 新ハイキング社
〒114-0023 東京都瑞野117-6-13
☎(FAX共用) 03-3915-8110

(京都市北山グループ例会・
平成10年7月5日歩く)

- ▲コースタイム▼
坊村(1時間50分) 御殿山(40分) 武奈
ヶ岳(25分) コヤマノ岳(20分) 中峠
(40分) 金葉峠(30分) 青ガレ(40分)
イン谷口
▲地形図▼
2万5千1:花背・比良山・北小松
昭文社「比良山系」
ヤマケイ「比良・北山東部」

連載

1等三角点峰(5000m以上) 548座完登の記録(第12回)
口永良部島と東北の山旅

坂井久光

昭和61年1月、前日に鹿児島島から屋久島に渡船し、乗り換えて口永良部島へ渡った。波が高く飛魚が飛び込むほどにひどく揺れた。港に着いてからこの島に詳しく久木山氏と知り合い、新岳へ登りに来たと言おうと、親切に車で島の東端に近い湯阿温泉の民宿まで送ってくれた。
翌1月9日、車道を西へ歩き、寝待峠からの道との分岐近くの独標294号付近から琉球竹の群生する踏み跡をたどり、やぶを潜いでツツジが点々と茂る露岩の山頂一等三角点(5000m)に達した。西側は断崖で、北・東は展望が良い。南に新岳が噴煙を上げ、6577mのピークや6333mの独標が見え、海を隔てて屋

久島の高峰が眺められた。下山後、温泉で入浴してもう一泊した。10日は西の246号峰(1等点)を登って帰途についた。
同年3月19日、鹿児島島から三島丸に乗り、黒島の大里港には翌20日に上陸した。船岳の登路を村人に訊くと「あの山に何が出るのですか」とまるで山頂扱いで、「ただ山登りに来た」と答えてもなかなか信じてくれなかった。中里への車道をたどり、中里川を両側いて登るとヤギが何匹もネットの中に放されていて、メエーと鳴きながら近づいてきた。常緑雑林の下草はハナミョウガ・バラシが目立った。621号の山頂(1等点)へ着いて

現代平牧場より七時雨山



小嶺後、往路を下り、鹿児島港へ戻り、フェリーで大坂港に帰った。
同年6月1日、御正依山(1682m)の「二等三角点研究会」の例会があり、山中附近の忍野の民宿に泊まって登頂した。
同年8月6日から東北兩道券を買って東北の山旅に出発した。
7日に盛岡駅からバスで上松本に行き、

東からの登路を尾根伝いに南峰に登り、夏草をかき分けて北峰の東根山(一等・8283)に登頂した。

8日、黒森山(8377)・一等・点名無黒森山に登った。盛岡駅からバスで乙部経由登山口南野に着き、尾根筋道を登って登頂した。下山後、花輪線で荒屋新町へ行き旅館で一泊した。

9日、タクシードで旧代平放牧場に行き、山荘の前を通り、川を渡って茂った山道をたどった。南峰より北峰の七時南山(1063)の一等点に登頂できた。展望広大で、北方より良い道が付いており、ゆっくり休んでその道を北へくだった。牧場の車道に出た。荒屋新町駅から国鉄で一路東京した。

同年10月15日、また周遊券を買って東北に出かけた。八戸駅からバスで西島屋敷へ行き、長い車道を登って無線塔の立つピークを越え、740mの階上岳(一等)へ登頂した。展望広大で、東に太平洋の波浪を、北に八戸の市街や田園、西や南には岩手の山々が望見できた。往路下山後、国鉄で久慈市へ行き、三陸鉄道に乗り換えて野田村へ。

(一等・8144)へ。地方信仰の山でお社があり、無線塔が立っていた。展望も良く、太平洋や付近の山々が見晴らせた。下山後、再び三陸鉄道で南下し宮古駅で下車。兵宿で一泊した。

17日、国鉄山田線で豊間根へ行き、十二神山(一等・1331)に登った。登山口の航空自衛隊の門前で電話で火意を告げると、車で案内してくれ山頂を踏むことができた。宮古橋の黒光はずばしかった。豊間根駅から宮古線由で岩泉線の岩手刈原駅へ行き、タクシードで牧場を通り1059mの三差路へ着き、そこから歩いて峰ノ神山(一等・1230)を往復した。タクシードで戸塚へくんだり、和井内へ出て、安庭沢林道を走り安庭の湯へ。

金徳山温泉と石坂があり、明日から冬期休業で閉めて里へ帰るところだった。津し湯であるが、子宝の湯として近隣でも有名な温泉あらたかな温泉のようで、子を授けた人々のお礼まじりで奉納した金精湯がたくままつてあった。

18日、主人の車で和井内駅に送ってもらい、鉄道で茂市駅に出て山田線に乗り換え、盛岡から東北本線で郡山駅へ。そこから磐越西線で津川へ行き、麒麟山温泉(一等・8144)へ。地方信仰の山でお社があり、無線塔が立っていた。展望も良く、太平洋や付近の山々が見晴らせた。下山後、再び三陸鉄道で南下し宮古駅で下車。兵宿で一泊した。

泉の旅館に入り、「日本山岳会」越後支部の例会に参加した。藤島玄さんを始め、鈴木さんや斎藤弘さん等、懐しい友人たちとも再会できた。

19日、何台ものマイカーに分乗した一行は若松街道を南下し、三霧で県道に右折して室谷川沿いに走り、大久敷沢を高捲いて福島県境の日尊の倉山と鶴ヶ森山との鞍部の登山口に駐車した。そこから鶴ヶ森山(一等・1315)へ雪を踏んで登頂した。展望を楽しみ、岳友との楽しいひとときを過ごした。私は一行と別れ、会津の会員の車に便乗して只見川の源流霧来沢沿いをくんだり、只見川沿いに走り、只見線中野駅まで送ってもらった。バスで西山温泉に入り一泊した。

20日、会津の名峰博士山(一等・1482)へ登った。タクシードで大成沢の前田まで入り、博士沢沿いの登路をたどり道海湖コースの急坂を登り、ヒメコマツの茂るやせ尾根を通って山頂の三角点に登った。北方の展望が開け、大戸岳・七ヶ岳等、両会津の山々が重畳として眺められた。至福のひとつときを味わい往路を下山した。中野駅より西若松へ出て、会津鉄道に乗り換え会津田島へ。バスに

乗り換えて沼田街道を伊南川沿いに走り、南郷村の山口の民宿で一泊した。

21日、橋を渡り大橋の南の谷の林道を約1.5km進むと、山道が左に分かれるが、これが大博多山(一等・1315)の登路で、その地点から約3kmで山頂三角点に達した。展望は良好で、沢の水に登頂者の名刺入れが吊してあり、見ると会員の伊藤・滝沢氏の名刺があった。記念に持ち帰ってそれを付けたら叱られた。

小魚後、往路を下り山口から田島へバスで行き、会津若松へ出て、郡山駅から東北本線に乗り換えた。一等車で下車し、駅近くの旅館で泊まった。

22日、大船渡線で盛岡へ。車中で知り合った吉家・菊池若菜氏が「山の湯りに寄って泊まっていけ」と言って名刺をくれた。駅からタクシードで赤坂峠へ行き、五葉山(一等・1344)へ登った。良い道を通ると山頂近くは山小屋「石浦花荘」があった。その北の山頂手前には鳥居と石標が立っていて一等点があった。赤坂峠の通過で強風が吹き荒れ、早々に往路を下山した。赤坂峠からシカを見たりして五葉山までおりてきたら、土屋屋の若者たちの集合があり、呼び返されて

御馳走になった。その後、車で大船渡駅まで送ってもらい、菊池氏宅を訪ねて泊めてもらった。

23日、菊池氏に駅まで車で送ってもらい、盛岡行きのバスに乗り小股で下車。歩いていけると車が来たのでヒッチした。運転手が京都弁なので驚いて訊いてみると、八幡市の呉服商で行商の途中とか。地石峠まで送ってもらい、舗装道路を登って無線反射板や気象庁の標物が立つ物見山(一等・877)の山頂へ着いた。往路下山。途中五葉山でダンパーをリッチして水沢駅へ出た。遠野行きの急行に乗り、終点遠野駅で下車して駅前の民宿で泊まった。

24日、鞍馬駅へ行き、ヒッチして町集落まで入った。山手へ登って牧場吉岡邸氏を訪ね、登路を訊いた。彼は駒沢大学出の村会議員で、親切に登路を教えてくれた。歩いていけると車が来たので寺沢牧場まで送ってもらい、お礼を言ってお礼を言わせて南から登った。黒田影石の祠があり、いったん登ってササのフツシヤをかき分けてよじ登ったり、巨岩の下や隙間をぬって進んだ。距離は短いが、登ったりくんだりと思わず苦悶のすえ、

やっと石上山(一等・1088)の三角点に達した。ゆっくり休んで南へ踏み跡をたどった。北は東側に断崖が続いていた。南西へササを分けて疎林をくぐり、林道に出て街道へ。ヒッチして阿部氏宅へ戻った。甘い牛乳やコーヒーを御馳走になり、夫人の車で磐梯まで送っていただいた。花巻駅で乗り換えて夜行列車で東京へ。

25日、高崎線に乗り新町へ。バスで神流川沿いに走り、万寿町へ。電話して民宿「ろかば荘」へ入り、二等三角点研究会の例会に合流した。

26日、宿のマイクログラスで西側登山口へ。ここから約20分で赤久福山(1523)の頂上(一等・1523)へ。ゆっくり休んで見ると、御前山・両神山・金峰山から雲取山の稜線が紅葉の樹間を通して迎見できた。粟子峠へくだった。昼食をとり、民宿に下山して解散した。その後、秋村会員の車で神止山麓の「両神山荘」に行き、泊まった。

翌日は雨のため両神山への登山をあきらめ、東京へ出て、友人宅や垣子の伯父宅で泊まってから帰京した。

(文) 谷口 へん

信楽道を歩く 紫香楽宮を繋ぐ古道探索②

(信楽駅・和束町湯船五の瀬バス停)
企画・先達 武蔵野一郎氏

コースとコースタイム 信楽駅(10分)①信楽産業会館(1時間)②八坂神社(10分)③中野の北垣内へ少し上がる(元は天台宗長福寺だったという浄土宗の米連寺がある。本堂前に建つ「勢至丸さま石像」は法然上人の幼名を付けた幼児像で、本堂には東方米谷に寺跡を残す蓮華寺の客仏、釈迦・薬師如來と地藏菩薩の三体が安置してある。上朝宮の智光寺にも同じ「勢至丸さま石像」が建っている。
中野の橋の谷垣内にある旧村社の二童子神社は室町中期の創建で、天文十六年(1547)に再建され、さらに元禄十六年(1703)に建立したとある。

中村敏文

の三差路で国道422号線が分岐する。

② 八坂神社(信楽町作原)

立石橋から307号線北側に沿う旧道を行くと立派な信楽焼資料館があって、作原下村の産土神である旧牛頭天王社の八坂神社へ着く。鎌倉時代に頼主近衛家基が北西の畑村より当地へ遷された社で、兼盛鳴命をまつる。室町末期の天文年間(1531-40)に社殿を新築し、現在に至っている。祇園祭の花傘い行事で虫送り行事が作原の氏子によって継承されている。

作原郷は江戸初期に下村・中之村・上之村の作原三村に村切され、現在は信楽町の大字の作原・中野・杉山となっている。

④ 三所神社(信楽町上朝宮)

二童子神社から10分足らずで集落が途絶え、旧道は国道307号線を横切り、旧作原上之村の杉山に向かい、信楽スノーセンター北側を廻り、307号線より1.5km余りの廻り道をして再び旧道を横切

る。

国道北側に沿う旧道はすぐに上朝宮の街道集落へ入り、岩谷川を渡るど郵便局があって、北側山手の森に上朝宮の鎮守三所神社が鎮座する。

朝宮は千年の歴史をもつ有名な朝宮茶



の産地で製茶所が点在する。江戸初期の検地帳に上・下朝宮の茶畑は三町九反、茶樹二〇〇本と記録されている。慶長年間(1603-15)に浪津から移住した高原藤兵衛が茶器を焼き高原焼きの名を留めた。

三所神社の創建は不詳であるが、奈良時代に興福寺の僧義淵が、宇治田原と朝宮間に飯尾山医王寺を創建し鎮守社を建てたという。貞観十年(868)に飯尾山から現在地に遷座し、現在に至っている。

神は素戔鳴命とミツハメノ命・木花咲耶比売命をまつり、三層大明神と呼んでいた。南北朝の争いで大坂宮の令旨を受けた朝宮の地侍は南朝方に属し、北朝軍の襲撃を受けて神社も焼失している。

現在の本殿は宝永五年(1708)に大工棟梁三郎右衛門宗神が再建し、春日造の三間社切妻造に一間の向拝を付けている。奥行三間の扉屋は一間の外陣と二間の内陣に分け、内陣奥に三途をまつる。

明治八年に三所神社と改名し、翌年に村社となり、平成元年には

る。

八坂神社からさらに旧道をたどり、中野に入る10分足らずで米連寺があって、宝徳二年(1460)創立の二童子神社は寺寄り10分先に鎮座する。

③ 米連寺(信楽町中野)

中野の北垣内へ少し上がると元は天台宗長福寺だったという浄土宗の米連寺がある。本堂前に建つ「勢至丸さま石像」は法然上人の幼名を付けた幼児像で、本堂には東方米谷に寺跡を残す蓮華寺の客仏、釈迦・薬師如來と地藏菩薩の三体が安置してある。上朝宮の智光寺にも同じ「勢至丸さま石像」が建っている。

中野の橋の谷垣内にある旧村社の二童子神社は室町中期の創建で、天文十六年(1547)に再建され、さらに元禄十六年(1703)に建立したとある。

江戸中期の神社様式を残す本殿が県指定文化財となる。現在も茅葺の七棟の宮産が残り、今座・大座・平座・後座・庭座・新座・出ヶ座の組織が保存されている。

三所神社から浄土宗盛光寺前を通り尾花バス停前から西へ向かい、上畑バス停を通り下朝宮の診療所前まで国道へ入る。旧道を少し行くと左へ朝宮小学校前へ分岐する旧道へ入る。15分程で三差路へ出ると右へ分かれ杉山へ上がる。

⑤ 作時(信楽町・和束町湯船)

湯船峠とも呼ぶ海拔3411mの作時は、作(コナラ・クスギ・オオナラなどの総称)の樹木に由来する地名で、天平時代に紫香楽宮造営のための資材運搬路として整備された。南北朝時代の朝宮城主親見俊純と和束の米山義快の作時の戦いは朝宮合戦という。元禄時代には松尾芭蕉がたびたびこの峠を行き来したと記録もある。

また、江戸時代から大正時代までは朝宮茶の茶摘みの手伝いに、大坂方面から多くの女性が行き来したといわれる。昭和になり、加茂と信楽間に四鉄バス道路が開通するが、作時の北西2kmの地峠を越えて現在の国道307号線に通じ

新ハイキング選書

〔第6巻〕

花の山を行く 松本雪枝 著

その足跡の広い、山の花をたずねてのしみじみとした紀行文集

★上製本・日6刊、約356頁 定価1835円(税込)

★三刷発売中／ 富田弘平 著

旅がらすの山 北日本編、東日本編、中日本編、西日本編、南日本編、四国編、九州編

★上製本・日6刊、約356頁 定価1835円(税込)

★三刷発売中／

〔第9巻〕 安藤北義／市川伸子／藤野野矢／河田繁／松本浩 著

一等三角点の名山100 北好道から好道まで、全道1000以上の一等三角点の山々の佳景の紀

行案内文庫、詳細なガイド地図入り

★上製本・日6刊、約356頁 定価1632円(税込)

★三刷発売中／

〔第15・16巻〕 市川伸子／河田繁／河野純一／山本健一／藤野野矢 共著

日本300名山ガイド〔東日本編〕

★上製本・日6刊、約356頁 定価1632円(税込)

★余日本編八版発売中・西日本編七版発売中／

〔第11巻〕

いで湯浴泉記 大石真人 著

あまり知られていない温泉地を訪ねた大石真人の、また、知られてい

ない温泉地を訪ねた大石真人の、また、知られていない温泉地を訪

ねた大石真人の、また、知られていない温泉地を訪ねた大石真人の

★好評発売中／

〔第12巻〕 新ハイキング自然歩道ルン 後藤典重 編著

★好評四刷発売中／

〔第13巻〕

甲斐の山山 小林経雄 著

★改訂二版新発売／

〔第14巻〕

百歳までの山登り 富田弘平 著

★好評二刷発売中／



作付付近の茶畑

いに湯船の集落を2、3余りくたると、和東川溪谷の一の瀬・二の瀬と続く上流の湯船五の瀬のバス停へ行く。旧湯船村の鎮守白山神社は、北側の山手へ一七八段の石段上の山麓台地にある。

創始不詳だが、イザナキノ命をまつり、熊野社・古田社・大塚社の境内社がある。境内に湯船の地名になった一層大の木製湯桶もある。もとは石船で村人が年末に一年の汚れを洗い清めたと言われる。

和東町は昭和二十九年に町制を置き、同三十一年に湯船村を合併した。65平方キロの八割を山林原野が占め、奈良時代からの和東柚に比定される。加茂町域に森仁京進宮が跡残り、木材の供給地として天領の柚からその後は興福寺領になる。和東町最南端の鷲峰山は奈良時代に開かれた大山戸霊場で、金輪寺を拠点とする修験道の北の山上として栄えていた。

⑤五の瀬より加茂駅 和東川沿いのJRバスは本数が少なく、バス利用は事前調査が必要である。16時過ぎ発のバスに乗りすると原山を経て25分ほどでJR関西線加茂駅へ到着する。

ケシ(Papaver somniferum)

ケシ科

古くからヨーロッパで栽培され、日本では江戸時代に津輕藩で栽培の記録がある。麻薬植物のため現在、栽培は厚生大臣の許可を必要とし、麻薬成分を含む同属植物も同様に栽培が規制されている。

双子葉植物科一年草。さくは卵状球形で無毛(後蕾期のケシは有毛)。未熟な果実を硬くついで乳液を果肉、乾燥すると黒い塊(生薬を「阿片」とする。成分は、アヘンアルカロイド(モルヒネ・コデイン・パペリン等、干草麻、メコン酸等を含む。モルヒネは選択的に疼痛を鈍麻させるので薬の末期等、深刻な痛みにも役立つ他、強力な止咳・鎮咳作用も持つ。しかしその反面、副作用として頭痛・嘔吐・血吸困難等があり、急性モルヒネ中毒は昏睡、呼吸抑制、やがて死に至る。

アヘンアルカロイドは精神依存性、身体的依存性があり、連用による習慣性が非常に強い。慢性中毒を起こしやすく、大量に用いると死に至る。薬物が簡単に手に入る時代こそ、使う人の理性が問われるのではないだろうか。

●振替でのご注文は 発行所 新ハイキング社 振06138-9-146915 東京都北区流野川7-8-13 電(03)3915-8110 送料当社負担

河内の国士師の里を訪ねて

松永恵一

土師の里

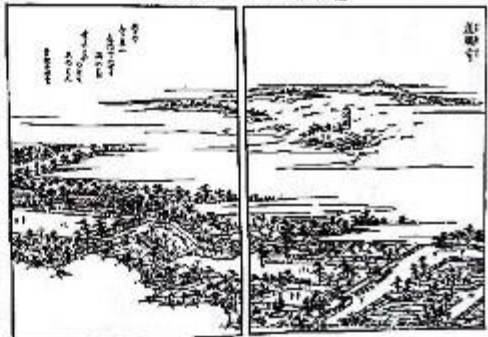
近鉄阿倍野橋駅から徒歩に乗車。一路南下して大和川を渡り、河内野に入ると道路を東に向ける。反正天皇の河内丹比宮址と伝える松原を過ぎ、雑路大皇陵との説の強い大塚山古墳を右に見て直進する。藤井寺球場、西園寺遺跡第五層礼所の墓井寺を右に見、右手の仲津橋陵、左手の尤基天皇陵に挟まれた窪地の駅、土師の里を通過したところで大きくまた南に曲がると道明寺。このあたり一帯がかつての志紀郡土師郷、謡曲が囁いず清濁の語る「河内の国士師の里」である。

「土師」の由来は、『日本書紀』によると、垂仁天皇の皇后日葉酢媛命が崩ぜられた時、野見宿禰が生きた人間の代

わりに地の人馬を陵墓に立て殉死に代えることを願い出た。天皇は大妻喜ばれ城輪と名付けて、以後殉死を禁じられた。天皇は宿禰に土地を与え土師郷に任ぜられた。宿禰は姓を改めて土師百重を名づけた。陵墓構築に携わった土師氏は、陵墓の造宮技術者・責任者として、古市古墳群に本拠を構えた。堺市の古市古墳群にも土師の集落が残る。

土師氏の一族は大和の宮原と秋篠にも住居を構えた。桓武天皇の御代に、土師の姓は過去に崇徳と關係があった姓だから改姓したいと願い出て、宮原の姓を賜る。菅原道真は土師氏の末裔で、父相の旧地の氏寺土師寺に叔母の覚寿尼をしばしば訪れた。菅公の没後、天歷元年(日

道明寺「河内名所図会」



47)に、菅公の一名である道明をとって道明寺と改称、暇乞いに立ち寄った折りに菅公が自ら刻んだ荒木の白像を合祀し、天満宮の称が起った。

天清天神信仰の本拠は、北野と太宰府。菅原道真の栄達之地と失意のうちに亡くなった地の二つの天満宮。その分社は全国に一万一千を超えという。道明寺天満宮は大塚天満宮・防府天満宮とともに代表的な社である。

土師寺

尼寺として著名な道明寺は古くは土師寺といひ、藤原氏の崇仏派に加わったと伝える土師氏の氏寺であった。寺跡は道明寺天満宮の南側で、一段と低くなつた標高24坪の沖積段丘上であり、東西約200坪、南北約200坪と推定される。民家が密集しているため、具体的な伽藍配置の遺構は明らかではない。

天満宮正面の石段下から南へ約80坪余りのところに塔の礎石が残る。直径2坪余の塔心礎は、中央に逐約9坪、深き約15坪の円形の穴が穿けられ、一方に細い溝が刻まれている。

『道明寺古伽藍図』によると、塔・金堂・講堂が、南北一直線上に並んだ四天王寺式伽藍配置の寺院で、塔は五重塔で金堂は二重櫓造りであった。

境内地からは白鳳時代の山田寺式の古瓦が出土していたが、新たに豊浦寺式に限する高句麗緑式の軒瓦が出土し、聖徳太子の時代に土師八嶋、池が創建したと伝える土師寺の縁起を更ける。

寛永十年(1633)、石川の大水で大相首を受けたので、石段上の天満宮の跡内に移し再建された。

菅公遺愛の品

菅公遺愛の銀装革帯・玳瑁装牙輪・牙笏・青白磁円鏡・伯牙彈琴鏡・犀角柄刀子の六点は国史に指定されている。『道明尼律寺記』によると、これらの器物は菅公の没後、太宰府の安楽寺より叔母の覚寿尼に届けられたという。

青白磁円鏡は唐時代の焼き物で、二十個の猫足型の支脚(欠把)を周囲にめぐらし、その上に二重の円縁を作り出し、その部分に美しい青白磁がかり、珠玉の如き光沢を示している。内部は種をかきず、磁肌をそのままとし、墨のおりをよくしている。円形瓦硯は各地で出土しているが、このような磨削はめずらしく、極めて貴重なものである。今ならお墨が表面に残り、菅公の姿が想はれる。

伯牙彈琴鏡はやや鈍い八花型を示し、池の中の魚を鏡として、その周囲に伯牙が琴を弾するさま、鳳凰・靈獸・瑞雲などを表している。唐朝の銅鏡にしばしば見受ける文様で、鏡としてはめずらしいものではないが、菅公の遺もりが伝わってくる。

また、菅公の遺愛品と推定された重宝文化財に指定されている。

土師寺の木霊樹

謡曲「道明寺」は伝える。相模の国田代の尊性上人が、極楽往生を願って参籠した信濃の善光寺で、河内国の土師寺にある木霊樹の妻白八個で数珠を作り念仏三昧すべしとお告げを賜った。尊性は信濃から戻るばる土師寺に来て、樹を探していたところ、木霊樹の靈が白髪の老人となって忽然と現れて、靈の所在を教えた。尊性はさっそく数珠を作り、念仏三昧のうちに、めでたく極楽往生を遂げたという。

菅公と鶏鳴

菅公が藤原時平の體言で太宰府へ流されることになった時、今生の別れと思ひ、叔母の覚寿尼を訪ね一夜の名残りを惜しんだ。その名残りもまだ尽きぬうちに、一番鶏が鳴を告げた。菅公は常より早く時を告げた鶏の音が恨めしく、啼けばこそ、別れもうけれ、鶏の音の鳴からむ里の、嗚もかな。の一首を詠んで、さびしく立ち去った。それ以後、里人たちは菅公の名残り尽きない気持ちに思ひを寄せ、鶏を飼わなくなった、という。



道明寺本社『河内名所図会』



コース概観

今回は、学問の神「天満天神」菅原道真ゆかりの地、河内の国土師の里を訪ねてみた。治安二年（1023）には、高野参りを済ませた藤原道長が参詣し、明治十年3月12日には大和行幸の明治天皇が、社務所に御駐駕あらせられた。道明寺あたりは春がよい。天神さんの梅が散り、3月の25日になると菜畑の御供があり黄色い団子が売られる。

近鉄南大阪線の道明寺駅で下車。南に出て、常夜灯に導かれ右に折れ鳥居をくぐる。しばらくまっすぐに進む。突き当たり「古代道明寺五重塔礎石」の碑が玉垣内に建ち大小九個の石が残る。すぐ南側には道明寺の南門が残っていたが、今は解体され礎石のみを残す。玉垣の左に往時の道明寺の門が残る。奥に天満宮の摂社、俗に三社神祠と呼ばれる西の宮が遺跡する。中央の祠の右側の木が木霊樹。時はその木の孫子の代に移ったが、府の天然記念物に指定されている。菅公は元慶八年（884）夏、五部の大乗経を書写し、その経を納めるべき地を巡っていると、三人の聖が現れ、納経すべき地を指示し忽然と消えた。この経塚から木霊樹が生えたという。三人の聖は伊勢・春日・八幡の化身であった。参道をまっすぐに進む。右手に新築なつた別荘「梅の家」がある。正面の石段の右に「三ツ塚」の八幡塚の頂上から移された「八幡君之廟礎」と刻した碑、菅公が大乗経を書写したときに使用したと伝える「夏水井」の霊水が残る。門の側に「土師窯址」の石碑がある。

石段の道は大きく右に曲げて付けられる実験に使用するために、宮大工・西岡常一氏らによって復元された。明治五年の神仏分離令は「宮寺」を分割し、道明寺駅からすぐ西の台地の旧境内地に道明寺天満宮を置き、道明寺は堂宇一切を道一つ離れた西側に移された。菅公と覚誓尼との一夜の別れを描いたのが「菅原仁移千菅笠」の道明寺の装。いかにも尼寺に似つかわしく、塔門の先に小さなたたずまいを見せている真三葉菜御室塚に眠る蓮土山道明寺は、ひっそりと静まり返っている。

ている。かつては正面に道明寺の本堂があった。社殿は権現殿より、大きくてどっしりした礎は翼を張り広げた大鳥のように見える。右手の巨大な建物は社務所・天啓殿。その礎は近鉄の車窓より緑の柱の上に浮かび上がって見える。東風吹かば、にはひおこせよ、梅の花 主なしとて、春な忘れそ 菅原道真 春になって東の風が吹いたならば、風のにせて香りを九州太宰府まで送っておくれ、梅の花よ。主人がいなくなつたかうと云って春になつたのを忘れないでくれ。（拾遺和歌集巻一六・1006） 太宰府に流されるとき、邸の匠の梅を見て詠んだ歌。苦しい心言わず梅の花に一家離散の惜別の情を託した。 菅公が梅を愛したことは有名。社殿の裏手は梅園。約八十種、千本近くの梅の木が植えられている。花の頃は見事で、紅梅白梅の清麗と妖艶華麗を併せた梅の華やきが賑う。「棠成梅」は実が落ちないところからこの名がある。 祭神は学問の神様、菅原道真。天種日命と覚誓尼を配祀する。御神体は叔母覚誓尼に残した菅公白眉の影絵。



本殿の西方、大樹の蔭下にある土蔵造りの宝物館は、先の大戦時に大阪市、堺市の動かすことのできる国宝の疎開先となった。四天王寺の圓面法華経や仏像等祖先の残した民族的遺産は、秘密裡に運ばれ、この地で終戦をむかえた。 隣の廻廊の中に復元された「修羅」が置かれている。この大小二つの木霊は、昭和五十三年、仲津婦陵の南にある、「三ツ塚」の中山塚と八幡塚の間の濠底から発見された。修羅の使用方法を確認するために、多くの人々によって差引す

る実験に使用するために、宮大工・西岡常一氏らによって復元された。明治五年の神仏分離令は「宮寺」を分割し、道明寺駅からすぐ西の台地の旧境内地に道明寺天満宮を置き、道明寺は堂宇一切を道一つ離れた西側に移された。菅公と覚誓尼との一夜の別れを描いたのが「菅原仁移千菅笠」の道明寺の装。いかにも尼寺に似つかわしく、塔門の先に小さなたたずまいを見せている真三葉菜御室塚に眠る蓮土山道明寺は、ひっそりと静まり返っている。

の末梢に至るまで一木から彫りだし、その精細な彫刻は、大彫として技巧の完璧を示した像である。相好は円満で、しかも威厳があり、体躯の肉付き豊かで引き締まり、肉眼には黒い石をはめ込んで、生彩ある眼の表現に努めている。衣紋の扱い方は温厚で、写実性が現れ、平安時代後期の最も早い頃の代表的傑作である。 『河内名所鑑』に「道明寺 あつさをすくふ、ほし飯こそ、衆生みちびく、菩薩なりけれ」と記された名所、道明寺は社務所で求めることができる。宮中や将軍家にも献じられた梅は、豊太閤の記した「はしいひ」の文字に収められている。

『道明尼律寺記』には、土師八幡がこの地に住み、住居の北に先祖をまつていたが、聖徳太子の尼寺造営に協力、脚宇を喜捨し寺にしたのが始まりであると伝える。菅原道真は叔母の覚誓尼を慕いこの地を訪れ、元慶四年（880）、夏に三尺の十一面観音を刻み納めたのが今の本尊だといふ。非常にすぐれた木彫像で国宝に指定された。梅の一本並りのいわゆる権現彫刻で、高さ約1.7m、表面は彩色を施さず、素地のままで仕上げられ、わずかに面影、眉などに胡粉、朱などをさしている。直立不動の姿勢を示し、頭頂の十一面、剣（うでわ）、璽珠、袈裟

- △コースV
- 道明寺駅→古代道明寺五重塔礎石→木霊樹→道明寺天満宮→道明寺→三ツ塚→仲津婦陵→鍋塚→土師の里塚
- △費用
- 近鉄南大阪線道明寺駅→道明寺駅 340円
- △地形図V2月5日古市
- △問い合わせ先V
- 道明寺天満宮07229（53）25225
- 道明寺 07229（55）0133
- 梅の家 07229（55）1104

三ヶ谷コースから

ウリュウド

中級コース(★★)
慶佐次 盛一

ウリュウドとは変わった山名だ。地形図に山名の記載はないが、いわゆる通の岳人には播磨の2等三角点峰として知られている山である。しかし、紹介されることのない不遇の山でもある。もちろん地形図には登路も記されていないが、安高町の「やすとみグリーンステーション 鷹ヶ臺」のハイキングコースを利用すれば登りやすい。

ウリュウドから安高町と夢前町の町界鞍線を北上して雪彦山のハイキングコースに合流し、大天井岳に登り、雪彦山のバス停へくだれば、一日コースとして楽しめるだろう。ただしバス便は少ないので、バスの時刻をよく調べておくこと

私たちは大天井岳から虹ヶ滝への道場をくだったが、このコースは以前に比べるにかなり荒れていたから、出雲岩コースをくだることをおすすめする。

JR姫路駅前の神姫バスセンターから、8時30分発の閑行きのバスに乗り、終点で下車する。閑は静かな村でソウメンを作る工場もあり、季節によればソウメン干しののどかな風景も見られよう。

バス停から先へ進むと、東にウリュウドの山並みが見え、「グリーンステーション」の施設が右に見えてくる。このあたりは安高町が開発したリクリエーション施設で、いろいろなハイキングコースが設けられているので、お好みのコースを選び一日を過ごすのもいいだろう。

私たちは龍股を見送り加賀瀬橋を渡り、「三ヶ谷コース」の道標から右折して三ヶ谷右岸の林道を進む。ほどなく三ヶ谷流が現れる。静々と水を落とす落差10メートルの滝である。滝を右側から登き上げると、谷沿いの道は左岸へと移る。セメント製橋木の階段がしばらく続き、展望台、千畳ヶ滝への道標を左に通じると、やがて千畳平への道標が現れ右折する。傾斜のゆるんだコースの林内コースをた

静かなウリュウド山頂



千畳平は芝生のテント場で、展望に恵まれウリュウドの山並みもぐんと近づくと息入れて傾斜のゆるい鞍線を東南へ進む。ハイキングコースではないが、福林帯のなかに踏み跡が続く、一部木の階段まであった。植林帯を放けると伐採地となり、安高町と夢前町の町界鞍線を日かけてひたすら高度を上げる。ここはやぶこぎを覚悟していたがラッキーだった。当然踏み跡は消えたが、歩きやすい伐採斜面を選びながら高度を上げていくと袖道に出会い、それをたどれば町界鞍線の840級の等高線がすばらしい。

ここは北と西側の展望がすばらしい。私たちが登った3月には、白い雪を頂いた氷ノ山や三笠山、日名倉山・柏松山・

大甲山・黒尾山など、胸のすくような展望が広がっていた。

しばらく展望を楽しみ、危険なネットを越えて鞍線を南下する。もう踏み跡はなく、雑木のなかの小さな起伏を越えるとうリュウド(806.5m)の頂上に着く。古い簡易測量標の下に2等三角点が埋まっている。北向きの三角点だった。10人も座れば潰れ状態でおまけに展望は無という狭い山頂だったが、登頂標



もない静かな山頂に満足した。

昼食をとり、元の840級の等高線ビークルまで戻って再び展望を楽しみ、町界鞍線を北上する。踏み跡が続いていたが鞍線には危険なネットが張られ、しかも倒れているところが多くて歩きにくい。いくつかの間にかそのネットも消え、千畳平からの雪彦山へのコースと合流し、雪彦山のハイキングコースとなる。

道標に従い大天井岳へ向かう。ここからは歩きやすいハイキングコースでハイカーともすれ違う。私にとっては約20年ぶりのコースで、しげんと歩行もはかどり、新下山コース・虹ヶ滝コースを経て大天井岳(約900m)に着く。二度目の頂の祠に参拝をして、山頂からの懐かしい展望を楽しむ。

足下に板根の小さな村を見下ろし、すぐ近くに七種山・七種橋・七種茶師を中心にした七種山塊が望め、南には明神山が小さな頂を尖らせ、そのほのか南方には瀬戸内に浮かぶ家島諸島までが望めるという展望の良さで、私たちがたどってきたウリュウドの山並みも見えた。

展望を楽しみ、少しあとに戻り、虹ヶ滝への下山コースをくだる。垂直に近い

鎖場がしばらく続くが、以前に比べるとかなり荒れている。不行岳や地蔵岳の岩場を見上げながら虹ヶ滝へ慎重にくだった。

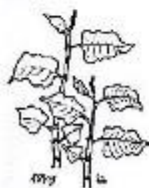
虹ヶ滝から寶野神社へのコースを進み、途中からユースホステルへのコースをくだる。足の疲れを覚えるところに車道に出て、バス停に着いた。

△コースタイム▽

- 姫路駅(神姫バス・約1時間) 関(約30分)
- 三ヶ谷流(40分) 千畳平(40分) 鞍線(15分) ウリュウド(50分) 雪彦山コース(20分) 大天井岳(50分) 虹ヶ滝(25分) 雪彦バス停(神姫バス・約1時間) 姫路駅

△地形図▽2万5千1寺前
△問い合わせ先▽
神姫バス経営営業課

0729(55) 29900



雑木林ウオッチング

金鳥山から森林管理道

初級コース(★) 吉村 迫

六甲前山の金鳥山から、住吉川方向にのびる森林管理道を歩いてみよう。ちよと七兵衛山・打越山あたりの南側山腹を歩いてたどることになる。海拔高はほとんど500m前後で推移しており、このため「水平道」と呼び習わされている。軽ハイキングの速地で、労力の要らないぶん、適宜場所を選んで雑木林ウオッチング(ただし樹種調査)を試みよう。なお本コースには水場がない。もし水を汲み忘れたら、保久良神社の手水を使おうしかないだろう。

阪急岡本駅のガードをくぐって、住宅街を東に行くと、街角に保久良神社入り口の道標がある。山側に向かうと、参道

となる。

毎朝登山の人たちが、一人、二人とおりにてくる。笑顔で朝のあいさつをされ、私も慌てて返す。やがて保久良神社。聖域たる社叢に囲まれている。ヤマモモの古木が見事で保護林となっている。林内に立ち入らないで、外側からの観察だけにしておこう。踏みつけが群衆のバランスを崩すからである。ヤマモモのほかにはアカガシ・ヤブニッケイ・クロガネモチ・ネズミモチなどが見られるだろう。

毎朝登山の記憶所があるが、この小さな建物の左方を通り込んで、金鳥山に取りつく。隣の青空ロックガーデンとは対照的なおだやかな参り道で、まもなく、木製ベンチが左右に幾つか置かれている広場に出る。このあたりが金鳥山だと思われるが、最高地点は明瞭でない。

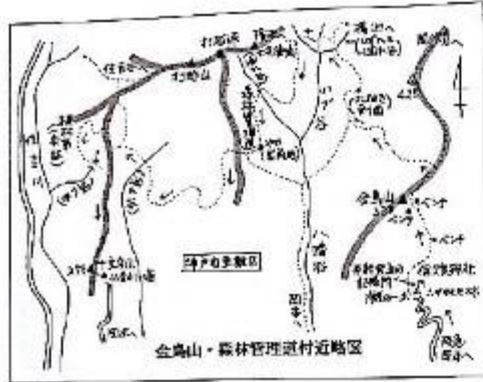
広場から森林管理道入り口まで500mほどである。入り口を見落とすことはないだろう(道標あり)。

森林管理道はよく踏まれていて、とても歩きやすい。休日のこととて人通り皆無ではなかったけれど、六甲の他のコースに比べれば格段に静かだ。

道が右に廻り込み、たまたま北向き斜道に分かれている。右方に登っていく道は横池に至るもの。つい先ほどの最初の小谷にも、横池への登り口があった。だいたいこの次登道には分岐点が多く、どこからでも打越止の山腰に上がった。あるいは八幡谷におりたりできるようだ。さすが表六甲、どの枝道もよく踏まれている。本ガイドではずっと水原道を進み、十文字山に向かうのだが、道標は完備しているから心配は要らない。

相変わらず高低を見ない道を行く。湖れ谷を渡る。この谷は打越時につき上げている。250mほど行くと、道は尾根を知り込む。南面した斜面は日当たりがよく、林みたくなる場所だ(木製ベンチ二つあり)。また、当所はやや岩角地であるため、出現する水を確認しておきたい。アカマツ・コナラ・ヒサカキ・カナメモチ・アカメガシワ・イヌザンショウ・イヌツゲ・モチツツジ・コバノミツバツツジ・ネジキ・テイカカズラ・コウヤボウキ。岩角地の傾向は少し出ている。

さて、ヒサカキはごく普通に見られる種ということになる。六甲全般について



金鳥山・森林管理道村近路区

森林管理道



面に入り込んだので、さっそく出現する樹木を調べてみる。ヒノキ・イヌビワ・アケビ・ミツバアケビ・ヤブツバキ・ヒサカキ・コアジサイ・カマツカ・ヤマハゼ・ソヨゴ・マユミ・ナワシログミ・アゼビ・カンサイスノキ・ヤブコウジ・ムラサキシキブ・コックパネウツギが生えていた。ただしヒノキは植えられたものである。

もそうであろう。ところで区鑑類によく書かれていることだが、ヒサカキは、関東・東北地方南部においては、サカキの代用として神前に供えるのだという。私は以前、砂山帯でサカキ・コウヤマキとともにこの木が鉄花として使われているのを見た。関西人もかつてはヒサカキを重用したものと私は思う。

十字路をなす分岐点に着く。ここももちろん直進。「住吉谷へ1.5km」とある分岐を最後に、植林帯の一筋道をひたすらくぐると、十文字山の仏舎利塔の右腹に飛び出す。どうも自然景観に調和しない建造物だ。ここから舗装された車道をくだるが、急勾配の道だから、足を痛めないように。住宅地に入り阪急岡本駅に向かう。(平成10年11月15日歩く)

△コースタイム▽
阪急岡本駅(35分) 保久良神社(25分) ベンチのある広場(12分) 森林管理道入り口(14分) 北向き斜面(7分) ハブ谷(18分) 岩角地(32分) 住吉谷への分岐(40分) 十文字山(38分) 阪急岡本駅(観察所要時間は含まず)
△地形図▽2万5千1西宮

巨岩怪石の展望台

金勝アルプス(大津コース)

初級コース(★)

柴田 昭彦

鷲冠山(江戸期には鷲冠山と記され、「リ
いかんざん」という読み方は本来、鷲リ)の
南方の鞍部から白石峠を経て竜王山に続
く山稜は、花崗岩の風化した巨岩怪石が
散在し、旧村名の金勝村(栗原町の一部)
からかつて「金勝アルプス」と呼ばれて
いる。昭和4年に創元社から出た『関西
ハイキングガイド』と『京都周辺の山々』
には金勝アルプスの名称が見える。近畿
登山研究会「近畿の登山」(ケナチ会、大
正13年)には、「別南アルプス」(太神山、
葦山、天宮ヶ嶽、小竹生ヶ嶽)とは独立し
て、金勝山として紹介されていた。現在、
大津管林署では一言を「近江湖南アルプ
ス」と呼んでいる。

今回は、大津市側からのコースを選ん
で紹介しよう。栗東町側からのコースは
次回にゆずることにする。なお、地形図
の影射で、津原仏へ登る山道の位置が間
違っているガイド地図が多いので、注意
を喚起しておきたい。

JR津浦線東口を出て、菅原湖南交通
バス、上桐生行きに乗る。終点バス停か
ら東方に進むと車止めがあり、すぐ先の
駐車場入り口に「桐生総合案内所」があっ
て大津管林署によって整備されたコース
の全貌が分かる。「総・滋賀ハイキング
ガイド」(昭和社、03・33373・627
0、1994年)と友保深雪編著「京阪神
ベストハイキング&キャンピング」(七賢出版、
1995年)が参考になる。

まずは、鷲冠山を巡るコースから述べ
よう。駐車場から奥山北谷林道をたどり、
途中で右折して、落ヶ滝線に入る。沢を
何度も渡るが、お松の流の手前の道標分
岐で、右をそのまま進む。落ヶ滝への分
岐を見送って、岩場や小流のある自然庭
園のような所を抜けて、落ヶ滝線終点の
分岐に出る。左折して坂道をたどる。途
中、倒木が目立つ。やがて、二等三角点
のある鷲冠山の山頂に着く。西側にわず

石怪岩見たる



かな展望があるのみである。北風の踏
跡は行き止まりである。北西側の山道を
たどる。倒木で道が塞がれている所があ
るが迂回して進む。道標の地点に出る。
北側の境界尾根道は荒れていて進入禁止
になっている。道標に渡り、南西へ支尾
根をくだる。少し急坂もあるが、ほどな
く歩きやすくなり、道標分岐に出る。直
進すると山道から奥山北谷林道で駐車場
へ戻れるが、林道は草深い箇所が多く歩
きにくいので、分岐で左をとり沢沿いの
道をくだる。途中に小流がある。出た所
は登りで通過した落ヶ滝コースの道標分
岐で、左手の岩場にお松の流がある。右
をとり上桐生バス停に戻る。

次は、奥山南谷林道から拍敷線に登り、
北崎線峠を経て落ヶ滝線へくだる。一
番ポピュラーな回遊コースを取り上げて



みよう。上桐生バス停からまっすぐ桐生
若人の広場を右手に見ながら行くと、明
治22年に築造されたオランダ球場がある。
親水広場を左に見て、「又野野宮場へ
の道」を左に見送って、橋を渡るとすぐ左
手に逆さ観音を示す石標がある。清水燈
明「近江の石仏」(創元社、昭和51年)に
は、地蔵で転倒したらしいとするが、大
阪管林署大津管林署発行「ふれあいマッ

プ」(平成5年)には「ダム庄の石を採掘
した際、背後が倒りとられ、逆さに倒れ
たもの」としている。どちらも伝承らし
く、真偽は不明である。

有名な拍敷燈明仏のある拍敷線は、
万も千分の1地形図(二五万)では、昭和
43年改測以来、現右の平成6年修正測量
に至るまで、一貫して間違った位置に記
載されてきている。その破綻が記入され

た谷(止助ノ谷上
流)には通行でき
るような道は存在
しない。栗東町の
1万分の1地図
(平成6年修正)に
は、拍敷線の位置
が正しく記載され
ているので、参考
にされることよい。
左にブロック壁
を見るときは先で
野宮方面への林
道に続く散歩道が
左手にある。まっ
すぐ進むと第二名
所西道道野宮生東

工事が行われていて、右手の中ノ谷林道
も立入禁止で、オリエンテーリングコー
スも利用できなくなっている。ここがト
ンネルの西口になるようだ。少し先に工
事に伴い仮設歩行者通路(平成11年)を
設けてある。左手にビッタの河床
を見て、水溜線線左に見送って進む。
先で、橋がなくなっている所は右に迂回
路がある。すぐ先で林道は右へ大きく迂
回するが、左の山道をとると近道となる。
やがて右に小さな池があって、すぐに、
奥山南谷林道終点(拍敷線終点)に着く。
道標に従えば、拍敷燈明仏(奈良後期
平安初期、国史跡、国見石(左手に見え
るが、危険なので接近禁止)、三つ石を
経て、天狗岩(昭和40年代頃はここを耳岩
とか牛の背と称していたが、昭和50年頃か
ら天狗岩に定着した)に続く。北崎線
を北へたどると、おもしろい形の岩が散
在し、展望のよい場所も多い。



狛坂岩壁にて

うな岩場がある。道標分岐から落ヶ滝線
をくだり上桐生に戻る。
兩峰縦走線は大津市の1万分の1地図
〔平成7年修正〕に明瞭に記載されている
が、第二名神高速道路の建設のために、
中ノ谷林道の工事が始まり、利用できな
くなっている。
オランダ根堤の先の分岐で左折して一
丈野野営場から天狗岩線で耳岩に達し、

に瀬戸ヶ滝とあるが、大津宮林署の
「ふれあいマップ」ではもっと北にある
滝を指す。作業棟の先で林道に出て、ほ
どなく山道になる。
左手の溪谷の岩場に瀬戸ヶ滝などを見
て、少し東に歩くと分岐があるので、左
の近道をとって西に進み、板橋を渡ると
すぐ分岐がある。今まで歩いてきた桐生
辻線(瀬戸ヶ滝林道)の終点であり、右の茶
臼観音線(茶臼線)の起点ともなっている。
谷沿いの道は途中で西の尾根に取り
ついて雄木林のなかを登ると、やぶもな
く白石峠に出られる。
茶臼線起点の分岐に戻り西進すると、
林道らしい石積みが残るが、崩落などで
山道同然になっている。展望が開ける所
もあり、岩場も周辺にあつて楽しく歩け
る。狛坂谷沿いの道に出合う直前まで、道
が分岐している。右は沢を横切る道、左
は林道の橋が崩落しているが、どちらで
も通行可能である。狛坂谷道に出合つて
右折し、奥山南谷林道で上桐生に出る。
左の狛坂谷道は悪路のため、一般ハイカー
は立入禁止になっているが、通行は可能
で、狛坂谷に沿う小流を見たりしながら、
道なりにくれば、最後の沢を越えて石

分岐まで戻り、水晶谷線をくだるコース
もすばらしい。天狗岩線は最初は沢沿い
の道で、何段も飛び石に沢を渡り返
して、自然庭園のような所を通り、小流
の所で、右の尾根に取りつき、道標の立
つ水晶谷線終点分岐に出る。ここには、
怪礫石という高さ4mほどのおもしろい
形の岩があり、小林圭介編『栗東町の自
然』(栗東町観光協会編、昭和59年)には
「有名」な奇岩怪石の一つとして写真も
掲載されている。見る方向によって姿が
変わるのが楽しい。ここから巨岩への天
狗岩線の尾根道は、ロープや鎖のある箇
所もあるので、足元に注意して登ろう。
天井石が突つて窓のできた岩もある。耳
岩での展望を楽しんでから引き返し、怪
礫石からは水晶谷線をくだる。尾根筋か
ら左へおける所に道標があるが、そのま
ま尾根を進むと正面に巖のある顔のよう
な岩があり、その左手には猫そっくりの
岩が耳を立てていて、自然の造形に感心
させられる。道標からくんだり、水晶谷に
沿うコースを行くと、シダ植物が目立つ。
沢に白い石英が散乱していて白石谷
〔栗太町誌〕の旧称を裏付ける。石英の
結晶である水晶は今では見当たらないよ

- 垣のみ残る住居跡を通り抜け、桐生辻バ
ス停に戻るができる。
(平成9年11月9日・平成10年8月30日
・9月20・26・27日・10月4日歩く)
- ▲コースタイム▼
- 上桐生(1時間) 落ヶ滝線終点(25分)
 - 鶏冠山(40分) お松の滝分岐(30分) 上
桐生
 - 上桐生(1時間) 狛坂線起点(40分) 白
石峠(1時間) 落ヶ滝線終点(55分) 上
桐生
 - 上桐生(20分) 一丈野野営場(45分) 怪
礫石(20分) 耳岩(15分) 怪礫石(25分)
 - 水晶谷線入口(30分) 上桐生
 - 北案内板(尾根コース・45分) 怪礫石
(水晶谷線・北分岐線・40分) 南案内板
桐生辻(40分) 茶臼線起点(35分) 白石
峠(25分) 茶臼線起点(35分) 狛坂谷出
合(1時間) 上桐生
 - 狛坂谷出合(45分) 桐生辻
- △地形図▼ 2万5千1:瀬田・三栗

うだ。沢を渡り返しながら歩くと、奥山
南谷林道に出合い、右折して上桐生にく
だる。

なお、一丈野野営場への分岐で林道を
特別地区への案内によってたどり、地区
への分岐を右に見送って、案内板の立つ
分岐で左折して林道終点から尾根を伝う
山道を進むと天狗岩線の尾根道につなが
ている。怪礫石を経て水晶谷をくだり、
白い石英の散乱する沢を右岸に渡った所
で北に直登する道をとれば、沢沿いか
ら尾根を経て林道のもう一つの案内板の
所に出る。

JR石山駅前から信濃行きバスに乗り、
桐生辻バス停で降りる。広い新設道路の
下をくぐると左手に道標があり、大谷川
の東側に設けられた遊歩道に入る。山道
部分もあるが、大部分は金属パイプの骨
組みの板張り歩道となっている。従来の
瀬戸ヶ滝林道は、第二名神高速の栗東トン
ネル上り掘削工事に伴い、作業場まで広
い道路に変わって通行禁止である。遊
歩道が大きな橋の下をくぐり抜けた後、
滝壺の大きな滝(61位)の真上を通る
が、環境は台無しだ。この滝は内田嘉弘
著『京都滋賀両部の山』(ナカニシヤ出版)

KOBEの登山専門店

手作りザックの店です。
心ときめき、背負いやすいザックです。

トレックオール45

- 2〜3日の小規模旅行から本格的な山歩まで対応出来るオールマイティモデル
- フロントにメッシュポケットと大型ポケット
- 前面に片面にはスノーポケット、片側はインサイドポケット
- 両サイドに大容量フンドポケットとコンプレッションベルト
- 角度調整可能なインサイドフレーム内蔵

カラー ベージュ×ネイビー、ベージュ×ワイン、ブルー×ホワイト

容量 45L 重量 1,700g
サイズ 19×35×70cm
素材 44 東レ・セルシオン
価格 ¥15,500⇒20%ハイ価格

一イモック山行くらぶ一
春夏秋冬・シーズンをお気に
せず登山・林山・名山を訪
ねます。詳細はお問い合わせ
下さい。

イモック
KOBÉ

神戸ザック

〒254-0376 神戸市東灘区南門 3丁目-1
TEL (078) 821-5851
FAX 621-3628

連載

中央尖山 (3705M)

山形歳之

五岳三尖も八山目。最後の山は中央尖山である。台湾中央山脈に位置していて、台湾百岳の中で10番目の高さを誇っている。

その姿は鋭く尖り、三尖一の名に恥じない山である。さしずめ日本でなら槍ヶ岳というところだが、その山容の大きさは比較にならない。

私は今までに、雪山・大霸尖山・南湖大山・奇萊山・合歡山・白姑大山等の山々から、幾たびその雄姿に接したところだろう。

中央尖山は南湖大山の南の鞍線上にあり、通常台湾の岳人たちは南湖大山と一緒に縦走して登ることが多い。私が南湖大山に登った時は一山だけのツアーだったので、中央尖山には登らなかつた。その時はまさか五岳三尖をめざすことになるなど考えてもおらず、尖った山だなぁ

と、眺めていただけであった。しかし今回の登頂を計画してみると、あの時縦走していたら2日の延長で登っていたことが悔やまれる。

なぜなら、南湖大山と中央尖山の登山口は同じ所で、最初の1日と最後の1日は同じになる。ちなみに、南湖大山1山の時は山中3泊4日。南湖大山と中央尖山を回避すれば5泊6日。中央尖山一山だけでも4泊5日の日程になる。さらに日本から台湾までの日数と山麓までの時間が必要なのは言うまでもない。

五岳三尖の最初の山、玉山を登ってから三年の月日が経っている。この間、台湾の山には十数回も来ているのだが、私の台湾の山の登頂目的は五岳三尖以外にもあるので、つい後回しにしていた感があり、あと一山になって完登を心掛ける

中央尖山



るところとなった。

先ず平成10年8月初旬、ガイド・ポーターを手配。エアチケットを手に出発を待っていたら、台風が台湾を直撃し、止むなく山行を中止した。さらに10月再度波台。最初の山を急いで下山し、次は中央尖山と想っていると、谷の増水で登山者が遭難し、入山禁止になってしまった。仕方がないので他の山をめざしたら、またまた台風に襲われ、臺北に2日間閉じ込められて帰国した。

そこで12月、今回は三頂目の挑戦となった。台湾では秋から春が雨も少なく一番の登山シーズンで、例年10月頃から春にかけて出かける。また、12月は旅行のシーズンオフで航空運賃が一番安い。前回の半額に近かった。

サブゼククター一つで関空から臺北に飛ぶ。登山用具はいつもガイドに預け置き。台北で一泊し、翌日車で登山口の環山に向かう。環山は昔の雪山の登山口で、日本人等の登山者でにぎわった原住民(タイヤル族)の村だが、雪山の登山路が変更されてからは利用する人が少なく、ひっそりとしている。しかし、今でも時々日本人の登山者も泊まる民宿があり、女主人は日本語が達者である。ここでポーターと待ち合わせる。いつものことだが、高山の登山には必ずガイド(有資格者)が必要で、しかも人数は三人以上でないと許可が取れない。通常ガイドを雇っての登山では、朝晩の食事はガイドが準備し、尿食はお客個人が持参する。

翌日、車で別分走って思源埡口に着く。ここから林道を4.0km入った所が登山口だ。ところが林道を50分程入った所の橋が流され跡形も無い。川幅4.5mくらいで、そ

れ程水量は多くなく、直径1.5mくらいのコンクリート管が流れのなかに横になっていた。これでは車は進めない。片道1時間余りの歩行が増えることになった。川沿いの道は荒れ失って渓流のようになり、岩石を伝って行く。相当の流水があったようだ。登るに従って道も狭くなったが、二ヶ所ばかりは大きくえぐられ深い谷底が覗いていた。南湖大山の時には車で通れたのに、この決壊では簡単に修復はできないだろう。

1時間余りで林道終点の峠に出る。ひと息入れ、山腹を捲く元林道の道を登山口へ。これも二ヶ所ばかり紙面が開れていた。通常登山口と言われている広場に到着する。ここで水を補給してよいいよ本格的な登りになる。

登山口の案内板には南湖大山15.1km、中央尖山16.1km、雲梯山17.5kmとあり、私たちのきょうの目的地の南湖大山小屋も3.5kmの距離である。7.5km先の木杆鞍部までは南湖大山と同じルートで、前年歩いて見知っている所である。針葉樹の原始林のなかをジグザグに登って行く。原始林といっても細い木が多い。密生しているので大きくなれな

いらしいが、中には径2.5m・高さはゆうに50mに達する大木も見られる。やがて稜線に達すると展望が開け、アンテナの立つピークからは前面に大きく雪山連峰がのびる。しかし、山頂部は雲のなかで雪山は姿を見せない。

このアンテナには太陽電池の機械小屋が建ち、5.5人の避難小屋に使用できる。森林三角点のある多加北山で小休止。その後、鞍部佐いに一山乗り越すと木杆鞍部にくだり着く。

ポーターがなかなかやめて来ない。立ち止まると汗が引いて寒い。やっと来たが、彼は腰が痛い、体調が良くないと言う。ここから南湖大山の縦走路と離れ、南の溪谷にくだる。前にのけぞるような急斜面をくだって小さな満れた谷におり立つ。ここからは谷をくだるようになる。逆落としての谷はやがて流れが始まり、濡れた岩は滑って難澁する。岩むしたるばかりの岩はいったいどこを通るのか、滑り落ちるよりほかなかった。細い登山道を大きくオーバーしてやっと南湖溪におり立つ。

水の流れている幅は10mばかり。岸には径1.5m・長さ30mの流水が折り



南湖溪小屋

重なっている。相当な出水があったことが想像される。南湖溪の小屋は溪流の対岸で、道を示すテープは見えないが、渡れる所は見当たらない。結局靴を脱ぐ。水は膝下くらいであり冷たくなかった。小屋は4尺×8尺くらいの広さで、幅広の板の堅張り、屋根は板の上に平鉄板張り、板の格子声、鉄板張りの戸、床は土間を開むコの字型になっている。すでに

十数年は経ったであろうボロ小屋で、壁板は所どころ穴が開いていた。しかし、太陽電池が設置され、外れていた配線を繋ぐと20ワットの蛍光灯が明々と点いたのには驚いた。小屋の古さと太陽電池のアンバランス。真つ暗な山中での明け方に我れがとれ、身体が冷まる。1時間も経てど靴着いたボーターは谷で十数回も滑り、とても体力が持たないから帰らせてくれと云う。仕方がないから明日からはガイドと二人で行動することになる。

一晩中、鹿の鳴き声が響き壁が飛び交う。満月に近い月がこうこうと輝き、激しい沢の音が響いていた。

夜明けは6時頃である。昨夜の残り飯のお茶を朝食にして出発する。小屋からすぐ急登が始まる。このコースは山麓の小屋まで2日を要するが、毎日27000級の山を乗り越えて行く。当然降りも同じことで、5日間で五山に登ることに。重くなったザックをゆすり上げ一山乗り越すと、中央尖溪に向かつて登っただけだった。木々の間から黒々と中央尖山が姿を現す。何と巨大で高々と盛り上がっているのか。明日の登山

が思いやられる。

中央尖溪は南湖溪と同じくらい大きなが、岩壁は深く1・5m程は溪流を遡ることになる。谷には巨岩として所どころ、岩の上に重ねた石とぶら下がったテープがあり、川原の道が行き詰まる。対岸に渡ると、ところが飛び石に阻まれる。ガイドは何回も渡るのに靴を脱いでいる暇はないと、登山靴のままじゃぶじゃぶと渡って行く。仕方がないので私も靴のまま後を追う。膝下くらいの水量だが、滑るし水流も早いので素足では危険だ。渡渉してもの数十回でまた渡り返す。行く手を見通してもどこに登路があるのか見定められず、ただ直前の道を探して行くのみ。

やがて中央尖溪の小屋を示す道標の距離が0尺になった。ところが小屋の姿はどこにもなく、それどころか兩岸が切り立った深い谷は小屋など建てようのない所である。ガイドは笑いながら台湾の道標は当てにならないと言った。そう言えは以前秀姑巒山でも、行く程に距離数が多くなつて驚いたことがあった。道は崖に向かつて登って行く。数十回の流の槽

き道で、ナイルの掛かる岩壁を乗り越え緊張の連続である。やがて川原が少し広くなり、谷が穏やかな様子を見せると山小屋に到着した。

ここも全く南湖溪小屋と同じ造りで、蛍光灯も輝いていた。周囲にはテント場もあり、どこからか猿の吠え声や鹿の鳴き声が聞こえ、溪流が轟音を発していた。ここは南湖大山からの道の合流点にもなっている。道標の0尺の所から5000尺くらいだが、大きく流を遡いたので40分ばかりかかった。今夜も満月が輝き、鹿の鳴き声は一晩中響いていた。

朝の谷はどうしても霧に包まれる。きょうは12000尺の登山だ。小屋からはなおも溪流伝いの道が続く。靴を濡らしたくないのだが、そういうわけにもいかない。やがて道は岩壁に阻まれる。コースはと見上げると、10尺ばかりの垂直に近い岩壁に一本のナイルがぶら下がっている。まずガイドが安全帯を付けて取りつく。しかし濡れたツルツルの岩肌は足掛かりがなく腕力だけの登攀になる。乾燥してれば緩やかな足掛かりが得られるが、今はまるで油を引いているようだ。しばしば奮闘していたガイドはこれは駄目だと

おりにくる。それならば川沿いとは川におり岩壁を廻り込むと、10尺余りの流がゴーゴーと水を落としていた。

しばし登路を探したがどこにも見つけることができない。先刻のナイルは崖上の岩壁にのびているが、足掛かりも見えず、ナイルにぶら下がって壁の横這い状態で登るのは、とても私にできる程ではない。ガイドは二年前に登った時は水量も少なく、滝の淵を登ったそうだ。ここを登るためには10尺くらいの様子や、ナイルを確保するためさらに二人の人数が必要だと言った。

もう高年の私では体力的に無理である。ここまで来たが最後の山は断念するよりはかにならない。滝の写真を撮って下山にかかった。

五岳三尖の最後の山はこうして登頂ならず終了した。今年はずいぶん天候不良で、日本でも各地に水害が起きたが、台湾も例外でなく山地には何千もの降雨があり、各地で道路が決壊、山の国道は車で走っていても修復工事中の連続である。そのため登山路も各地で閉れて通行が不自山になっているようだ。

思うに、八山の最後になった中央尖山

が一番登り難い山だったうえに、水害の後でさらに登り難くなっていたようだ。何回も計画したうえにこの結果。もう高齢の私には次の機会はないかも知れない。そこで最後の山はこのように夫登のレポートとなつてしまつた。「台湾五岳三尖」はここに終了いたします。(平成10年12月歩く)

☆コースタイム☆

- 第1日 大阪→台北→台中泊り
- 第2日 台中→宜蘭→梨山(車4〜5時間)
- 第3日 梨山(車30分) 思源埡口(2時間) 登山口(1時間40分) 多瓦山(1時間30分) 木杆鞍部(1時間20分) 南湖溪小屋
- 第4日 南湖溪小屋(2時間) 最高点(4時間) 中央尖溪小屋
- 第5日 中央尖溪小屋(30分) 大滝撤退地点中央尖溪小屋(6時間) 南湖溪小屋
- 第6日 南湖溪小屋(4時間40分) 登山口(2時間) 思源埡口→台中
- 第7日 台中→台北
- 第8日 台北→大阪

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 京福 京電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽近鉄奈良線「飛鳥・白河」ハイキング「広福梅林をめぐって」3月6日(日)開天中止(集合)下市口駅前10時15分(コース)下市口駅(バス)止橋(徒歩)→聖子堂→榎ノ木→橋原(バス)下市口駅(約10分)参加自由・無料(バス代別途)天王寺事業06(66224)038220

▽歴史街道キャンペーン「100選聖徳太子ハイキング」第10回吉野と忍者のさく上野を巡る」3月7日(日)開天中止(集合)上野市駅前10時10分(コース)上野市駅前(バス)→葛城山→伊賀忍びの博物館→上野市駅前(徒歩)参加自由・無料(入館料等は別途)上本町事業06(67775)35686

▽近鉄フリーハイキング「春の春・鶴河原を巡る」3月13日(日)開天中止(集合)新石切駅前10時15分(コース)新石切駅前→石切神社→興法寺→大塚院長の森・めがね園地→額出駅(約9分)参加自由・無料(上本町事業06(67775)35686

▽朝日自然教室「春の花と押し花

クラフトハイキング」3月14日(日)開天中止(集合)飛鳥駅前9時40分(コース)飛鳥駅→国定飛鳥歴史公園(徒歩)→国定飛鳥歴史公園(徒歩)→花クラフト会館(バス)→花クラフト会館(徒歩)→花クラフト会館(バス)参加自由・無料(バス代別途)天王寺事業06(66224)038220

▽近鉄文学散歩「シリーズ・街道紀行長尾」大坂高尾への火ふた切られた街道」3月14日(日)開天中止(集合)高尾駅前10時00分(コース)高尾駅前→高尾大仏堂→高尾神社→片山神社→後藤又兵衛神社→安藤寺→道明寺(約8分)参加自由・参加費300円(お土産等別途)講師大阪府立女子短期大学名誉教授岡田信子氏天王寺事業06(66224)038220

▽橿原・高市城域ウォーク、南大和の古蹟めぐり「四神が護る高松原」キトラ古墳をめぐって」3月22日(日)開天中止(集合)飛鳥駅前9時40分(コース)飛鳥駅前→高松原→キトラ古墳→高松原古墳→新設千塚古墳→橿原神社前駅

(約10分)参加自由・無料(バス代別途)天王寺事業06(66224)038220

▽万葉ハイキング「近鉄沿線西国巡礼ハイキング」最終回・第九段 聖徳太子の足跡をたどる大和路の旅」3月28日(日)開天中止(集合)近鉄奈良線末社駅前10時10分(コース)近鉄奈良線末社駅前(バス)→春日山石堂(徒歩)→春日山石堂(徒歩)→春日山石堂(バス)参加自由・無料(バス代別途)天王寺事業06(67775)35686

▽北山ワイークデーハイキング「二ノ瀬ウォーク」3月10日(日)開天中止(集合)岩橋口駅9時30分(コース)岩橋口駅→貴船神社→貴船神社(徒歩)→貴船神社(徒歩)参加自由・無料(バス代別途)天王寺事業06(67775)35686

▽自然観察シリーズ「鷺島山野鳥を巡る会」3月21日(日)開天中止(集合)鞍馬駅16時30分(コース)鞍馬駅→鞍馬寺→奥の院(徒歩)

船社「貴船口駅(約4分)参加自由」叡山電鉄運営部075(702)8111

▽北山ワイークデーハイキング「三ヶ池・木野コース」4月7日(日)開天中止(集合)宝ヶ池駅前9時30分(コース)宝ヶ池駅前→東山(注)宝ヶ池→妙法寺→二軒茶屋駅(約10分)参加自由」叡山電鉄運営部075(702)8111

▽歴史散歩「鷺島・貴船散策」4月27日(日)開天中止(集合)鞍馬駅10時(コース)貴船駅→山崎神社→鞍馬寺→奥の院→貴船神社→貴船口駅(約5分)参加自由」叡山電鉄運営部075(702)8111

月18日(日)開天中止(集合)道場南口駅10時15分(コース)道場南口駅→北極川→ゴルフ場→フルン→フラワーパーク(約7分)参加自由・無料(入館料別途)神鉄観光事業部06(528)321

▽山陽電車「後部山梅ハイキング」3月14日(日)開天中止(集合)山陽網走駅→車道川河川敷→右岸10時(コース)網走川河川敷→五門寺→高尾神社→後部の清水→後部山梅林→大立寺→山陽網走駅(約12分)参加自由・無料(後部山梅林割引入園料別途)須賀海苔園ハイキング係078(731)25220

▽山陽ハイキング「岩木山ハイキング」3月21日(日)開天中止(集合)西沢駅前山陽中本駅前10時30分(コース)西沢駅→高尾山→丸山→船越→岩木山→神鉄岩木山駅(約10分)参加自由・無料(須賀海苔園ハイキング係078(731)25220)

中止(集合)林崎松浜海岸駅下車林崎松浜公園10時(コース)林崎海岸公園→サイクリング・ロード→明石原人権センター→住吉神社→東一尾駅(約12分)参加自由・無料(須賀海苔園ハイキング係078(731)25220)

▽山陽ハイキング「淡路島公園ハイキング」4月14日(日)開天中止(集合)淡路駅前船尾車道駅前10時(コース)淡路駅前→船尾車道駅前→船尾車道公園(約30分)参加自由・無料(須賀海苔園ハイキング係078(731)25220)

神戸電鉄

▽神戸ハイキング「大蔵神社と仏谷洞窟ハイキング」3月14日(日)開天中止(集合)木崎駅前10時15分(コース)木崎駅→秋葉古→大蔵神社→仏谷洞窟→亞和堂(約10分)参加自由・無料(須賀海苔園ハイキング係078(731)25220)

▽神鉄ハイキング「フルーツ・フラワーパークお花見ハイク」4

○新ハイ関西サービスチェーン
名産品・名産品・名産品
名産品・名産品・名産品
名産品・名産品・名産品
名産品・名産品・名産品

日産連 大和館
0624812281

03440141240

03440141240

03440141240

03440141240

03440141240



「これ以外にも多数のコースがあり、各社の広報も見て下さい。」

〒401-0652 山梨県都留郡山中湖村平野
0555-651881

〒401-0652 山梨県都留郡山中湖村平野
0555-651881

〒401-0652 山梨県都留郡山中湖村平野
0555-651881

〒401-0652 山梨県都留郡山中湖村平野
0555-651881

〒401-0652 山梨県都留郡山中湖村平野
0555-651881

せせらび

題字・小林政三

9月20日、友人からもらったガイドを頼りに単独で横山岳に登った。行く途中に墓谷山の表示があったので、このついでにと思い、ロープをくくり抜けて墓谷山へ行った。

その下山時、踏み跡の確かな道があったので、これ幸いとばかりにその道をくだけて行った。ところが、途中から道がなくなつた。歩いていっているうちに流れ沢にくだらざるを得なくなつた。沢ををくぐるのは危険だと承知していたが、流が出てきたら高捲けはと思い、そのままくたつて行った。幸い高捲けこともなく、沢のなかをジャブジャブ歩いて里に出た。

後日、丹波で同じことをしたが、ここでは高捲けことができずに登り返した。(稲葉支店)

10月に台高の陰塚に行ってきた。大叉からのピストンで、北斜面を近い上がるガスが南風で押し戻され、山頂は晴れていた。

その日も気ままな一人旅、明神平から先では一人も会わない静かな山だった。マカモカ陽気として山頂付近のササ原で長寝をいうちに登山口へ戻れるかどうかのまわどい時間になっていた。帰路を急ぎ松原峠を過ぎた時、中年の男女二人がこちらへ向かって来た。こんな時間にと

思つたので、おれ遊ったときに「どやまで」と聞くと、「明神平へ向かっている」と言う。

「遊だ」と言うところから案内本を出された。それを見ても明神平から墓谷山を歩き三ツ塚を経て明神岳の頂を踏み、そこを左折して明神平へ行くコースが書いてある。既述的な地図だ。「この通りに歩いてきたので間違いない」とおっしゃる。私の山の地図を出し、そのようなコースではないことを見てもらい、この位置から水の開越しに水無山の紙面が見えるので、あの斜面をくたつた所が明神平であるから、この方向だと地形的にも行けそうにしないとと言うと、はじめて納得されたようで、「いっしょに帰りましたよ」ということになった。

明神平で休憩した時に果物をこ馳走になってしまった。その山の案内本の地図には陰塚は記載されてなく、もし私に会っていなかったら松原へ行ってもその先が明神平だと思ひ込み、さらに先へ進んだのではないだろうか。遅い時間でもあったので、気になる出来事であつた。(山形 明)

40分) (戦木伸人)

11月10日、鶴向山へ行ってきました。本誌のせせらび欄で、11月10日は「鶴向山の日」ですという横山氏の紹介文を読まされていたからです。

以前の山行報告のコースタイムを参考に、近江八幡駅からバスで北畑まで。車庫から見える頂上はかなり遠がかかっていました。次車庫へ回復するといふ天宮寺神を借じつて西明寺の参道入口に若くと、町の裏行委員の人たちが笑顔で迎えてくださった。

三合口では特設の売店・休憩所があり、茶屋敷から来たと言ふと、あちこちから聲が上がる。七合口あたりからのマナ林の紅葉、木々の割から見えかくれする近江平野のどかき、頂上からの展望もすばらしく、鶴鹿の曲がな山並が口前に広がって、遠くは伊勢湾までも見渡すことができました。

11月8日、雪母峰に登りました。本峰山頂は狭く、木立のなかに御在所山頂が見えていました。第二峰からの展望はすばらしく、東側は伊勢平野が広がります。西側には鈴鹿の山々がずらりと姿を見せていて大満足でした。鈴鹿七峰が勢揃いしています。(石大助より、登り1時間50分)

11月18日(天)、御坂山に登りました。既述前を期待していたのですが、曇りのために30分しか見えませんでした。けれど、松原から海岸線に連なる街の灯がきれいでした。(堀坂母より、

花の季節に再訪したいと思ひました。

特設会場で頂いた金明水で立ったコーヒーのおいしかったこと、実行委員の方々の温かい心に触れ、とても楽しい山行でした。(井上久子)

12月某日、千利貯水池周遊を試みた。道場から(貯水池の西岸)松田(波豆)までは、近隣自然遊歩道になっており、道標もある。分りやすい。しかし、東岸では、ここから入ればよいからと寄り道。清之瀬橋を渡ると、右へ林道まがいの幅広い道がある。道の左側にある民家「辰巳さん」に聞くと、ハイカーがよく通るとのこと。

すぐに細い谷筋のやが道になり、しばらく行くと、左へ登る峠に出会う。その道を進めば、峠のような所に出る。左への布見ヶ原に這い上らなければならぬ。歩み難い。きりきり音を立てる。そこら貯水池へ行くルートが分かりづらい。生倉の前を通

<p>行をたっぷり旅せる旅人と、日々時々の山歩き、日本海の鮎魚と山の幸、ハイカーの宿</p> <p>ナガサキロッジ</p> <p>〒949-2100 新潟県中津川郡妙高町池の平温泉 0255-1861 2261</p>	<p>高山の麓、温泉の花</p> <p>妙高山と次打山</p> <p>百名山を二つ登れる山の宿</p> <p>黒沢池ヒュッテ</p> <p>〒949-1310 新潟県中津川郡妙高町池の平温泉 0255-1861 2261</p>	<p>休憩登山入浴も歓迎</p> <p>10名以上マイクロボスで送迎</p> <p>箱根町石巻温泉</p> <p>福 館</p> <p>〒250-0431 神奈川県足柄下郡箱根町石巻1-1-9 0460-4199041</p>	<p>「伊勢の鶴子」の宿、レトロな宿</p> <p>山下松原の宿</p> <p>湯ヶ野温泉 湯ヶ野荘</p> <p>「湯野の湯」(天城山ハイキング) 湯野温泉 湯ヶ野荘</p> <p>〒413-0507 静岡県静岡市清水区湯野 0543-5507</p> <p>静岡県静岡市清水区湯野 0543-5507</p>
---	--	---	--

<p>四季賑やかな温泉旅館のハイイク</p> <p>上高地・東穂高へ、冬はスキー</p> <p>けやき荘 けやき山荘</p> <p>〒278-0150 長野県上高地町 0263-9312550</p>	<p>女将やなばら</p> <p>湯田中温泉 (霧波)</p> <p>日野 温泉 館</p> <p>〒278-0400 長野県日野町 0263-9312550</p>	<p>2000口流上り温泉</p> <p>ハイキングにXCSキー</p> <p>温泉 館</p> <p>〒278-0400 長野県日野町 0263-9312550</p>	<p>ハイキングに、スキーに</p> <p>湯田中温泉 石の湯ロッジ</p> <p>〒278-0400 長野県日野町 0263-9312550</p>
--	---	---	---

り、少し違った所を左の道に入り、前方左に池がある。田んぼの裏道を通り、池の北側（旧文社の敷地）では南側になっている（を道むと、西方向へのやぶ道に入る。どんどん西へ進むと貯水池の畔に出る。あとは、東岸の道を南へ登ればよい。東岸ルートへの入り口を間違ったので、周遊がちょっと中途半端になってしまった。しかし、運度に乗って山行となった。早足で歩けば、前半2時間、後半3時間というところだが、1〜2時間の余裕をみてほしい。

（吉塚孝次）

12月6日、新ハイ山行「リッスン・コザトとオオジャレの洞」（鈴鹿現谷の秘境を歩く）で富仙山の山麓にある行者谷と、その源頭を囲んだ尾根を歩いた。「この山行の巻了証書が欲しいなあ。リーダーのサイン入りで。富仙山西南尾根の山懐に包まれたひなびた林道の行き止まりで、同行の山男から感嘆と共に思わず出た言葉だ。それは登り始めからの全行程を

一望できる場所で、昔と同じ感じになった。深い行者谷の車道から一気に突き上げた雑木林の山頂リコウシ、厚く苔むした大木をそっと撫でてみた区根筋、別人の犬を呼ぶ声を聞きながら歩いた切り開かれた山の側面等を目で追った。人の一歩一歩のすばらしさと自然に浸れた恵みに感謝しながら。

（鈴木庸）

ここからは右手西谷を歩いてやぶのなかを笹垣まで泳いだ。「山用のおしゃれな服では来られませんが、」一列の後ろの人に小枝でピンクの洗礼をさすけいながらも、お互いに気を使いはがらも、愉快愉快。笹垣からオオジャレの頭を避えて最終地のあけん願までくぐりながら木にしがみつながら、リーダーの導きで、巧みにぐんぐんくぐった。名残りの紅葉が緊張した気持ちをほど和ませる。入会のおかげでリーダーたちから、低山を愛する姿を喜びを教えていただいた。虫刺れや蚊の痒みに笑い合って、仲間たちと喜びを共有できた。迎られ

登山者の私が入力以上の山行をさせていたに違いない。ポランティアに頼るのみで、「これでもいいのかな」と時々考えるものにならないようにハイ山行前に手持ちの資料で調べる。そして私なりに身のまわりの準備品に気を配って、一人、車に乗り恋しい山に満ちてしまう。

<p>塩の道 千国街道 百八十七体「観音原」 ホテル 白馬プランシェ 〒399-9300 長野県北安曇郡白馬町いわけ 02661-7214402</p>	<p>ハチヶ岳北麓道の中心店 99年秋新築完成改築完成 木の香の癒し新築完成改築完成 オーレン 小屋 1泊2食付き 5000円 4月末〜11月末開設 〒399-10213 長野県北安曇郡白馬町 02661-721240</p>	<p>北八ヶ岳の登山基地 冬はスキー JR長野駅 北八ヶ岳登山口まで送迎します 要予約 ブチホテル カナール 〒399-10300 長野県北安曇郡白馬町 13の1 02661-6712258</p>	<p>日本唯一の女人禁制の山「大 峯山」(白雲山)の登山口 新築した男女トイレあり 温泉・名水の里 旅館 紀の国屋 共八 1泊2食付き 7000円から 〒360-0430 奈良県新宮市天川町南川 074727040509</p>
--	---	---	--

できて実に嬉しかった。特に、この山頂から最も鋭角的に眺められるとされている「鈴鹿の松」（鏡ヶ尾）には強い印象を受け、大きい収穫だった。

（東谷 悠）

船達は、清下山線出で坂下峠へくぐったので、これまでのおんを併せ、「油日岳（鈴鹿峠）」という両峰間道路のほとんどを踏破したことになり、それも今回の成果であった。

12月下旬、南紀の山に行ってきた。以前より気になっていた大塔山へ。レンタカーで宗小屋谷橋から右折して黒木谷出合に駐車する。林道を奥へつめるが登山口の標識がなく、結局は赤布を頼りに鞍馬を急登。小さなギャンプを二ヶ所越えてブナ林のある二ノ森に登り着く。山頂からは去年3月に歩いた大雲取山・小雲取山がなつかしく望見できた。

平成9年〜10年の二年間、関西の山への山行の数は北山の峠への久患の思い出であった。9年秋に九州の祖母山、10年に大和三峰山と一等三角点研究会の例会山行に参加し、その会の原点である今西親司翁の愛した北山に思いを寄せた。9年12月、地球温暖化会議があり、京都駅が模範例とした頃、国際ボランティアの会議に出ての場りに、友に北山の富山街道を案内してもらった。常照泉寺あたりでたたずまは妙かだった。しかし京都特有の寒冷な空気も全く暖かく、温暖化会議に際したかのように思えた。そして昨10年12月、東京の本誌に山行を出したところ、ポランティア仲間から、一日京都北山山行会が同行したいと申し出があり、案内していた。貴船から滝谷峠に登り、直谷におり、今西翁のレリーフを拝した。魚谷峠に出たら、車道が横切り心が痛んだ。中津川を

<p>九州の屋敷峠・日本百名山 宮之浦岳に一番近い宿 屋久島グリーンホテル 〒899-1431 099741613021</p>	<p>剣ヶ原登山に 要知山登山会 山好き仲間が集う宿 朝明茶屋 山小屋 〒810-0200 059319317800</p>	<p>前日大原から江文峠への道で、空は晴れていて雨が俄然降るようだった。だからか「北山しぐれ」でも作曲したと云っていた女性が、「時には雨」がの風情は時雨と響かせる。同じ「時を化かす」と書いて、しけると決む字があった。おりし12月世界遺産会議が京都であり、日本の行政や自治体が観光資源を対象として経済効果をおげようと陳情していると報じられた。自然</p>
--	--	--

や建物を守る気持ちのない今の日本の時世、しけたというか、しらけた年の寒だった。

振光資源となればバスターで押しかけ、CO₂削減とならずゴミ公害もあり、白神山地などは騒音のあるところだ。百名山バスターが流行り、排気ガスで路傍の木が枯れ、ゴミ問題、高山植物盗掘など道徳を食いつぶす現状、この2年にわたって開催した京都会議は何だったろう。バスターのない関西の山行に敬意を表したい。

(安藤正義)

1998年は、植物界に異変が散見された年でした。

例えば、晩秋の伊吹北尾根最大の難力は、尾根から俯瞰する自然林の紅葉ですが、この地域では伊勢湾台風以来の暴風を吹かせた台風7号のため、樹々の葉がすっかり落ちてしまい、この傷を回復しようとして、樹々のなかには、翌春のために用意した冬芽を芽吹かせ新葉を開いているものもあり、斜面のいろどりはあたたかも早春のようでした。

また、例年になく秋の暖かな気候に押押しされ、季節はずれの花もあちこちの山で目立ちました。

そして、私にとって、樹木のなかで恋人のようなブナにも異変が生じていました。ブナは数年に一度しか豊作になりません。昨年が豊作で、今年是不作の年のはずでした。これは不作の年のはずです。今年ブナが豊作を思わせるほど結実したのです。

このような地味な変化は私の自然観察の仲間にも過去に記憶がないそうです。

実は、研究音によれば、平成になってブナの結実周期には異変が続いているそうで、ブナを愛する人たちはとても心配し、ひそかに見守っているのです。

(鷲見守康)

山行短歌

10月3日 大峰福村ヶ岳
女人峰たとえれば聖なる海の
誇らかに帆を張る船に似て
10月3日 大峰山上ヶ岳
嵐去りて差しのべた手に木の精は

割れし巨樹を生かせと叫ぶ
10月10日 ハヶ岳連峰遊歩
火燭く山をふたたび遊歩日
光体と呼ぶべき時間上戻れ
10月11日 ハヶ岳連峰天狗岳
冬が来る前の優しき歌を弾く
10月20日 大和葛原芳山
あなたを待つと待ちつつけ野仏に
紅葉たより屋かないまま
11月5日 中央アルプス駒ヶ岳
うす雪かぶりぬ花嫁の木霊駒に
連れ添う御島風々しく見えむ
11月5日 中央アルプス宝剣岳
縦走した日々送る去り帰らざる
季節をいたみ氷雪舞えり
11月10日 吉野背根ヶ岳
水清冽に母なる岸辺騒う川の
飛沫跡ね止め子等遊べば
11月15日 鈴鹿御在所岳
鈴鹿スカイラインおどろの階へ
往きて還らむ群青の彼方
11月15日 鈴鹿鐘ヶ岳
鐘とがる徳元に胸を射抜かれし
挽歌の旅をわれら忘れじ
11月29日 宝生鳥見山
わが妻といたずこへ行くか道分を
初瀬まほろばに夢の譜は流れ
(木村太郎)

わ」と思った。感動とはこういうことなのかも知れない。今はまだ足が冷えるからと遊けながらの山行になってしまったが、時空を越えて行けるものなら、もう一度あのオリオンを見てみたいと思う。

(小出良春)

山行が日増しハイテク主体になって10年ほどになる。電車の中で御在所の森内に行く人を見ると私も一時期、夏・冬山の訓練に添ったことを思い出す。

(筒井亮治)

もう一度行くことができるなら、どの山に行きたいかと聞かれることがある。徳富の岩城、八ヶ岳の水、春の剣岳といろいろあるが、山々も冬山に行きた時に見た冬の星・オリオンをもう一度見てみたい。

明日が元旦と出よう寝に眠れなくて、ナントを出て見ると雪と星の明るさで目の前に槍ヶ岳が見える。明日の快晴を約束してくれてくれる満天の星のなかに常念のあたり大きく旗を広げたとように輝いていたオリオンがあった。今までも冬のオリオンを見ていたが、稜線上で見たいともあり、「これはスコイ

12月23日 例年最終の「朝東・太郎坊山」山行に参加した。出発地の市辺駅周辺は藪生野とか藪野とか呼ばれた王家の禁野(狩猟地)で、頼田王の歌でも有名な地だ。船岡山は「万葉公国」に整備され、万葉歌碑が散立している。

登り着いた岩戸山頂下の十三仏の御堂のあたりは巨岩に囲まれ、括弧くぐりのような箇所もある。景観は三方に広がり、雷野山・鏡山・頭だけの三上山、鞍山・安土山・長余寺山・津田山が眼下に見えたが、比良連嶺は残念ながら霧のなか。さらに右をよじ登った頂上からは冠雪の鈴鹿の峰々が眺望できた。太郎坊山の頂上岩壁はリュックを本道にデポして身軽に往復でき、岩戸山とは異なった眺望が得られた。

太郎坊宮は修験道の神仏混交の聖域で、白木の鳥居もあり、掲額に「延喜寺」が記されている。鈴を振り、鐘を鳴らすなどのお詣りを済ませ、立派な鞍馬堂でゆっくり休憩ののち、お互いの佳き迎春を願いつつ解散となった。

(芝野泰明)

鈴鹿最善峰の御池岳は公共交通機関に取られず、車で行ければなかなか行けません。数人が例年山行を実施されていますが、マイカー山行でした。

(小出良春)

30年8月から12月まで毎月、小生と高野氏とで行う「御池岳の自然と池を巡る山行」は、電車の人を主体にします。関西方面の方は関ヶ原駅も持込分の電車まで来てくだされば、送迎に行きます。

電車の方を優先しますが、車の方でも定員以上に希望者が多くれば、改道にも同じコースでフォローしたいと思っています。花や樹木、石や動物のフィードバック等、御池岳の自然をじっくりと見て廻ります。小生らがこれまで約20年間、御池岳

で行なってきた自然観察会の手法を取り入れた山行とします。で、自然好きの方の参加をお待ちしています。

(山田明男)

故郷でのクラス会に出席したこの正月、5日は快晴に誘われて、一度訪ねてみたかった竹中半兵衛墓の深遠寺である岩瀬山に登った。

垂井駅に置かれていた「歌政たるい」のパンフレットと2万5千の地形図を手にして、小學生の頃よく遊んだ相川堤から西化植した伊吹山を眺め、山麓の岩手に向かった。岩手橋を過ぎると伊吹山は前山である相川山にかかれてしまった。

駅から登山口まで1時間強、白山神社への新しい石の階段を登って冠根に取りつき、真新しい「善徳山原防ハイキングコース」の指導標に従って登る。山頂で4等三角点を西の端に見つけました。筆先付かられている双鏡鏡で養老山系を望んだ。眼下の町を眺め、明神湖へくだった。正月には珍らしく暖かい初山行でした。

(山田明男)

ヒロンな線から、新ハイのリーターを努めて三年目になります。参加して下さった方も三ヶヶを数えるそうです。

悪い返すといろんな場面が浮かんできますが、ほとんど忘れてしまっている。参加された方に「あの時参加しようと思っただけで、躊躇した」なんて言われると、ああ山行報告を読まれてるんだな、との思いが返ってくる。

日々忘れてしまうから、また日々同じことを繰り返しても、新しい発見があって飽きなく続けているのかも知れない。山行のにおりに、おもしろかったことや来年はどんなスタイルでやるか話すけれど、ポンヤリながら方向が覚えればよいと思っ

僕らの山行はガキ大将が「山いって遊ぶ者この指とまれ」の気持でちなのだから、遊び心を大いに発揮してもらい、いろいろなことを実践して、お互い知らないことをいっしょに教え合おうとできればリーダーやった甲斐もあるというものだ。

2000年はすく、「鈴鹿遊

地図 昭文社「京都北山」
 係 ◎箱中 鏡 ◎米百箇一
 申込み 〒610-0181
 綾瀬市寺田大野10の10
 新ハイキング関西まで

大原町駅前の完全舗装にチャレン
 ジしますが、後半の難関前山へ
 の登りに備えてのスタミナ温存が
 ポイントです。雨天中止

九州の山・御蔵山(二般向き)
 期日 3月19日(金)午後2時開演
 3泊4日(船中3泊)
 集合 ①19日(船中3泊)
 ②20日(船中3泊) ③21日(船中3泊)
 イランド)フネリター
 ミナル・ダイヤモンドフェ
 リー(待合室)20時00分(21
 時の分鏡大分行き)乗船
 コース ①19日(東神戸)②(フネ
 リ)③(大分港)へ

費用 約3000円(内ツアー・
 船費)

蕨原駅(霧散16時頃)
 費用 1500円(交通費含む)
 地図 昭文社「雲仙・伊吹・
 霧原」
 申込み ◎尾崎美五 ◎新前幸夫
 〒150-0145
 鈴鹿市平田東町4の5
 電話五五五まで
 フクジュソウやセツブンソウを
 期待して聖王寺迄を登ります。残
 雪が溶けますのでアイゼンの用意
 を。小雨決行

バス代・宿泊費等)
 地図 昭文社「九郎・阿蘇」
 係 ◎狩野東彦 ◎加藤登彦
 申込み 〒610-0121
 綾瀬市寺田大野10の10
 新ハイキング関西まで

*定員45名(会費に別添)
 九州の代表的な活火山の火口を
 歩きます。雨天決行

花の子ルンルン
 鈴鹿・瀬尾ノ平(霧原向き)
 期日 3月20日(日) 日帰り
 集合 三般鉄道西野駅9時00
 分

コース 西野駅(車)坂本谷入
 口→瀬尾ノ平→天徳寺→
 聖王寺→坂本谷入口
 (霧散16時頃)

費用 交通費含む
 地図 昭文社「雲仙・伊吹・
 霧原」
 申込み ◎高井亮治 ◎水村直秀
 〒610-0121
 綾瀬市寺田大野10の10
 新ハイキング関西まで
 *マイカー山行
 頭蛇ノ平から天徳寺を歩きます。
 霧原の都合でコース変更になりま
 す。雨天中止

南紀・熊野古道の八景山
 (二般向き)
 期日 3月21日(日) 日帰り
 集合 JR名古屋駅中央交差点
 7時45分(探検「みえ」
 に乗車)→JR松阪駅9
 時06分

コース 名古屋駅(乗車)松阪駅
 (電車)多気駅(のりか
 え・徒歩)高野駅(タタ
 シ)登山口(七曲り→
 九木峠→熊野堂→八景山
 →さくらの森エリヤ→名
 瀬→三木甲斐(乗車)多
 気駅(のりかえ・電車)
 費用 約4000円(公共交通
 費使用・名古屋から)
 地図 昭文社「雲仙・伊吹・
 霧原」
 申込み ◎小出良香
 〒448-0008
 刈谷市一里山町一里山9
 の3 小山良香まで
 長瀬「霧原」にもある。古道
 伊勢路最大の難所八景山を登ります。
 さくらの森からの眺望はすばらし
 い。朝の朝霧の時刻もあり、の
 んびりとは歩けません。申し込
 みハガキに乗車券を明記してくだ
 さい。雨天中止

京都北山歩き記
 慶村八丁から八丁大道
 (中級向き)
 期日 3月21日(日) 日帰り
 集合 京都駅八条口若狭丸口
 観光バスのりだす時刻分
 京福駅(バス)小堀上ノ
 町→ソトバ峠→慶村八丁
 →トラゴン峠→コシキ峠
 →八丁大道→慶村各(バ
 ス)京都駅(乗車)

費用 約3000円(バス代)
 地図 昭文社「京都北山」
 係 ◎中西信行
 申込み 〒610-0121
 綾瀬市寺田大野10の10
 新ハイキング関西まで
 *定員40名(会費に別添)
 霧原のある北山の奥、慶村八丁
 を歩き、八丁大道を熊野谷にくだ
 ります。小雨決行

*定員20名(会費に別添)
 フクジュソウなどを求めて自然
 豊かな丹生道を通り、頂原をく
 ぐら。自然の観察と写真撮影に
 関する木道歩き方が苦にならない
 方へ参加ください。小雨決行
 福寿草は咲いたか?
 御湯宿の池と日笠探査山行の
 (中や飯沼向き)
 期日 3月22日(日) 日帰り
 集合 JR関ヶ原駅9時20分
 三般鉄道西野駅9時00
 分

コース 各集合駅(七セ)コガルミ
 谷登山口→長命水→カタ
 クリ峠→御池→飯沼の谷
 →お花池→鈴北岳→タテ
 谷→トハダの池→コガル
 ミ谷(霧散16時頃)

費用 交通費含む
 地図 昭文社「雲仙・伊吹・
 霧原」
 申込み ◎山田明男 ◎高野芳彦
 〒503-0036
 岐阜県海津市御湯宿山
 道の19 山田明男まで
 *定員15名(大会・京都
 方面からの電車の方を優
 先)関ヶ原駅より車を手
 配します)

三東の山4
 鈴鹿・藤原岳(二般向き)
 期日 3月22日(日) 日帰り
 集合 三般鉄道西野駅9時
 00分
 コース 西野駅(車)聖王寺→八
 合目→藤原山荘→藤原岳
 →八合目→大分戸津→西

自然観察山行24
 鈴鹿・藤原岳(二般向き)
 期日 3月28日(日) 日帰り
 集合 JR関ヶ原駅9時20分
 コース 関ヶ原(バス)聖王寺前
 →東登山口→八合目→藤
 原山荘→日笠峠→坂本谷
 入口(バス)関ヶ原駅
 (乗車)

費用 約3500円(関ヶ原駅
 から乗切バス代等)
 地図 昭文社「雲仙・伊吹・
 霧原」
 申込み ◎藤原守康
 〒5004-0028
 各教養市藤原町雨町1の
 19の6 藤原守康まで
 *定員17名(会費に別添)
 セリバオウレン・セツブンソウ・
 フクジュソウなどを求めて聖王寺
 道を登り、花の観察と写真撮影に
 関する木道歩き方が苦にならない
 方へ参加ください。小雨決行

自然観察山行23
 鈴鹿・雲仙山(中級向き)
 期日 3月22日(日) 日帰り
 集合 JR米原駅9時10分
 コース 米原駅(タクシー)上丹
 生林道→坂ノ上→藤ヶ池→希
 原道九合目→藤原山→雲
 仙山→藤原山→藤原道九
 合目→柏原駅(解散)
 費用 約1000円(米原駅か
 らタクシー代等)
 地図 昭文社「雲仙・伊吹・
 霧原」
 申込み ◎藤原守康
 〒5004-0028
 各教養市藤原町雨町1の
 19の6 藤原守康まで

バス代・宿泊費等)
 期日 3月21日(日) 日帰り
 集合 JR名古屋駅中央交差点
 7時45分(探検「みえ」
 に乗車)→JR松阪駅9
 時06分

御湯宿の池を中心とする山をじっ
 くり味わう山行の一回目。またや
 樹木、鳥の音などにも耳を傾けなが
 らの山行です。歩く速度は不
 規則になります。申し込むハガ
 キに乗車券を明記してください。
 マイカーで参加の方はその旨お知
 らせてください。小雨決行
 鈴鹿を歩くの
 霧原の御湯宿(飯沼向き)
 期日 3月22日(日) 日帰り
 集合 国道506号御湯宿
 9時30分

費用 約3000円(バス代)
 地図 昭文社「京都北山」
 係 ◎中西信行
 申込み 〒610-0121
 綾瀬市寺田大野10の10
 新ハイキング関西まで
 *定員40名(会費に別添)
 霧原のある北山の奥、慶村八丁
 を歩き、八丁大道を熊野谷にくだ
 ります。小雨決行

山登り口「箱館山スキー場」定安湖「定安湖」ピアレスト(バス)近江今津駅(解放16時頃)

費用 約5000円(大坂から)
地図 2万5千「海岸・瀬川」
◎村田智徳 ○比呂格実
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智徳まで

美濃・小島山(一般向き)
期日 4月4日(日) 日帰り
集合 J.R.大垣駅近鉄線のりば
8時30分

コース 大垣駅(電車)揖斐駅(バス)流一茶畑登山口一鉢塔池80-小島山一林道一鉢塔池81-林道一滝(バス) 揖斐駅(電車)大垣駅(解放16時頃)
費用 約4000円(名古屋から)
地図 2万5千「池田」
◎小山良春
申込み 〒448-00002

刈草市一里山町一里山38の3。小出良春まで
遊歩路を登って行きます。人に出会うことのない静かな山になると思えます。雨天中止

京都西山・大雲山と小雲山(一般向き)
期日 4月6日(日) 日帰り
集合 阪急桂駅改札口8時00分
コース 桂駅(バス)洛西高校前一大塚山-小塚山-止住寺-大塚神社-洛西高校前(解放)

費用 約7000円(京都から)
地図 昭文社「京都西山」
◎西澤勇
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

五日不囉ハイク4
北山・旗敷ヶ岳から天置山(一般向き)
期日 4月8日(日) 日帰り
集合 京都バス北大路駅前(京都駅手前北大路駅)の出入

口東へ吉原善寺(標高約800)7時30分
コース 北大路駅前(バス)若原橋一若原不動-薬師寺-旗敷ヶ岳-旗井園遊覧園-天置山-茶臼分岐-電ヶ坂-山園小学校(バス)車山駅前-阪急大塚駅-JR京都駅

費用 約4000円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
◎前中 綾 ○氷見厨一
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
開春の城井園遊覧園 中・西部を歩きます。雨天中止

週末ハイク13
甲賀・油日岳から那須ヶ原山(中級向き)
期日 4月10日(日) 日帰り
集合 J.R.神保橋駅8時00分(分)立止駅8時00分(分)

費用 約2000円(京都から)
コース 油日岳-油日神社-林道-終点-油日岳-三回峠-那須ヶ原山-旗野砂防ダム-旗野寺-油日駅(解放)
地図 2万5千「旗野」
申込み 〒503-0556
岐阜県海津市津島町旗山624の19 山田朋男まで
★定員16名(大坂・京都方面からの電車の方を優先)

昭文社「御在所・旗ヶ岳」
◎加藤元彦
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
昨年12月、雨天で中止した御在所山頂の里山です。峠道は例年などで少しハードなコースとなります。小雨決行

シマリスに会えるか?
御津宿の池と自然探歩山行(中級向き)
期日 4月11日(日) 日帰り
集合 J.R.関ヶ原駅8時20分/三阪鉄道西野原駅8時00分

コース 各集合駅(車)コグルミ谷登山口-谷命水-カククリ峠-白瀬峠-長谷-空池-幻池-コグルミ谷(解放16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千「旗立」
申込み 〒503-0556
岐阜県海津市津島町旗山624の19 山田朋男まで
★定員16名(大坂・京都方面からの電車の方を優先)

先づ関ヶ原駅より車を手に配します)

御津宿の池を中心に四季をじっくり味わう山行の二回目。自然探歩山行です。歩く道は不規則になります。*申し込みハガキに集大図説を記してください。マイカーで参加希望の方はその旨を知らせてください。小雨決行

近畿百名山を登る(第一回) 尼ヶ岳と大河山(一般向き)
期日 4月11日(日) 日帰り
集合 近鉄奈良駅8時30分
コース 名所(バス)下太田生一草土見峠-尼ヶ岳-オタワ-倉持峠-大河山-雄岳-雄岳-枯樹峠-三多気の檜道-杉道(バス)多気駅(解放16時頃)
費用 約5000円(大坂から)
地図 昭文社「赤白・御所」
◎村田智徳 ○則定保天
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智徳まで

第一回目は二山をひとりで歩き三多気の檜道を見ます。*新ハイランドの「近畿百名山」は本誌の号44「35」ページに掲載。小雨決行

鈴鹿を歩く(1) 皇仙山西園遊覧(距離向き)
期日 4月11日(日) 日帰り
集合 河内線「河内風車」の手前寺院(解放)8時30分

コース 寺院(解放)皇仙山-今畑登山口-皇仙山-近江御所-南園遊覧-皇仙山-長瀬峠-椋山-お虎ヶ池-由道-仁坂道-日問台-沖ふき峠-落合-今畑登山口(解放)
費用 交通費各自
地図 昭文社「津波・伊吹・琵琶湖」
◎吉野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
フクジヤウが咲き乱れる花園の西園遊覧を登り、旧道仁坂の道を歩きます。雨天中止

☆平日水曜ハイク20 野城・赤坂山から三回山(一般向き)
期日 4月14日(日) 日帰り
集合 京都駅西口のりば「時37分」に電車乗車

コース 京都駅(電車)マキノ駅(バス)マキノ高原-スチーラー-獅子ヶ滝登山口-栗駒峠-赤坂山-明王-赤一三回山-出羽峠-白谷バス停(解放)

費用 約3000円(京都から)
地図 昭文社「白谷」
◎湯浅治男 ○青木一雄
申込み 〒600-1136
京都市川西町1の18の20
湯浅治男まで
登り始めは急ですが、たくさん花が見られるといえます。白谷には小さい遊覧茶室があります。小雨決行

城陽遊歩山行33 東海自然歩道を歩く(11回) 新ハイランド(一般向き)
期日 4月18日(日) 日帰り
集合 京阪宇治駅8時15分
コース 宇治駅(バス)湯原谷-赤沼神社-赤沼峠-高橋-白谷林道分岐-椋山-白谷林道分岐-椋之口(バス)京阪宇治駅(解放)

地図 2万5千「宇治・明石・田之・笠原山」
◎塚元一彦 ○中村 登
申込み 〒566-0008
大阪市城東区豊田4の14の9の901 塚元一彦まで
★定員30名

駅前の一等三角点から周囲の山並みが望めます。下山路に東海自然歩道をとおり、地形図とコンパスの使い方を勉強します。初心者歓迎。*シルバート型コンパスと指定の地形図を持参してください。雨天中止

湖東・津田山(一般向き)
期日 4月18日(日) 日帰り
集合 J.R.名古屋駅中央改札口7時35分/近江八幡駅前8時30分
コース 近江八幡駅(バス)国民休暇村-津田山-長瀬寺-直江八幡駅(解放16時30分頃)・(車)名古屋駅(解放16時頃)
費用 約4300円(名古屋から)
地図 2万5千「津島・近江八幡」
◎小山良春

申込み 〒448-0002
刈谷市一里山町一里山50
の3 小出辰春まで

北良山系(徳島)を尻ながらの
ハイキングコースです。*申し込
みハガキに集客取を明記してくだ
さい。雨天中止

花の子ルンルン②
鈴鹿・幻の霊仙寺境内へ

期日 4月18日(日) 日帰り
集合 配々井上町三・いぼり
地蔵坊(朝8時00分)

コース いぼり地蔵坊(車)
谷山谷登山口→一の谷
那智院根 霊仙寺百鬼
井戸ヶ池→谷山谷登山口
(雷) いぼり地蔵坊
(朝8時00分)

費用 交通費各自
地図 昭文社「霊仙・伊吹・
藤原」

係 徳井克祐 ○大村貞秀
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群山の10
新ハイキング関西まで

*マイカー山行
大君ヶ池の南の山脈で、ほとん
ど知られていない山を歩きます。
(3日・4日)51ペーシ参加
雨天中止

申込み 〒448-0002
刈谷市一里山町一里山50
の3 小出辰春まで

北良山系(徳島)を尻ながらの
ハイキングコースです。*申し込
みハガキに集客取を明記してくだ
さい。雨天中止

花の子ルンルン②
鈴鹿・幻の霊仙寺境内へ

期日 4月18日(日) 日帰り
集合 配々井上町三・いぼり
地蔵坊(朝8時00分)

コース いぼり地蔵坊(車)
谷山谷登山口→一の谷
那智院根 霊仙寺百鬼
井戸ヶ池→谷山谷登山口
(雷) いぼり地蔵坊
(朝8時00分)

費用 交通費各自
地図 昭文社「霊仙・伊吹・
藤原」

係 徳井克祐 ○大村貞秀
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群山の10
新ハイキング関西まで

*マイカー山行
大君ヶ池の南の山脈で、ほとん
ど知られていない山を歩きます。
(3日・4日)51ペーシ参加
雨天中止

申込み 〒448-0002
刈谷市一里山町一里山50
の3 小出辰春まで

北良山系(徳島)を尻ながらの
ハイキングコースです。*申し込
みハガキに集客取を明記してくだ
さい。雨天中止

花の子ルンルン②
鈴鹿・幻の霊仙寺境内へ

平日本陣ハイク路
北山・井ノ口山から片戻山
(中級向き)

期日 4月22日(日) 日帰り
集合 出町神鉄京福バスのりば
?時40分

コース 出町駅(バス) 菅原町
一衣橋 井ノ口山→ナ
ベ谷峠 片戻山→湯船谷
一衣橋(バス) 北大路
駅(解散) 出町駅

費用 約3500円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 前中 製 ○米貝周二
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群山の10
新ハイキング関西まで

コースにはお日当たりの巨大杉群
やシヤクナゲの古木と同様にクワ
ウチワが生えています。いつ
までも続く息事なイワウチワの緑は
北山一、もしかししたる日本一、
ロマンがあります。雨天中止

伊吹北尾尾自然観察ハイク4
美濃・伊吹北尾尾(一般向き)

期日 4月24日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅より時40分
コース 大垣駅(バス) 国見村
国見池→大光山→御膳野

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群山の10
新ハイキング関西まで

申込み 〒448-0002
刈谷市一里山町一里山50
の3 小出辰春まで

北良山系(徳島)を尻ながらの
ハイキングコースです。*申し込
みハガキに集客取を明記してくだ
さい。雨天中止

花の子ルンルン②
鈴鹿・幻の霊仙寺境内へ

期日 4月22日(日) 日帰り
集合 出町神鉄京福バスのりば
?時40分

コース 出町駅(バス) 菅原町
一衣橋 井ノ口山→ナ
ベ谷峠 片戻山→湯船谷
一衣橋(バス) 北大路
駅(解散) 出町駅

費用 約3500円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 前中 製 ○米貝周二
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群山の10
新ハイキング関西まで

コースにはお日当たりの巨大杉群
やシヤクナゲの古木と同様にクワ
ウチワが生えています。いつ
までも続く息事なイワウチワの緑は
北山一、もしかししたる日本一、
ロマンがあります。雨天中止

伊吹北尾尾自然観察ハイク4
美濃・伊吹北尾尾(一般向き)

期日 4月24日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅より時40分
コース 大垣駅(バス) 国見村
国見池→大光山→御膳野

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群山の10
新ハイキング関西まで

申込み 〒448-0002
刈谷市一里山町一里山50
の3 小出辰春まで

一徳島ヶ原(遊文)さま
一石公函(バス) 大垣駅
約3500円(大垣駅か
ら貸切バス代等)

期日 4月25日(日) 25日帰
1泊2日

コース (2日) 大津駅(バス)
一里野湯温泉(バス) フナオ
自然観察(バス) 飯沼池
(25日) 宿舎→中吉温泉
所→フナオ山(往復バス)
大津駅(バス) 大津駅(解散)

申込み 〒504-0828
各務原市藤原町1の
19の5 齋藤守康まで

第4回は後述の足根にスプリ
ングエフェラル(春の妖精)と
呼ばれる花たちを求めて歩きます。
自然の観察と写真撮影に伴う不規
則な歩き方がある。雨天中止

白山一里野・フナオ山
(やや初級向き)

期日 4月25日(日) 25日帰
1泊2日

コース (2日) 大津駅(バス)
一里野湯温泉(バス) フナオ
自然観察(バス) 飯沼池
(25日) 宿舎→中吉温泉
所→フナオ山(往復バス)
大津駅(バス) 大津駅(解散)

申込み 〒504-0828
各務原市藤原町1の
19の5 齋藤守康まで

申込み 〒448-0002
刈谷市一里山町一里山50
の3 小出辰春まで

北良山系(徳島)を尻ながらの
ハイキングコースです。*申し込
みハガキに集客取を明記してくだ
さい。雨天中止

花の子ルンルン②
鈴鹿・幻の霊仙寺境内へ

期日 4月25日(日) 日帰り
集合 大君ヶ池登山口ボックス周
辺より時40分

コース 大君ヶ池→茶野→飯沼池
→大君ヶ池(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「霊仙・伊吹・
藤原」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群山の10
新ハイキング関西まで

申込み 〒448-0002
刈谷市一里山町一里山50
の3 小出辰春まで

北良山系(徳島)を尻ながらの
ハイキングコースです。*申し込
みハガキに集客取を明記してくだ
さい。雨天中止

宿泊 国営常盤(白山一里野往
費用 約3000円(バス代・
宿泊費等)

期日 4月26日(日) 日帰り
集合 大君ヶ池登山口ボックス周
辺より時40分

コース 大君ヶ池→茶野→飯沼池
→大君ヶ池(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「霊仙・伊吹・
藤原」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群山の10
新ハイキング関西まで

*定員20名(会費に限る)

申込み 〒448-0002
刈谷市一里山町一里山50
の3 小出辰春まで

北良山系(徳島)を尻ながらの
ハイキングコースです。*申し込
みハガキに集客取を明記してくだ
さい。雨天中止

花の子ルンルン②
鈴鹿・幻の霊仙寺境内へ

期日 4月26日(日) 日帰り
集合 大君ヶ池登山口ボックス周
辺より時40分

コース 大君ヶ池→茶野→飯沼池
→大君ヶ池(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「霊仙・伊吹・
藤原」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群山の10
新ハイキング関西まで

申込み 〒448-0002
刈谷市一里山町一里山50
の3 小出辰春まで

北良山系(徳島)を尻ながらの
ハイキングコースです。*申し込
みハガキに集客取を明記してくだ
さい。雨天中止

花の子ルンルン②
鈴鹿・幻の霊仙寺境内へ

期日 4月26日(日) 日帰り
集合 JR新大阪駅①
番線のりばより時40分(北
近畿1号に乗り)

コース (2日) 新大阪駅(乗車)
八尾駅(バス) 鉢伏→鉢
伏山宮跡(散策) 宿舎→朝
日山の麓(池)

費用 約3000円(宿泊代・
交通費)

申込み 〒448-0002
刈谷市一里山町一里山50
の3 小出辰春まで

地区 昭文社「水ノ山・鉢伏」

係 昭文社
中込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田賢哉まで

自然観察山行26

飛騨・雲谷山と川上岳
(中級向き)
期日 5月3日(祝)〜4日(祝)
1泊2日

集合 (3日) JR岐阜駅8時
50分

コース (3日) 岐阜駅(バス)
雲谷山林道終点登山口〜
雲谷山(湖回りコース・パ
ス) 萩原町(宿)
(4日) 萩原町(バス)
上之田〜林道登山口〜
16〜17川上岳(往
復コース) 上之田(バス)
岐阜駅(解散)

費用 約17000円(岐阜駅
から貸切バス・宿泊代等
5万以下) 岐阜・三日

町 昭文社
中込み 〒504-0828
名務原市蘇原町雨野1の
19の5 鷺見守郎まで
*定員20名(会費に限り)

豊かな自然林とすぐれたアルプ
ス型舞台の飛騨の1山を歩きます。
雨天決行

新ハイ特別企画

北沢登山隊と
フイヨルドハイキング(一般向き)
期日 6月14日〜25日(祝)
11泊12日

コース 成田〜スタンパーガー
(2泊) 二オスロ(3泊)
1オートンハイメン園
立大湖〜イエンテスハイ
ム(2泊) イエムルプー
ム(2泊) シュビターシュ
トゥーレン〜北沢登山隊
登山及びハイキング(2
泊) トレレハメルルオ
スロ(2泊) 二(橋中泊)
二成田

費用 約4万8千円(会費)
中込み 〒330-0038
大宮市野原町4の87の1

高橋生雄(係)まで

*3月31日までに
成田駅以外に大阪発の出発もで
きます。詳細案内あり。別途説明
会開催。問い合わせにも応じます。

新ハイ特別企画

オーストリア・チロルと
スイス・ベルニナアルプス
ハイキング8日間(一般向き)
期日 7月8日(祝)〜15日(祝)
現地6泊8日間
出発 7月8日午前/関西国際
空港から

日程
1日目 関空〜ミューンヘン(バス)
オーバークルグル(宿)
2日目 オーバークルグル〜ホー
エムトローントキース
水河1.ジェーンヴァイス
ヒュッテ〜オーバークル
グル(宿)

3日目 オーバークルグル(バス)
リヒテンシュタイン(市
内観光・バス) マイエン
フェルト(湖回りハイキン
グ・バス) グワース(宿)
グワース〜セルティック
セルティック〜クワ
クワ

5日目 シュエム(宿)
ケッスル小屋〜ベルギェ
ン村(ダウンス(宿)
6日目 ダウンス(水浴場)
アンデルマツト(バス) チュー
リッヒ(宿)
7日目 チューリッヒ〜(機中
宿) 関空へ
8日目 関西国際空港午前着
費用 会員価格 38万8千円
会員外は 34万8千円
中込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング倶楽部まで
*4月20日までに

講習会 6月5日(祝)にて
(主催・問い合わせ 近畿日本ツ
リスト朝大阪海外旅行支店/担当
森井かおる・森井まで
TEL06(6448) 8955
ベストシーズンにゆつたりとし
た日程で、チロル最奥の村・小助
物の楽園オーバークルグル、ハイ
ジの里マイエンフェルトを訪ね、
グワースでのハイキングを楽しむ
山小屋に泊まる。水河村にも乗
ります。係のほかには乗員も同行
し、安心して山行できます。現地
登山ガイドも同行。

山行報告
(11・12月)
登山ハイキングクラブ関西



定年・住原山と回見山

11月1日(祝) 晴れ
近畿自然歩道集会B・45〜55(バス)
長野9・42〜10・06(急登)12・
11・05(住原山)12・06(急登)13・
35(回見山)15・15(急登)15・55
1クマタラ14・10(急登)15・10(急登)16・
40(急登)16・16(急登)16・16(急登)16・
50(急登)
近畿自然歩道集会から回見山を見て、
履道のすばらしい住原山から回見
山の雄姿を歩いた。回見山の山頂
は360度の大展望、他のサーク
ルと違ってなにより清々だった。
(参加者) 櫻井孝子 吉藤孝次
鈴木 庸川 上久隆 森岡昌義
河辺敬男 村上正 岡本孝子
立川郁夫 山本京子 川中 保
入江武史 岩崎孝子 緒方由子
徳田暢子 岡崎隆雄 中尾美穂子
木村 豊 ○司会 真 計20名

湖北・己高山

11月3日(祝) 晴れ
JR長浜駅集合8・40〜45(バス)
古橋己高尾9・15〜30(中谷林道)
登り口9・50〜55(八尾尾)10・50
11・00(鶴尾寺跡)11・40(急登)
12・40(己高山)13・00〜10(急登)
15(中谷林道)14・45(古橋)
16(急登)16・10〜14(バス)長浜駅
16・30(解散)
近い紅葉もさくさく色づき始め、
湖北の山は秋意濃く、鶴尾寺跡で
くつろいでから己高山に登った。
(参加者) 河辺隆雄 高村孝太郎
寺田久吉 近江孝子 日高中雄
藤本紀子 入江武史 山崎孝子
中尾美穂子 真村浩一 田中まゆ子
前山昭子 田中 明 中村英彦
秋田博雄 真田明子 飯田由美子
園部隆雄 大越清栄 本間 隆
木藤孝子 竹井 武 田和代代
松本 博 久子 水藤孝美
江村孝子 菅原孝康 岡田美実
中村智子 藤井孝子 砂原孝子
尾野内東洋明 松村孝男
田中昭子 原田 弘 安谷正徳
江 隆子 小林 隆 谷口文子
小原 隆子 森 隆 田中孝子
藤田孝子 竹内正三 北山山子

柳 礼子 ○則定保夫

①村田賢哉 (計49名)
東海自然歩道を歩く(9回)
吾羽山から石山寺 (道元宗山行31)
11月8日(祝) 晴れ
京阪大谷駅8・51集合9・35〜
吾羽山11・00(急登)12・30(パ
ラマータ)13・43(急登)14・50(急登)
13・07〜10(林道)13・27〜
40(急登)14・40〜50(京阪石山
寺)15・30(解散)
林道に恵まれ、京阪大谷駅近く
の柳神社境内の一等茶点亭から
スタート。地形図の読み方とコン
パスの使い方を学習しながら歩き、
吾羽山頂上で山頂回定のレッスン
をした。
(参加者) 藤田 晃 甲木能子
倉橋純一 櫻井孝子 吉田孝子
岡 町子 桂原孝子 下川和子
山元 武 徳永英雄 竹古田文子
岡野英子 村井 武 加藤孝子
内本良子 岸本美実 高木 西
坂口直司 藤 友子 小川靖美
宮崎孝成 戸倉文子 柴本いすゞ
津井洋子 上原信枝 林 陽子
○田中三郎子 ○中村 隆
○坂元一彦 (計20名)

雨之岳(鈴鹿を歩く)55

11月6日(祝) 晴れ
磯辺谷口林道入口8・35〜シヤの
大木9・40〜原宿登り口9・50〜
坂巻のコバ11・00(急登)12・30(急登)
13・11・20(雨之岳)11・40(急
登)12・25(雨之岳)12・35(急
登)12・50〜13・00(急登)13・10〜
磯辺谷口15・30(解散)
秋晴れのもと、谷筋の紅葉を楽
しみながら西尾尾に取りつくこと
な登りが続いた。山頂に近づくと、
つれ、強烈なチヤおとさなる。奥
ノ畑谷でこの谷の主ともいえるマ
スナゴの巨木を一本発見した。
(参加者) 中山昭史 山田隆三
小島昭光 小西博雄 櫻田勝利
神野孝允 谷 久雄 城戸浩幸
信田恒成 小原孝吉 太田博義
鈴木 庸 守 岡本孝子
水谷鉄治 吉田隆一 磯部 純
水谷俊之 和田昭四 石田昌雄
西田和幸 三上伸夫 津田隆雄
池田美実 小林 栄 筒井洋治
○山本久雄 ○司会 明(計20名)
主催・磯波マ希
11月8日(祝) 霧りのち晴れ

JR大垣駅 8・40 (電車) 近鉄揖
斐駅 9・05 (タクシー) 徳盛寺駐
車場 9・35 (バス) 徳盛寺 10・10
林道合流点 11・05 途中 12・30
(バス) 13・00 妙法ヶ丘 14・15
一谷 飯山 徳盛寺 15・10 16・05
(タクシー) 近鉄揖斐駅 16・20
36 (電車) 大垣駅 17・05 (解散)

美濃の二つの名刹 徳盛寺と華
厳寺を結ぶ約9キロの尾根歩き。紅
葉しながら花を咲かせるマルバノ
ハ(ヘニマンサク)を楽しんで、
徳盛寺では舍利仏(ミイラ)を拜
観した。

(参加者) 近江秀子 落合ひろ子
川口陽美 奥比呂美 砂原恵美子
田中 明 田中穂子 伴信昌子
深坂 寛 深坂昌子 駒場たか子
本間 隆 三ツ井千鶴子
森 晴代 森川信之 光川二美子
山田郁代 若松初子 森本真智子
藤田和洋 ◎加藤元彦
◎鷺見守康 (計22名)

25 (バス) 大塚峠 10・35 12・21 14
11・00 (バス) 12・00 吉野谷山
12・25 30 1行山 14・20 35
東山 13・55 1明後山 14・20 30
朽木学校前 14・55 15・15 (バス)
安曇川駅 15・35 (解散)

西の上村の尾根を眺めながら、一
面の黄葉と落ち葉のなか、道を探
りながらのんびり歩きました。
(参加者) 大橋宗明 真島百合子
芝野泰明 和宗元 一砂原恵美子
園松隆雄 岸本節夫 久田美紗子
大島光雄 辻 富子 武部美美子
川村英雄 木下照子 水谷美也子
川原隆彦 平 幸子 竹内喜久子
城戸清幸 松山みつ 川端敦子
秋田英穂 兩 寛子 山本京子
小嶋和子 中村 保 竹島淳郎
藤井益子 古川裕子 前田政雅
安良陽子 伊藤穂子 佐藤妙子
◎善井恒夫 ◎川上友堅 (計21名)

北山・岩谷峠から三回
11月12日(木) 曇り
JR安曇川駅 9・00 集合 9・15
(バス) 朽木村古居 10・30 40
岩谷峠 12・05 (昼食) 12・45 三
回峠 13・40 14・00 安曇川 15・

25 (バス) 安曇川駅 16・45
(解散)

紅葉と樺木が混在した森にうっ
すらとガスがかかり、めったに見
られないほどに幻想的な風景だっ
た。山頂から比良連峰が一望でき
た。

(参加者) 今西光男 砂原恵美子
近江秀子 北川明子 木村千代子
乙峰龍雄 水見剛二 水見真砂子
北村 正 北村 相 松本いつ子
古川穂子 加藤元彦 山本千鶴子
湯浅康夫 園松隆雄 高岡信男
吉田祥彦 石原君子 高木 晋
藤田良子 崎田民彦 木下照子
川端敦子 秋田穂子 馬籠忠男
前田政雅 尾見穂子 伊藤順子
市野博文 松村穂子 竹田英英
栗生 哲 ◎川上友堅 (計35名)
◎前中 義

尾張・道徳山と弥勒山
11月15日(日) 晴れ
JR名古屋駅 8・10 (電車) 定光
寺駅 8・50 1外之原 10・10 1
05 11・00 道徳山 11・40 (昼食)
12・25 1太谷 12・40 弥勒山 13・
00 1内津津 13・55 1内津津山 14・
10 1JR高蔵寺駅 15・20 (解散)
各古居近郊の山なので道は整備

されてる。バスの時間も気にな
けないうのんびり歩けた。

(参加者) 山田明子 山田明男
今岡民代 徳田成子 森 晴代
飯田由香 飯田成志 飯田由美子
◎藤田和洋 ◎小山辰春 (計10名)

沢池から京見峠
(京都北山歩き76)
11月17日(日) ◎今西光男
*西天のため中止しました。

興秩父・雲取山
11月21日(土) 2泊3日
1月1日(日) 晴れ 15次徳盛寺 9・
30 (バス) 秩父湖 徳盛寺 17・
30 (泊)

12日(日) 晴れのち曇り 尾根 7・
00 (バス) 三神神社駐車場 8・20
1妙法ヶ丘 9・20 30 徳盛寺 峠
10・30 40 1前山山 12・00 (昼
食) 12・40 1飯取山 14・30 (泊)
(23日) 晴れ 雲取山 15・55
1飯取山 16・25 45 1五十人峠 7・
30 8・00 1七ツ石山 8・30 1
沢 11・20 (バス) 大津駅 20・50
(解散)

快晴の空の下、紅葉を眺めなが
ら奥の院の岩壁に立つと、眼前に
河津、その後ろに白銀の滝間、遠

く赤城・谷間と上冠のパノラマが
広がった。22日午後から初雪とな
り、翌23日は満天の星の下に起床
し、雲取山の雲取山頂で朝食を
見た。陽が昇ると樹木が輝き、蒼
空のなかをダイヤモンドがストガ
きらめいた。前方に富士が南アを
従えてひとまわり高かった。

(参加者) 斎藤 隆 斎藤妙子
森 昭代 横井穂子 速水 保
今西光男 武部 剛 武部美美子
安倉正隆 藤井幸生 岡田恵美子
原 文子 木村光江 田中 茂
本橋美夫 永井哲男 奥比呂美
青山健吾 中谷美奈 光川二美子
加藤元彦 中村穂子 三浦弘幸
若松初子 船越利明 船越みよ子
岸本京子 岩原恵子 岸本京子
柴田 敏 多鶴久子 北山田穂子
大東美穂 橋爪恵子 石田真由美
菅田三子 吉田 敏 高下陽子
山中光子 ◎田田 昇 (計21名)
◎田田 昇

伊勢・野ヶヶ峠 (三重の山岳)
11月20日(日) 晴れ
四日市駅 9時 10時 11時 9・30
(バス) 津浦橋・奥出羽 10・10 1林
道合流点 山口 10・40 1水鏡 11・15
1飯取山 11時 12・10 (解散)

12・50 獅子ヶ岳 12・55 1穂線分
岐 13・40 1林道合流点 14・10 1奥山
橋 15・05 (解散)

天気に恵まれ、猪ヶ鼻での展望
に大満足。五ヶ新滝、太平洋・伊
勢湾が眼下に、知多半島も遠望し
きた。静かな晩秋の山行を堪能し
た。

(参加者) 古橋孝次 本村好和
河原良尚 荒井寛子 岡本美千子
平 龍一 幸子 川本 隆
人見北信 森 晴代 西田美津子
山本穂子 伊藤隆二 藤井みづゑ
◎新井孝夫 ◎原美五 (計16名)
◎原美五

伊吹北山探検
(伊吹北山探検自然観察ハイキング)
11月22日(日) 晴れのち小雨
JR大垣駅 8・40 (バス) 国見峠
10・00 10 1徳助平 11・20 1国見
岳 11・40 1大谷山 12・15 (昼食)
13・00 1徳助ヶ原 13・30 1まろ
石 14 16・50 17・15 (バス) 大
垣駅 16・10 (解散)

12月にはあきらしい降雪が北
信は嵐山となり、ノツケギ・タヌ
キ・チン・イノシシ・カモシカな
どのでフィールドラインを楽しませ
した。

(参加者) 伊藤穂子 岡田信雄

小出妙子 川島陽美 落合ひろ子
山田明子 藤原龍雄 橋本かおり
鈴木久子 武村千鶴 林 いく子
夏山春子 横田瑞枝 駒場たか子
三ツ井千鶴子 ◎田中 明
◎鷺見守康 (計17名)
◎鷺見守康

取巻ヶ岳 (鈴屋を歩く60)
11月22日(日) 晴れ
八尾谷橋 8・35 (車) 八尾谷林道
終点 8・50 ヤンコウ谷 9・10
赤坂谷 9・50 徳盛寺 9時 10
10 1飯取山 10・30 1杖取ヶ岳 11・45
1杖取ヶ岳の頂 10・50 (昼食) 11・
50 1中津 13・10 1社務所合流 13・50
1八尾谷林道 14・25 (解散)

赤坂谷は冬花れの美しい樹林が
どこまでも続き、遊歩道を登ると初
雪に変わった。西側の樹林は朝
陽で黄色に輝く桐の花が咲き、
冬の到来を告げていた。徳盛寺頂
の朝の大観望を、そして、くだりの
遊歩道からは眺望でアマンの紅葉
色が展開して見えた。

(参加者) 河合正樹 山田明子
田中穂子 小島照光 小泉末吉
小井 裕 大石哲夫 日野正弘
吉中義之 中川健史 西田和幸
津田隆彦 津田繁美 森澤元博
森澤隆子 三井秋一 磯部 輝

河辺啓男 谷 守 伊藤寛久男
加藤悠道 水谷俊之 城戸勲幸
鈴木 剛 西西甚弘 山本穂子
◎野野 明 (計17名)
◎野野 明

武草峠から三入山・七人山
(落ち葉の雑木林に遊ばせ)
11月26日(日) 晴れ
近鉄飯山の山道駅 8・30 集合 8・
35 (車) 武草峠 9・00 1飯取山 9・
40 1八人山・いいなのコバ 10・40
1飯取山 11時 11時 11時 11時
会 13・40 1七人山 14・00 130
1杖取ヶ岳 15・50 16・10 1杖取ヶ岳 16・
30 (解散) 飯取山の山道駅 16・
30

好天の下、落ち葉の積もる雑木
林で遊歩道を歩きました。七人山で
一服してからヨッコラショと下
山した。(・印名称は私共が勝手
につけて遊んでいる地名です。
(補記)

(参加者) 山田明男 大橋隆夫
吉本美子 井上久子 西田美津子
人見正樹 高原芳彦 伊藤寛久男
森 晴代 水戸英治 神野孝允
野高徳 谷 守 今岡民代
善井恒夫 鈴木 守 小出妙子
樋口 治 ◎木村吉秀 (計20名)
◎木村吉秀

美作・岡山

12月25日(日) 晴れ
JR西明石駅8・20(バス)養野
10・45(電車)龍谷山山口・30(バス)
タム12・30(電車)山田12・50(電車)
13・30(中央線)15・50(山田山)
05(山田線)14・30(休憩舎)15・10
1大津宮原登山口15・30(大津宮原)
大津宮原登山口15・30(大津宮原)
大津宮原登山口15・30(大津宮原)
大津宮原登山口15・30(大津宮原)

北浜・朝霞山(水曜ハイタム)
12月2日(日) 曇りのち晴れ
能勢電鉄山下駅8・28(バス)行
者口9・05(登山口)9・25(行者
山)9・45(朝霞山)10・15(20)
朝霞山10・50(朝霞山)10・55(
朝霞山)11・20(登山)12・00
(谷への分岐)13・00(まがに広
場)13・30(かんぼの宿)13・50(解
散)入浴・忘年会
能勢の山の紅葉 紅葉が美しけれ
た、紅葉で汗を流し、忘年会では
山の話題で楽しんでいます。
(参加者)立川郁夫 高木 晋
大船隆造 木下勝子 高橋きか子
小林 隆 野間英夫 二葉三枝子
高橋妙子 岡本英子 光川三美子
久谷正巳 野間英子 川上久登
山崎みつ 細井和子 岩木いすゞ
竹田英夫 藤田幸子 成川みきお
青谷宗和 山崎三 天野加奈江
妙原美和子 ○真田久子 (計26名)
◎見物列車

寒風峠13・55(橋筋の滝)14・50
15・06(北小松駅)15・25(総歌
午後三時が晴れてきて、橋筋が
ゆっくりと広がりていくさまに目
をみはらした。寒風に耐えて山行だ
たが、グレートは中絶以上かも。
(参加者)加藤元彦 松村泰男
石原君子 大島光雄 川端敏子
中田政雄 前田政雄 青山尚子
中島茂子 今西光男 北川明子
竹島清司 今西光男 北川明子
中村英雄 南 寛子 橋田民彦
飯田良子 海津良夫 伊藤みほる
宮坂敏彦 中谷正一 平 寺子
浦上 明 城戸幸幸 加藤佳彦
藤井洋子 尾野朝子 御田 京
岡松雅子 松村幸子 古川裕子
◎高岡男 ○水戸團一 (計32名)
◎前中級

◎狩野東郷
リョウシ・コザトと
オオジヤレの頭(命脈を歩く)
12月6日(日) 晴れ
寺院広場8・30(奥ノ橋)9・10
リョウシ坂坂付9・30(橋筋)10・
00(リョウシ)10・50(69)
7(狩野)11・20(登山)12・00(コ
ザト)12・50(西岡)13・50
(林道)14・30(登山)15・00(
オオジヤレの頭)16・30(あけん原)
16・10(寺院広場)16・20(解散)
狩野谷から沿りやすいリョウシ
坂を登ると、西むした岩壁に
交わった。シヨウシの岩壁から
は霧山(西岡)が圧倒的なまきり、
ラムで目の前に展開した。
(参加者)山田三三 小島光光
小林 隆 山田明男 小澤栄吉
大石将夫 三井誠一 森澤友晴
森澤敏子 中川博史 加藤元彦
宮本英子 鈴木 浩 藤田敏子
磯部 誠 小川妙子 岡本幸子
池田繁美 池田修造 永戸敏子
水谷俊之 河辺信男 石田良由美
和田四郎 高杉 博 西岡正幸
小林 実 ◎狩野 明(計28名)

美濃・旭山と龍ヶ岳

(自然観察山行)
12月12日(日) 13日(日) 1泊2日
(12日) 晴れ時々曇り
「J」車岐阜
駅9・40(名鉄)岐阜駅9・52
(電車)可児川駅10・47(55)大
瀬登山口11・10(旭山)11・45
(登山)12・50(西山)13・30(石
原登山口)14・20(龍ヶ岳)15・00
(大瀬登山)16・40(電車)龍ヶ岳
センター16・50(解散)
(13日) 晴れ
動物園社センター
7・15(バス)片羽沢合上深部林
道登山口8・35(50)西山9・10
(嵐ヶ原)9・40(10)骨ヶ平
10・35(西原)10・50(登山)12・
00(骨ヶ平)12・20(ふくへの森)登
山口13・00(25)さくさく登山口
20(解散)

(参加者)石田賢一 石原信子
岩崎孝子 狩野東郷 落合ひろ子
武村千鶴 田中忠子 草野智子
田辺孝子 山崎幸子 辻 千恵子
深坂 寛 深坂厚子 三浦弘幸
三井誠一 向田 豊 森川信之
山崎繁美 ○加藤元彦 (計20名)
◎見物列車
新年会山行
薬師峠から大瀬サンパレイ
12月13日(日) 晴れ
出町駅9・00(バス)岩崎橋9・
45(10)50(薬師峠)10・45(岩崎
山)10・50(55)11・00(薬師峠)
11・06(大瀬サンパレイ)11・30
(登山)15・40(送迎バス)地
下鉄北大瀬駅16・40(解散)
初冬の日たまりハイタムで薬師峠
を登って大瀬サンパレイまで歩い
た。忘年会はおいしい焼肉料理で
大いに盛り上がった。
(参加者)寺田久広 大瀬元彦
若松 寛 狩野東郷 長比谷文
若田博子 入江武史 佐田次男
不器重天 田中義雄 田中真知子
秋田博司 山元 誠 森田英代
藤原裕子 山元 誠 今西光男
辻村孝伸 立川郁夫 山崎明男
前田幸子 藤野誠夫 山崎雅雄

退水 保 高木 晋 田中喜英江
大島光雄 堀 久子 岡部邦彦
前田政雄 上田幸子 井ノ口三朗
栗生 哲 竹地隆雄 越田俊男
福井清之 小林 桂 三上正子
◎中西健行 ◎村田豊彦 ◎村田各
(参加者)五ヶ岳
12月13日(日) 晴れ
近鉄桑原駅30(集合)9・35(
近鉄桑原)10・15(三山山)11・40(
笠原山)11・55(登山)12・30(日
笠原山)アゼト味)13・00(車々
路)14・10(25)もろじ味)15・05(
後者の滝)16・00(10)(解散)
日本三名瀑の麓の滝を見てか
ら三山山へ向かう。少し積った雪
と落ち葉の散いた木の間道を滑ら
ないよう、アップダウンを繰り返
した。嵐ヶ原から紅葉を眺めた伊
吹山が照り映えていた。
(参加者)雨本孝雄 山田三三
藤原利三 吉澤久次 森澤元博
藤原孝子 石野孝次 岡本幸子子
前田明子 小林 隆 本間 隆
原 文字 小川妙子 若松孝子
新川 剛代 山田三三 飯田由美子
新川久枝 山田三三 中尾英子
飯田隆夫 岡松雅子 岡田真明
尾野正幸 徳田幸子 鈴 三郎子

山田明男 伊藤明男 田中三郎子
◎岡田信男 ◎小山良春(計28名)
表登山・竜安寺山
12月15日(日) 晴れ
立命館大学前10・00(表登山)10・
20(竜安寺)11・00(登山)11・
45(御堂八十八ヶ所めぐり)仁和
寺13・15(双ヶ丘)13(花園)13・
00(解散)
明け方の雨も止み、山道もそれ
ほど悪くならず落ち葉の多い道を
非いた。一条大滝、仁和寺など
も見て楽しい山行ができました。
(参加者) 柳川武雄 雨本孝雄
山崎みつ 川崎敏子 木が千代子
森 瑞代 根本財哉 前川和佳子
村中幸子 前田政雄 市野博文
伊藤孝子 岡田三郎 吉田英子
安原信子 中尾英子 中尾英子
高橋雅子 名倉信信 名倉マユ子
川下照子 小島和子 藤原孝子
木原昭雄 加藤佳彦 藤原孝子
大瀬雅博 大本久子 中上正代子
藤原誠一 中山英子 坂野隆子
新沼裕子 大島光雄 川上久登
秋田博司 白根孝子 辻 行子
和田昌裕 ◎今西光男 (計21名)

白鹿山・明神山

(鈴鹿を歩く62・志保登山行)
12月20日(日) 晴れ
後援(会場) 8・30(早) 開閉所横
広場 6・45(志保) 閉所入口 9・00(
明神山 10・00(白鹿山) 10・10(
明神山 10・00(林道終点) 11・35(
開閉所横) 11・50(飲食店) 15
14・20(解散)

整備された遠視路に取りつく、
急斜面にはプラスチックの階段が
続いた。そして深く積もった落ち
葉の道、履物に、白鹿山、明神
山とたどると随所で湖東平野と琵琶
湖、そしてまわりの山々の眺望
が大きく開けた。忘年会も盛り上
がり、最後に今年の山行を一本締
めで締めたい。

(参加者) 山田辰三 藤澤元博
鈴木 山 吉本泰之 吉本美保子
池田達彦 池田繁夫 榎野孝允
水戸鉄治 藤部 純 中村健次
和田 守 河辺教男 石田山由美
和田和郎 奥田貞雄 八田浩司
西田幸三 城川清幸 榎原計四
小林 実 山田明男 ○山本久雄
◎若野 明 (計24名)

湖東・太皐坊山
12月23日(日) 晴れ

近江八幡近江鉄道ホーム9時15

集合(9・35(早)市道) 9・
45(阿賀神社) 9・50(10・10(船
岡山万葉公園) 10・15(12(弘道
口) 10・30(岩山) 11(弘道
15(早) 12・30(小島山) 12・45
(箕野山) 太皐坊山 13・50(14・
00(太皐坊山) 14・00(解散)
太郎坊山 15・22(電車) 近江八
幡山 15・35

目だまりの低山ハイクを楽しん
だ。岩場の上からは湖東平野が一
望でき、遠くの方々の眺望も楽し
めた。参加人数が多く、五班に分
かれて歩いた。

(参加者) 寺田久広 向田 豊
近藤 恭 高木忠夫 榎野智雄子
入江武史 森川信之 田中まや子
岩田武士 山田徳子 中村博香子
山元 武 倉橋純二 松本 博
柳川雄雄 芝野肇明 本間 隆
本間繁子 村上賢代 木全正秀
北村 正 藤原 邦 榎本芳雄
湯浅利夫 杉本 隆 竹内喜久子
岸本美英 山岸隆雄 辻 尚子
小川 裕 飯田愛子 東 美智子
佐藤新一 佐藤妙子 井上野子
宮本真幸 宮本悦子 北川世鶴子
馬籠勇男 三井統一 山名正彌
吉野智文 木村紹彦 入江信信

辻村善治 本務夫夫 西田美津子

徳大英雄 岡松義雄 小野しげ子
郷方由子 村井 武 山崎多恵子
和田四郎 布海英夫 村田はる江
田取利明 白田忠子 野里マツヨ
石原 隆 石原治子 三田久子
岡野孝子 林 昭子 川上光郎
網中梅子 青山信子 熊田千夜子
藤井孝子 塩谷孝子 熊田千夜子
秋田福雄 高橋謙治 岸 すみ子
中村英雄 広島洋子 森美智子
若原孝子 木村太郎 相原修紀子
高橋 隆 高橋妙子 家入敏光
家人親子 真田明子 中西五枝
油木 保 和田直樹 渡辺達郎
増田園広 血原智子 石田真由美
若木修二 武部 剛 武部美子
吉田達彦 原真瑠子 吉田ソノ子
大野宏造 佐田次男 井林寿子
星野正弘 井上久子 岩本いすく
内木以子 鈴木 甫 山崎加奈子
堀尾勇敏 木村光江 飯田由美子
降 福子 古川裕子 平 幸子
竹本 至 上坂雄枝 堅田美奈子
吉田美津子 城川清幸 中井ひろみ
重富孝子 若野 明 光川一美子
中野加代子 辻 恵一郎
A班 ○加藤元彦 ◎若野東彦
B班 ○堀 良男 ◎山崎謙治
C班 ○安倉正徳 ◎今西光男

D班 ○則庭隆夫 ◎川上久登

E班 ○比佐徳美 ◎村田智俊
(計134名)
那須ヶ原山・湧平山・紅血岳
(別冬の樹氷、沢り足根に注意)
12月26日(日) 晴れ
JR亀山駅別集合 8・10(車) 鈴
鹿峠万人灯籠(置き車) 8・30(
50(車) 不表谷林道那須ヶ原山登
り口 9・30 那須ヶ原山 10・00(
10(坂下峠) 湧平山 11・50(コバ
12・00(置き車) 12・50(長石山)
紅血岳 14・00(20(大表谷) 林道 15・
00(10(車) 鈴鹿峠万人灯籠 15・
30(解散)
Xマス寒波を期待していたのに
寒太郎さんは来てくれなかった。
ならば、眺望の良い不表谷一周
コースに変更した。しぐれに頼り
近江平野とほろかに霞が鈴鹿の遠
望の上を歩いて、今年最後の山行
を楽しむ。

新ハイキングクラブ関西
入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西
の山」(毎月刊・年6号発行)の
定期購読者を中心としたハイキン
グの会です。

この雑誌は紀行文やコースガイ
ドなどから、関西のハイキングロー
スや山の情報を発信しています。
山の知識を深め、情報豊かで健康
な身体をつくり、自然のなかを歩
く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和
25年発足以来、東京を中心に48年
間も好評のうちに活動してまいり
ました。関西に平成3年発足。8年目
に入りますが、すでにたくさんの方
が加入して活動しています。

会日は当会の山行例会に優先し
て参加できます。この山行例会を
通じて正しい山歩きを、楽しい山
仲間たちと味わいませう。
リーダー(係)はすべて無償の
ボランティア。冬目で切符を買い茶代を
払い、宿泊料もすべてワリカンで
す。
会員には毎号「新ハイキング関
西の山」をお送りします。
四季の自然に魅れながら歩ま

若々しい心と健康をいつまでも持
続するのは素晴らしいことです。
これから始めてみたい人も、すで
にベテランの方もみなさんご入会
いただけます。

入会金 5000円(バツジ代)
年会費 3000円(送料込)
入会の申し込み(随時)はこの
雑誌に挿入の振替用紙をご利用く
ださい。氏名(ふりがな)及び第
一回号からの送本をお忘れずに記
入ください。

なお、定期購読をご希望される
方は会員になっていただきますと、
毎月購読にお手元が届きますので
便利です。
切手5000円分をお送りになれ
ば、「新ハイキング関西の山」見
本誌1冊差しあげます。

山行リーダー募集

リーダーは3ヶ月(1〜3)回程
度の山行例会を計画・実施してい
たいただきます。
雇員のボランティアですが、やりがいも
あり、楽しいものです。経験のある
方や、やってみたいと思われる
方は、新ハイキング関西までご連絡
ください。マネージャー(リーダー)
必携)を送ります。

○新入会員紹介

新しいお仲間のみなさんです。
会費番号38891番から3912
番まで

- 【愛知】 斎藤 寿 江戸利子
南野秀子 チャン・ナムソン
黒田孝夫 山口善江 岡田 汎
【三重】 植村 清 藤堂國男
岩田幸夫 井上 光
【徳島】 中村幸子 志村 洋
天筒 茂 後藤真幸 市川尚英
鈴木輝雄 秋山典章 秋山純代
山本正之
【京都】 斎藤元一 岩下祐夫
堀 謙子 和田裕子 豊島 正
森殿 幸 鈴木正起 中村吉郎
杉原正夫
【大阪】 浜 正清 阿部久恵
平良一郎 平良孝子 渡部智子
【奈良】 三好清雄 小川富士雄
山形茂実 西野幸夫 西野加代子
並木孝子
【兵庫】 遠藤 毅 大西昌代春
大西幸代 林 昭一 林 勢伊子
酒井 力 永井主税 山ト智恵子
濱田俊和 山下小夜子
市米マヤ子
【広島】 久保田智雄子
(53名)

訂正とお問い合わせ

44号(新巻)15ページ上段の表
題「近江富士灯籠」の読みは「ら
いさん」が正しい。
44号(新巻)26ページ上段11行
「23日(日)「若狭正吉さん」は「伊
藤正一さん」が正しい。
44号(新巻)58ページ上段9行
目「……大観太神々職手」は「……
天頭太神々職手」が正しい。
44号(新巻)81ページ上段24
行目「小島昭正」さんは「小島照
光」が正しい。(編輯委員)

本誌のバックナンバー
大阪府田のハービスプラザ
3Fの「トラベルギャラリー」
旅の本棚「ハービス大阪店」に全
号を寄贈しています。

毎月お求めになりたい方へ
前もって書店に毎月ほしい
と「購読予約」をされますと、
どこの書店でもお買い求めい
ただけます。購読月の20日ころ
「毎月」の発売です。